

昭和三十九年六月

# 四日市市議会会議録目次

才一号（六月十八日）

ページ

会議録署名議員の指名

一六

会期の決定について

一六

故早川和一君に対する追悼の辞

一六

昭和三十八年度四日市市水道事業会計予算の繰越について

一七

昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才二号）その他について

議案説明

一八

固定資産評価審査委員会委員の選任について

議案説明

二二

才二号（六月二十二日）

一般質問

藤谷祐一君

新潟地震の災害を省みて四日市市の防災についてその他

三二

加藤定男君

公害問題についてその他

七二

山中忠一君

道路問題その他について

八三

山本栄一君

当市の非常時防災対策についてその他

八六

伊藤太郎君

都市下水問題その他について

九六

訓覇也男君

公害問題についてその他

一〇四

前川辰男君

公害問題その他について

一四〇

才三号（六月二十三日）

一般質問

酒井昌一君

災害対策についてその他

一六〇

大島武雄君

公害問題その他について

一九四

北村与市君

新潟地震に関連し、四日市市地盤沈下対策について

二二一

昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才二号）その他について

質疑、討論、議決

二三一

町の区域及び名称の変更についてその他

質疑、討論、議決

二三二

土地の取得について

質疑、討論、議決

二三三

市道路線認定についてその他

質疑、討論、議決

二三四

昭和三十九年六月十五日に在職する職員に支給する期末手当の特例に関する条例の制定についてその他

議案説明：質疑、討論、議決

二三五

沖繩の祖国日本への復帰に関する決議について

議案説明：質疑、討論、議決

二四〇

請願書審査結果報告

採否決定

二四一

昭和三十九年六月十八日

四日市市議会议定例会會議録（第一号）

四日市市議會

昭和三十一年六月

四日市市議会议定例會議事速記録 才一號

○昭和三十一年六月十八日（木曜日）午後二時三分開會

○出席議員（三十六名）

宮	鈴	伊	志	前	喜	岩	坪	安	藤	錦	北	伊	酒	米
崎	木	藤	積	川	多	田	井	垣	谷		村	藤	井	田
春	愛	太	政	辰	久	妙	祐	安	与	宗	昌			好
吉	次	郎	一	男	等	雄	子	勇	一	吉	市	一	一	兼
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	速
														記

○議案説明のため出席した者（二十五名）

市	助	助	収	税	産	厚	衛
長	役	役	入	務	業	生	生
平	二	庄	川	園	芝	井	山
田	宮	崎	浦	和	敬	清	英
佐	良	祐	己	太	三	郎	郎
矩	力	一	男	郎	君	君	君

○欠席議員（二名）

味	山	増	渡
岡	本	山	部
一	栄	英	権
郎	一	一	太
君	君	君	郎

  

橋	山
詰	中
興	忠
隆	一
君	君

坂	田	中	野	日	荒	矢	伊	須	大	前	加	高	笠	服	永	谷	訓
上	村	島	崎	比	木	田	藤	藤	島	川	藤	橋	田	部	田	口	霸
長	末	忠	貞	義	武	繁	泰	總	武	宗	定	伊	七	昌	利	專	也
十	松	勝	芳	平	治	郎	一	太	雄	雄	男	祐	衛	弘	郎	九	男
郎	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

土木部長	城井義夫
建設部長	鬼頭鉄郎
秘書課長	阿南輝彦
人事課長	佐々木晃精
総務課長	天野正春
財務課長	伊藤涼一
管財課長	杉本治芳
市民課長	喜田喜重郎
下水道課長	天野助春

消防長	竹内鉄雄
消防次長	金田妙弘
総務課長	大倉尚明

市立病院事務長 三輪喜代司 君

水道局長	岩野見齊
技術部長	山本文雄

総務課長 滝 伝之助 君

教育長 山本軍一 君

○市議会事務局（四名）

事務局長	菊地英也
議事係長	小坂靖
主事	佐藤正俊
事務試験補	芳野孝君

○議事日程

昭和三十九年六月十八日（木）午後二時開会

才一 会議録署名議員の指名

才二 会期の決定について

才三 故早川和一君に対する追悼の辞

才四 報告才一 号 昭和三十八年度四日市市水道事業会計予算の

繰越について……………報告

才五 議案才一〇三号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（

オ二号)……………議案説明

- オ六 議案オ一〇四号 四日市・ロングビーチ都市提携委員会条例の制定について…………… //
- オ七 議案オ一〇五号 四日市市職員給与条例等の一部改正について…………… //
- オ八 議案オ一〇六号 四日市市職員の旅費に関する条例の一部改正について…………… //
- オ九 議案オ一〇七号 四日市市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の制定について…………… //
- オ一〇 議案オ一〇八号 町の区域及び名称の変更について…………… //
- オ一一 議案オ一〇九号 住居表示整備事業を実施する当市における市街地の区域及び当該区域における住居表示の方法について…………… //
- オ一二 議案オ一一〇号 土地の取得について…………… //
- オ一三 議案オ一一一号 市道路線の認定について…………… //
- オ一四 議案オ一一二号 市道路線廃止について…………… //
- オ一五 議案オ一一三号 市道路線の一部廃止について…………… //
- オ一六 議案オ一一四号 固定資産評価審査委員会の選任について…………… //
- ……………同意

○本日の会議に付した事件

- オ一 会議録署名議員の指名
- オ二 会期の決定について
- オ三 故早川和一君に対する追悼の辞
- オ四 報告オ一 号 昭和三十八年度四日市市水道事業会計予算の繰越について
- オ五 議案オ一〇三号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算(オ二号)
- オ六 議案オ一〇四号 四日市・ロングビーチ都市提携委員会条例の制定について
- オ七 議案オ一〇五号 四日市市職員給与条例等の一部改正について
- オ八 議案オ一〇六号 四日市市職員の旅費に関する条例の一部改正について
- オ九 議案オ一〇七号 四日市市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の制定について
- オ一〇 議案オ一〇八号 町の区域及び名称の変更について
- オ一一 議案オ一〇九号 住居表示整備事業を実施する当市における市街地の区域及び当該区域における住居表示の方法について
- オ一二 議案オ一一〇号 土地の取得について
- オ一三 議案オ一一一号 市道路線の認定について
- オ一四 議案オ一一二号 市道路線廃止について
- オ一五 議案オ一一三号 市道路線の一部廃止について
- オ一六 議案オ一一四号 固定資産評価審査委員会の選任について

○議長（錦安吉君） ただいまより昭和三十九年六月、四日市市議会定例会を開会いたします。  
本日の出席議員数は、三十四名であります。

本日の議事につきましては、議事日程才一号により取り進めたいと思いますから、よろしくお願いいたします。  
要求いたしておきました議事説明者の氏名は、お手元に配布いたしました要求書写のとおりであります。  
会議に先立ちまして去る五月十二日、岐阜市において開催されました才四十七回東海市議会議長会において高橋議員が十年以上の勤続議員として、また、五月二十日、東京都において開催されました才四十回全国市議会議長会総会において永田議員が十五年以上の勤続議員としてそれぞれ表彰されましたので、ただいまから表彰状の伝達を行います。

高橋議員。永田議員。

〔高橋伊祐君登壇〕

○議長（錦安吉君）

表 彰 状

四日市市議會議員 高 橋 伊 祐 殿

貴下は市議會議員の職にあること十年、よく市政振興と地方自治発展のため尽され、その功績はまことに顕著であります。

よって、本会表彰規程により記念品を贈り、これを表彰します。

昭和三十九年五月十二日

東海市議会議長会会長  
岐阜市議會議長

大 野 正 雄

〔表彰状授与〕（拍手）

〔永田利一郎君登壇〕

○議長（錦安吉君）

表 彰 状

四日市市議會議員 永 田 利 一 郎 殿

あなたは市議會議員として十五年、市政の振興に勤められ、その功績とくに著しいものがありますので、才四十回定期総会にあたり、本会表彰規程により記念品を贈呈してこれを表彰いたします。

昭和三十九年五月二十日

全国市議会議長会会長  
名古屋市議會議長

大 西 泰 助

〔表彰状授与〕（拍手）

○議長（錦安吉君） 次に、一昨日発生いたしました新潟地震によって被害をこうむられた地域の方々に對しまして心からお見舞い申し上げますとともに、すみやかなる復旧を祈念いたすものであります。

つきましては、昨日、お見舞の電報を新潟市ほか被災十八市に発信いたしましたから御報告申し上げます。

○議長（錦安吉君） それでは、ただいまより会議を開きます。

日程才一、会議録署名議員の指名を行ないます。

本定例会の会議録署名議員は、伊藤泰一議員、大島議員にお願いすることにいたします。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才二、会期の決定についてを議題といたします。

今期定例会の会期は、本日より六月二十三日までの六日間といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって会期は、六日間と決定いたしました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才三、故議員早川和一君に対する追悼の辞。

議員早川和一君は、去る六月七日逝去されました。まことに痛惜哀悼の至りにたえません。ここに御冥福を祈りまして、黙禱をいたしたいと存じます。御起立を願います。

「全員起立」「黙禱」

○議長（錦安吉君） ありがとうございます。

伊藤泰一議員から発言を求められておりますので、この際発言を願います。

伊藤議員どうぞ。

「伊藤泰一君登壇」

○伊藤泰一君 早川議員に対する追悼の辞を申し上げます。

議員早川和一君には、突然脳出血のため倒れられ、あらゆる手当のいかにもなく逝去されました。時あたかも故山本

議長の一周年忌を前にした六月七日早朝でありまして、あまりの突然さに、早川君の死を信ずることができなかったであります。

ここに私は、議員一同を代表しつつしんで哀悼のことばを申し述べますとともに、たび重なる不幸に憤りさえ感ずるものであります。

早川君は、当年六十才。中央大学法学部を卒業後、伊勢電鉄株式会社をはじめ戦後は中日本建設株式会社の監査役等、実業界に身を投ぜられ活躍されたのであります。

昭和三十年、本市議会に席を占められ、以来当選三回。十年近くの長きにわたって教育民生方面にその豊かな教養と、誠実な政治態度を示めされました。

とくに三十五年には、教育民生委員長として、また三十八年には、監査委員としてよくその重責を果たされました。

本市議会は、早川君のごとき豊富な経験と識見を兼ねた人材の御活躍を大いに期待申し上げたのでありますが、遠大な将来の展望を前に中道にして倒れられたあなたの胸中は、痛恨やるかたないものがあつたと存するのであります。突然の逝去は、本市議会にとってまことに惜しみてもあまりある次才であります。ここにつつしんで早川議員の御逝去に対しまして、生前の功績をたたえ、その人となりをしるのび、哀悼のまことをささげ衷心より御冥福をお祈りする次才であります。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才四、報告才一号昭和三十八年度四日市市水道事業会計予算の繰り越しについてを議題といたします。市長の説明を求めます。

市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 水道事業会計予算の昭和三十八年度における水道拡張費二億七千七百三十三万四千八百七十円に対し、執行額は二億三千七百七十七万一千二百七十七円となり、年度末までに支払い義務の発生しなかった工事関係予算二千五百一十一万円を翌年度に繰り越して使用することになりました。

繰り越しを行なったのは、山の手配水池の築造工事でありまして、これは同地域が国有地で、保安林の指定を受けており、国有地の無償借り受けの許可をえて工事の諸準備を進めておりましたが、保安林の解除許可が遅れたため全面的な工事の進行が不可能となり、予算を翌年度に繰り越し、工事を継続して行なうことになりました。

以上、地方公営企業法才二十六条の規定により御報告いたします。

○議長（錦安吉君） 御質疑がありましたら、御発言願います。

別に御質疑、御意見ありませんので、報告才一号は了承することにいたします。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才五、議案才百三十三号昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才二号）ないし日程才十五、議案才百三十三号市道路線の一部廃止についての十一議案を一括議題といたします。提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま御上程の議案について、御説明申し上げます。

議案才百三十三号は、昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才二号）案でありまして、歳入歳出予算におきまし

て五千九百四十二万六千四の追加と、限度額を五億一千五百九十六万九千四とする債務負担行為をお願いしたものでありまして、その主な内容は、市議会議員控室等の改造とこれに伴う備品購入費、庁内自動電話交換機取付工事の計画変更に伴う経費の追加、霞ヶ浦土地株式会社の株式取得に関連する諸経費、税務署施設を市庁舎に使用するための建物修理費及び非常動消防団員の退職報償金等でありまして、補正後の一般会計歳入歳出予算の総額は、三十四億四千七百十五万三千円となるものであります。

以下、歳出から御説明申し上げます。

議会費は、会派別控室の改造に伴い必要な備品購入費をお願いしたものであります。

経務費中一般管理費は、議会の会派別控室改造費と庁内電話を自動交換に切りかえるための追加等をお願いしたものであります。

庁内電話を自動交換に切りかえることにつきましては、当初予算におきまして電信電話公社より二百型ストロジャーズ交換機一基を借り受けて、維持管理等も公社直営の方式により行なうこととして予算をお願いしたのでありますが、その後交換機の性能、維持管理方式等につきさらに調査検討いたしました結果、機種をクロスバー交換機に改め維持管理も自営方式に変更したいと存するのであります。この交換機は、最近大企業各社においても次才に採用されつつあり、性能も非常に良好であることが判明いたしましたことと、維持管理につきましても自営方式によることとがより経済的でありますので、今回、採用機種及び維持管理方式につきまして予算の組みかえをお願いしたものであります。

また、議会の会派別控室は、現在の委員会室、控室等の改造を予定したものであります。

財産管理費は、今回、前四日市税務署施設を市庁舎として使用するにつき、建物等もかなり老朽化しておりますの

で一部補修を行ないますとともに、現在不足しております事務室、会議室等の緩和措置として既存建物の改造費を計上いたしました。

企画費は、去る五月三十日の市議会全員協議会におはかりいたしました弓形農地の一部を開発公社により買収せしめるための補助金と、霞ヶ浦土地株式会社の株式買収に関連した利子等であります。

消防費におきましては、別案条例をもってお願いしております非常勤消防団員の退職報償金支給に伴う経費をお願いいたしましたものであります。本年四月一日から施行されました消防組織法の一部改正により十五年以上勤続した消防団員が退職した場合、退職報償金を支給する制度が創設せられ、階級と在職年数により退職者に対し一人三万円から七万円を限度として支給されるのでありますが、この支払いは、消防団員等公務災害補償等共済基金に加入して行なうことになりましたので、同基金に対する掛金及び本年度退職者に要する退職報償金をお願いしたものであります。

次に、歳入といたしましては、八幡製鉄株式会社からの寄付金、消防団員等公務災害補償等共済基金から支払われる消防団員退職報償金等のほか、前年度繰越金をもって収支の均衡をはかりました。

議案才百四号は、四日市・ロングビーチ都市提携委員会条例の制定案であります。昨年九月本市とロングビーチ市との間に都市緑組が成立し、自來市民各層の御尽力によって親善の実を上げつつありますことはまことに喜ばしい限りであります。

本案は、この両市の親善友好の実をより一そう上げるため四日市市都市提携親善協議会を発展的に改組し、市長の諮問機関として四日市・ロングビーチ都市提携委員会を設置しようとするものであります。

議案才百五号四日市市職員給与条例等の一部改正案は、所得税法の一部改正により扶養控除額が引き上げられたことに伴い、扶養手当の支給対象となる家族の所得の限度を引き上げることと、去る五月一日に設置されました東京連

絡事務所に勤務する職員の暫定手当を、一般職の職員の給与に関する法律の基準に従い支給できるよう改正しようとするものであります。

議案才百六号四日市市職員の旅費に関する条例の一部改正案は、特殊旅費に移転料、着後手当、扶養親族移転料を加え、所要の改正をしようとするものであります。

次に、議案才百七号四日市市非常勤消防団員にかかる退職報償金の支給に関する条例の制定案について御説明申し上げます。

去る才四十六回国会において消防組織法及び消防団員等公務災害補償責任共済基金法の一部を改正する法律が成立し、公布されました。

この法律は、非常勤消防団員の処遇を一そう向上させることを意図し、永年その職にたずさわってきたことの労苦にむくいるため退職報償金を支給する制度を創設することとされ、市町村に対して非常勤消防団員が退職した場合、本年四月一日から条例の定めるところに従い退職報償金を支給するよう義務づけられましたので、この条例を制定しようとするものであります。

議案才百八号町の区域及び名称の変更については、本市が実施しております住居表示整備事業によりお手元に配布いたしました別図一に示す橋北地区における約一・一九平方キロメートルの町の区域及び名称を、住居表示審議会の決定に従い別図二のように変更しようとするものであります。

次に、議案才百九号は、住居表示に関する法律に基づき、前年度に引き続き昭和三十九年度は、お手元に配布いたしました別図のように本庁管内における浜田地区を中心とした約一・七三五平方キロメートルについて街区方式をもつて実施いたしました。本条を提案申し上げたものであります。

議案才百十号土地の取得については、南部丘陵開発の一環として欠くことのできない同住宅団地下水道終末処理場の建設用地として、三千五百余坪を取得しようとするものであります。

議案才百十一号は、現在すでに市道として認定されているもののほか、未認定のみゆき丘団地及び金属工業団地に通ずる道路を市道として認定いたしたく提案申し上げたもので、参考図に示すとおりであります。

議案才百十二号は、会社及び学校用地として市道としての用途を変更したもののについて廃止の認定をいたしたく存じ、提案申し上げたもので、お手元に配布いたしました参考図に示すとおりであります。

議案才百十三号は、市道の一部についてその用途を変更したもののについて、路線を一部廃止の認定をいたしたく提案申し上げたもので、市道の所在はお手元に配布いたしました参考図に示すとおりであります。

以上、六月定例議会に提出いたしました議案について御説明申し上げましたが、詳細につきましては御質問に応じそのつど御答弁申し上げたいと存じます。

向暑のみぎりまことに恐縮に存じますが、よろしく御審議のうえ御決議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 議事日程に従いまして、本件に関する審議は留保いたします。  
暫時、休憩いたします。

午後二時三十一分休憩

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、日程才十六、議案才百十四号固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。提案理由の

午後二時三十四分再開

説明を求めます。

市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま御上程の議案について、御説明を申し上げます。

議案才百十四号は、本市固定資産評価審査委員会の委員伊達貢一郎氏が、六月二十二日をもって任期満了と相成りますので、再び同氏を選任いたしたいと存じ、ここに御同意をお願いするものであります。

どうぞよろしく願ひ申します。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（錦安吉君） おはかりいたします。別段御意見もないことと思いますので、市長の推薦者に同意いたしますに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって議案才百十四号は、原案に同意することに決定いたしました。

次に、本日まで受理した陳情は、お手元に配布の陳情文書表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。

次会は、来る六月二十二日午前十時に会議を開きます。

本日は、これをもって散会いたします。

午後二時三十八分散会

昭和三十九年六月二十二日

四日市市議定会定例会會議錄（第二号）

四日市市議會

昭和三十九年六月四日市市議定例会議事速記録 第二号

○昭和三十九年六月二十二日(月曜日)午前十時六分開議

○出席議員(三十五名)

坂	宮	鈴	伊	志	前	喜	岩	坪	安	藤	錦	伊	酒	米
上	崎	木	藤	積	川	多	田	井	垣	谷		藤	井	田
長	春	愛	太	政	辰		久	妙		祐	安	宗	昌	好
十														
郎	吉	次	郎	一	男	等	雄	子	勇	一	吉	一	一	兼
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	速
														記

○欠席議員（三名）

○議案説明のため出席した者（二十五名）

市	助	助	収	税	産	厚	衛
長	役	役	入	務	業	生	生
				部	部	部	部
				長	長	長	長
平	二	庄	川	園	芝	平	中
田	宮	司	崎	浦	田	井	山
		良	祐	和	敬	清	英
		一	男	已	太	三	郎
	力						
矩	君	君	君	君	君	君	君

北	日	橋
村	比	詰
与	義	興
市	平	隆
君	君	君

山	増	渡
本	山	部
栄	英	權
一	一	太
君	君	郎

田	中	野	荒	矢	伊	須	大	前	加	山	高	笠	服	永	谷	訓	味
村	島	崎	木	田	藤	藤	島	川	藤	中	橋	田	部	田	口	堀	岡
末	忠	貞	武	繁	泰	総	武	宗	定	忠	伊	七	昌	利	專	也	一
松	勝	芳	治	郎	一	太	雄	雄	男	一	祐	衛	弘	郎	九	男	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

土木部長	城井義夫	建設部長	鬼頭鉄郎	秘書課長	阿南輝彦	人事課長	佐々木晃精	総務課長	天野正春	財務課長	伊藤涼一	管財課長	杉本治芳	市民課長	喜田喜重郎	下水道課長	天野助春	消防次長	金田妙弘	消防課長	大倉尚明	市立病院事務長	三輪喜代司	水道局長	岩野見齊	技術部長	山本文雄
------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	---------	-------	------	------	------	------

総務課長	滝	伝之助	君
教育長	山本軍一	君	

○市議会事務局（四名）

事務局長	菊地英也	議事係長	小坂靖	主事	佐藤正俊	事務試補	芳野孝君
------	------	------	-----	----	------	------	------

○議事日程 才二号

昭和三十九年六月二十二日（月曜日）午前十時開議

才一 一般質問

○本日の会議に付した事件

才一 一般質問

○議長（錦安吉君） ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の出席議員数は、三十二名であります。

本日の議事は、一般質問であります。

お手元に配布の一般質問通告一覧表のとおり、六名の方から通告がまいっておりますので発言の順序を申し上げます。

一番藤谷議員、二番加藤議員、三番山本議員、四番訓覇議員、五番酒井議員、六番北村議員以上のとおりであります。

それでは、日程才一、一般質問を行ないます。

藤谷議員、どうぞ。

〔藤谷祐一君登壇〕

○藤谷祐一君 私は、質問通告をいたしました順序に従いまして、御質問申し上げたいと思います。

まず才一に、新潟の震災を願ひみて、四日市市の防災体制についてお尋ねをいたします。

さる六月の十一日川崎市におきまして、昭和電工川崎工場内で作業中、石油フランクの工事中であります。ガスタンクが爆発して数十名の死傷者を出したという事故がありました。石油コンビナートの市内の爆発だけにきわめて誘発または引火しやすい危険状態であったので、関係者はもとより市民一般は、大きい不安におののいておったのであります。幸い防止措置におきまして、事故が最小限度におさめられ、まことに不幸中の幸でございました。

本市は、川崎市に類似する南北の二大の石油コンビナート地帯を有しますので、当時の事故の状況を連想いたします。身の引き締まる思いを禁じ得なかつたのでございます。

総いて十五日午後には、突然に新潟地方を襲った地震は、かつて大正十二年九月の関東大震災に次ぐものであり、

津波、倒壊、浸水、火災発生という大災害をもたらしていったのであります。

わけても昭和石油港工場の石油出火は広大の敷地内に無救に並べられた輸送タンクのひとつを焼きつぶし、消火の手の及ばざるままに隣接する民家、実に三百五十戸を全焼せしめ、数日間燃え続けたのであります。天災とはいえ、地震のために被災をこうむられた方々に対しましては心から御同情申し上げるとともに、一日もすみやかに復旧を祈念するものでございます。

自來、市御当局におきましては、刻々報道せられる被害の状況をとらえ、さる十八日には急遽二宮助役を団長とする慰問団を組織せられ、心尽くしの見舞品を携えて現地を訪ねられましたことは、突然異変に転倒する被災地の人々をわずかながらも暖かい心の触れ合いでありまして、まことに適切な処置であったと感謝するものでございます。とくに、地震の経過がきよう明らかになってまいりましたところによりますと、新潟市における災害の中でもとくに石油火災という印象が強く、大きく国民の目を見張っているものであります。

現在、わが国における石油化学工場のもっとも誇る安全性ということについては、今回の新潟地震によりまして、そのつめあとからながめまして根本からくつがえしていったものと思われまふ。それぞれの専門家の言葉や工場責任者の説明を聞いてみしても、わが国のプラント設計の方式は、外国で地震の少ない国々の施設を大部分取り入れられておるようでありまして、強度の地震に耐えられるようには作られておらないということでありまふ。また、これまでの考え方からすれば石油精製工場の建設にあたっては、強地震向きに施設をつくっておつてはコストダウンとなつて採算がとれないということが明らかになってまいりました。

加えて地震によってきたるいろいろな悪条件はあらゆる防止対策の方途を遮断いたしました。ますます被害の甚大を助長したところであります。

わが四日市市における石油コンビナートは、日本一を誇る世界でも有数ともくされておりますだけに、石油を基調とする臨海化学工業の発展は世界の注目の的となっておりますが、川崎市における石油化学工場での事故、新潟市における地震による火災等をここにみて、万が一にも当四日市市にあの強震が見舞ったことを考えますと、偉大な石油コンビナート地帯であり、それにつらなる密集住宅の地帯の現状を思い合わせて、想像に絶する惨害を及ぼすことは火を見るよりも明らかであろうと思います。中央政府におきましても、新潟地震に生きた尊い教訓をかんがみて、石油、ガス化学工場の安全性には、さらに、耐震装置が必要であり、産業立地政策の根本から改めるべきであろうということをいっております。このことを契機といたしまして、国は、思い切った都市改造の実現を計画しようとするのであります。

私は、いろいろ御質問を申し上げる前にまず第一にとくに重大事項でありますので、人ごとでなく新潟地震を返りみて政治をつかさどるものにおきまして、四日市市にもしもあのような地震が見舞った場合のことを考え、どういふぐあいにこれを防火するかさらにまた、どういふ手を打つかについて、市長並びに関係の理事者にまずお伺いいたします。

質問は、総いてまたあとにいたしますが、一応総けて質問を申し上げます。

次に、市道並びに一般下水道の維持管理の促進でございますが、この点につきましては昭和三十九年度の予算審議のときに、市道並びに一般下水道の維持修繕費があまりにも僅少でありますので、私も担当の建設委員会におきましても、または一般市会の方々の意見におきましても、とうてい四日市の広大な地域の道路の維持または下水、排水の管理ができないじやないかという声が強まってございましたので、関係の理事者に御来席を願っていろいろ御質問を申し上げ、またさらに追加とか実施の措置について注文を申し上げましたが、市長並びに関係の理事者は、この

順序はよくわかっております。一応こういう予算を組みましたが、必ずある時期には追加をし、または御期待にそのような方法を取りましょうという言葉がございました。しかし自来、早くも二カ月もたちますが、幸いことは雨が非常に少ないので、被害もあまり大したことはございませんが、しかし、材料がない、金額が少ない、予算がないということで市道は荒れほうだいであります。こういうことにつきましても各地から相当な注文がございます。何とかいまのうちに手を打ってもらいたい何とか直してもらいたいという声がございますが、管理者はどういふ手が出ないんだということではなけうっております。こういうことにつきましても、市としてはさらに積極的に予算の流用をするとか予算の繰り上げをするとか方法もあろうかと思ひます。単に三百万の維持修繕費を予算で割ってみますと、月当たり二十五万円であります。四日市の道路を維持修繕するのに月二十五万円では、たとえば、二十メートルの土方がくずれた場合に、その石積みなりコンクリートを一つしましても八万や十万はかかります。一カ所それができずと、二カ所ぐらいでおわります。これでは仕事ができせんので、さらに四日市にはダンプカーとかまたブルドーザーとかグレーダーとか補修作業車というものがございするが、これにいたしまして、経費の問題、採石場の問題、また時間の問題といういろいろ制約を受けまして、なかなか思うように仕事が進んでおりません。こういうことからいたしまして、さらにもう一歩進んだ対策をどうして立てるか、いろいろ理事者は考えておられるようであります。これについて御見解を願いたいと思ひます。

次に、三番目の霞が浦の遊園地の利用方法でありますが、これは前会議会におきまして、市長からいろいろ説明がございまして、霞が浦の遊園地は、開発公社が将来、管理をしていくんだとそういうことでございしますが、最近、新聞紙上とか市長の言によりますと、せめても市民の夏の憩の場にして当初無料で開放するのだと、まことにけっこうなことではあります。しかしながら、あの施設を無料で開放するとなりますと、名古屋、また桑名方面はきません

が四日市全体の人々が、日曜たびに殺到することになります。しかも、その管理方法によっては、むしろ被害を及ぼすことがございます。または水難事故もございましょう。いろいろそういう心配がございます。どういうぐあいに無料開放されるのか、ということについてももう少し詳しく説明を願いたいと思います。

次の、干天続きによる農業対策につきましてもございしますが、ことしは思わぬ干天が続きますので、とくに田植の時期に日照りが多くて大分心配いたしました。幸い二十日の雨で全土が非常にうるおいまして、おかげで山田とか水の不足のところは全部終りました。けれどもそれまでに植えつけ時期というものがございまして、たとえば、十日に植えつけするものが二十日まで伸びますと非常に大きな減収をきたします。こういうことから農家は機械を動かし、または相当な費用をかけて用水をしております。こういうことにつきましても国でも対策をたてておるようになります。県にもそういう一つの企画をしておるようでございます。四日市市におきましても何か対策があるのか、いろいろ陳情もあらうと思いますが、それについて御見解を願いたいと思います。

次に、昭和三十八年度の税収入の問題でございしますが、これはまだ決算が完全にできておらんと思いますが、決算の時期に入っております。おかげでことはやや増収に向っておるようでございます。けっこうであると思いますが、だいたい数字はつかめたと思います。つかめた数字はわかっておりましたら御発表を願いたいと思います。以上、質問を申し上げ、さらに追加質問をいたします。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） お答え申し上げます。

私は、隊長としまして、新潟におもむいてお見舞のかたわら若干調査をいたしましたので、ただいま、お話のように新潟地震の災害を顧りまして、四日市市の防災につきまして、こんご、非常に勉強する気だということに痛感を

しておりますので、この際若干の時間をいただきまして、その模様と私たちの考えを申し上げたいと思います。

私たちが調査に当たりましたは、地震の才一次、才二次災害はどの地帯に起ったかということ、それから得た教訓的な帰結は何であるかということ、新潟ではそれに対してどういう対策を取ったか、その対策はどういう点に長所があり、短所があったかということ、これを四日市に当てはめたならば、被害発生危険はどこにあるのであるかということ、われわれは、発生した場合には何をなすべきであるかまた、未然にことを処するには何をすればよいかということ、こういうことを研究しまして、こんご関係者の間に研究を深めまして、活用し得るところの対策を講じたい、かように思っております。新潟の災害の概況は、震源地が御案内のように粟島沖、深度四十キロのところから起りまして、マグニチュード七・七という強度のものであります。十一町村に災害救助法が適用されております。新潟地震の災害の内容といたしましては、まず地震によって家屋の倒壊などが行なわれておりまして、この被害というのが才一であります。また地震による火災がありまして、焼け出されておりますから火災の損害がございます。

ついで、海拔〇米地帯並びに津波の浸入によりますところの水害があります。かような震、火、水の三重苦に市民は悩まされておる才才であります。その災害としての特色を考えてみますと、石油災害が被害を大きくしたということ、これは個人の火災というものは起っておりませんが、工場からの火災が起っておりますので、こういう点が痛切に感じられます。

才二には、地盤軟弱が被害を大きくしたということ、ことに沈下した建物が多数見受けられます。

才三に、非常に局地的であって付近の市町村はほとんど被害がないが、市内でもこの損害の程度が非常にまちまちでありまして、たとえば、デパートのごときものは一つも影響を受けておらないで協力して救援にあたってお

りますが、隣は非常にいためられているというような状況で出ております。

こういうようにその土地土地で非常に区々たる様相を呈しておることが特色であろうと思います。

その損害は県関係を見ますと、直接の災害といたしましては、約一千億といわれております。そのほかに個人の災害があるわけがあります。中でもここで皆さんに申し上げねばならんと思いますのは、この産業的な方面の損害でありまして、山下町の臨海工業地帯、これはうちのコンビナートに匹敵するような非常に向うで頼りにしておる工業地帯でありまして、出荷額は年間一千二百億円ありますうちの八〇％はここで出荷されているというような模様でありますので、この打撃は全県的に非常に大きな問題でありまして、したがって県としましては、国の力を借りてでもあくまでも再建をはかりたいというような方針であります。しかし、地盤沈下などという大きい問題がありまして、なかなかむずかしいのではないかと一般の識者の見方が行なわれているようであります。

全焼、大半焼失というような被害を受けた工場は昭石はじめ成沢石油、藤島製作所等がございますが、これらは非常に大きな損害を受けておりまして、あるいはその後外資でも導入をしなければ、立てないのじやないかという観測が行なわれております。なお、津波の浸水によるところの損害、建物傾斜などの損害が主要十数社の間にございまして、火災がおさまってもむずかしいとも、元どおりの操業に入るものは非常に少ないのじやないかというような憂慮の色が市民の間にあります。

この火災であります、どんなものであったかといえますと、地震と同時に燃え出しまして、四、五万トン三万トンというような原油タンクが防油堤にかこまれておりますけれどもですね、その中でこぼれた上に、中の油がさらに地震で揺れたものですから、こぼれ出て火がついたということで非常に広く火災が起ったわけです。

ところが、これに対する消火車としましては、化学消防車は市自体は持ちませんで、工場方面がわずかに二つと小

型ポンプが動いたという状況でありまして、まったくお手上げだったようです。ことに消防本部としましては、さっそく黒煙を望んでこれは油の火災であるという判断をしまして、東西南北からポンプ五両が出動したのでありますけれども、道路が寸断されておって、現場にかけつけることができないで引き返したというようなことがございます。

地震におけるところの消火ということが、いかに至難であるかということのおそろしい教訓であると私は思います。十六日の夜半からは隣接の町村からも二十数台がかけつけ放水したけれども、ようやく民家への延焼を防ぎ得たというような程度であります。

十七日の朝になりました、防犯線を運河と決めまして、運河の線を固持したんでありますが、猛火はその運河線を乗り越えて臨港町のほうに移って侵入いたしました。そこで午前中になりましたら、これはもう消火はだめだということに断念しております。

さらに、才二次案としまして、才二の方策としまして、臨港町の民家に防犯線を引きまして、自衛隊がその民家の破壊をしております。その破壊作業をしただけでは薬剤投下を待っております、昼過ぎになりました、これが四千ガロンの薬剤を投下しましたが、猛火の風圧でこれも成功しません。さらに消防庁の化学消防車が同夜から十八日の未明にかけて十五台到着して努力したけれどこれも焼け石に水だったと、いかに猛火というものが荒れ狂ったかということがおわかりになると思います。

かような状況でありまして、区々たる対策につきましてはとくに申し上げませんが、住民としましては、どういふことをもっとも悩みとしておりますかという、まず何といひまして水と電燈の問題であります。水と電氣であります。すみやかに水と電氣が欲しいという深刻な要求でありますけれども、なかなかこれが得られない状況でありました。

次には、交通の問題です。これは非常に今回の災害では手際よく車の交通規制が行なわれましたが、それでもにせのマークで横行する車もありまして、手ぬるいという批難がありまして、交通管制をいかにすべきであるかということの教訓を得ました。

全般にわたる損害保険の問題につきましては、これは政府もとくに考えまして、従来も考えたことがあるが、今回を契機といたしまして、国営のこういう損害保険を考えなければならぬのじやないかという空気が濃厚であります。私たちが得ました教訓としましては、こんごますますそれが増え、かつ拡充されることを信じますが、とりあえず私が見まして、防止の見地からどう考えたらいいかということをして二・三申してみたいと思います。

今回、石油火災が被害を大きくしたということに鑑みまして、われわれ石油の町におきましては、多量に石油を常備している施設がたくさんございますから、仰せのとおり、この分量におけるところの研究が十分すべきであると信じております。

日本の消防方面は、この航空機による化学消防法というものが十分のこときものがあるが、これらの発達を促さなければならぬと考えます。もともと国家的な大きな問題でありまするが、震度四までは耐えられるような耐震構造は普通に建築構造によって考えられておりますが、日本のような地震国におきましては、この耐震度をもっと高くしなけりやいかんのか、あるいはタンクとタンクの距離をはなしたり、またどんな小さいものでも、どうい場合でも山火と同時に消火薬がおのずから吹き出まして、有効に働くような装置をするような義務づけが必要であるというような消防法の改正が消防関係者の間に強く意見となっております。地震の際には、かたのとおり消火剤を運ぶということができないわけでありまして、こういう自動的な方法を考えなければならぬというのが、皆さんの考慮であります。

次に、地盤とこの地盤沈下の問題でありまするが、これは危険を伴う製油所とか、ガス化学の工業とかを作る場合にもっと設計施設が火気を考慮して慎重に考えなければならぬというのが誠者の意見でありまして、都市づくりはガス管、水道管、電線線こういう地下埋設物を共同溝の中に建設するような施設をすべきであるというような意見が出ております。

建物にしましては、都市計画にしましては災害がありますという、総合的にふだんから考えていかなければならないということが大事なポイントだと思ひます。地震だけでなくして、台風とか津波とか集中豪雨など全部一括して町全体として能率のいい災害対策を考えろという考慮がいろいろあります。たとえばいいますという、零地帯があるとしたら、そこに津波を防ぐために外部に堤防をつくりました場合にはどうなるかといひますと、豪雨が来たときにはかえって排水に困るというような矛盾が生じます。排水ポンプが停電したならば、どうなるかと思ひますと、零地帯には必ずしもそういう外部にはそういう堤防をつくることは賢明でなくして、むしろ人工的に土地をつくって避難場所をこしらえておく方がいいんじやないかということも考えられるわけでありまして、かように総合的な災害対策というものが、こんごわれわれの町を安全にするのもっとも必要な方法であると思ひます。

次に、地震研究であります。これは、われわれの問題よりもむしろ国の問題でありまするが、われわれとして考えなければならぬことは、今回のような経験からもし四日市がこの地震に見舞われた場合には、どのような災害、どのような規模のものになるかといひことをよく見きわめをして、それに即応できるような対策をふだんから立てておく必要がございます。地震そのものを予測したりするようなことは、われわれの仕事ではないということに思ひをいたさなけりやならぬと思ひます。

次に、水道管です。水道は飲み水としまして一日も欠くことができませんので、いかなる災害にも随伴する問題で

ありますが、一概にいいえますれば、水道管線を不用意にわれわれは海岸とか河岸に設けますが、これは水害を受けるといようなおそれを非常に持っておりまして、危険であります。

ことに幹線道路に水道のメインパイプを入れておきますというところ、ことある時に幹線道路は交通上非常な緊急な需要を生じまして、たくさんさんの車が交通しなければならぬにもかかわらず、水道工事のためにそれを掘りかえなければならぬと、こういうふうな矛盾がおきますので、交通上の需要と水道の配線上の需要というものを分離して考える方がいいんじゃないかとこういうことを考えております。また、不幸にして水道が切断されたときにもその臨時措置として、地上配管によるものであります。また、地上配管も鋼管を使うほうがいいんじゃないかと、そうすると熔接によりまして、どんどんと手ぎわよくすみやかに吸水ができるということが考えられます。

才五には、交通規制制限であります。これは絶対必要な計画上の問題でありまして、これらにつきまして、われわれは関係当局とよく検討を加えたい、かように思っております。

以上、だいたい五点であります。これらはさらに拡大しまして、いまお話のようにわれわれが新潟に鑑まして、われわれの町はどう町づくりをすればいいかと、また、どう町を改ためて行くべきであるかということにつきましての熱心にして有効な活動のきっかけを今回の調査に持ちたいと、かように私は、信じておる次第であります。

なお、その専門の方々にもいっしょに行きましたので、他の面につきましてお尋ねがございましたら申し上げます。

#### 〔消防長（竹内鉄雄君）登壇〕

○消防長（竹内鉄雄君） 本市の防災対策について、消防の立場からお答えいたします。

この前に川崎市におきます昭電の川崎工場のがスタンクの爆発事故に続きまして、ただいまお話の新潟の地震に

よる大被害が起こりまして、その不注意による原因になったのではないかと四つのことが考えられます。したがって事故防止につきましては、この四つの原因を排除する方策、すなわち完全に建設されました施設については、絶えず入念な点検を実施して故障個所の発見に努めることと、それから従業員の教養を高めてそして作業時の誤りをなくすること、それから外来者のとくに操業中の工事でございますが、この際に火気の取扱について十分な注意をすること、ただいま当市の各工場におきましては操業中に熔接等の火を使う工事を行っておりますけれどもその現場は防火壁を設けあるいは近くの施設のガス検知をいたしまして、ガス漏れの絶対ないというふうな安全策をとって工事をいたしておるようでございます。

そういったことがらを各工場が現在もやっておりますし、こんごも、やれるということはプラスの面も多いけれども注意力が散漫になるということを考えまして、こちらの方の現場査察に行きますものも工場における従業員もそのなれる弊害を防ぐための、毎日毎日新しい気持であらゆる作業に従業するような方法をとるようにならしてございまして、これを再確認するように先般も各工場が寄りまして、申し合せをしたような次でございます。

次に、地震の問題でございますが、御案内のとおりただいまの科学の力では洪水とか台風とか津波というふうなものとは違っていて、予測することができないといわれておりますので、したがってこの地震の対策につきましても、非常に困難な問題であるかと思うのであります。こういうふうに御答弁を申し上げるすぐ直後に起らないとも限らないことでございますので、なかなかこの対策についてはむづかしいと思うのであります。

この間の新潟地震の被害の教訓もありまして、政府はもちろん各職者の方々におかれましても、工場の実施条件あるいは建築基準の問題、危険物の製造所、貯蔵所業の規制の強化というふうなものがいろいろ論議されておりますが、これは法律改正を待たなければできないことでございますし、またそれをやったにいたしましてもなかなか時間がか

かと思うのでございます。

そういうぐあいでは、四日市におきます工場の設計もまづこの耐震性というものを考慮に入れてつくられているというものではございませんで、私の承知いたしておる範囲によりますると、だいたい震度三ぐらいの地震には耐え得るような設計で建設されておると伺っておりますのでございまして、いろいろな考えでも、なにしろ天災のことでございますので、その設計を上回った現象が起らないとも限りませんし、いろいろ考えてはおられるのでございまして、先ほど申しましたようにいろいろも、絶対的な安全性の確保というのはこれはもうできないと思うのでありまして、先ほど申しましたようにいろいろ規制の強化がされ改善が加えられても、ほぼ同じようなことがいえるのではないかと思うのであります。

そこで、私も消防といたしましては、そういうふうな規制を強化し改善されていくことが望ましいことでありますけれども、現在の段階において地震が起った場合には、どうその被害を最小限度にくい止めるかということがさし当てるのも私の職務範囲であり、また問題になろうかと思っております。

従来も地震に火事はつきものとしてしまして、消防計画の中において地震時の火災防禦という点については考慮をいたしておったのでございまして、なにしるこれは私も私の想像いたしておった、理屈めいたことから考え出しておる計画でございまして、今回の新潟地震の事実的根拠というものを一つ参考にして、そして地震時の火災防禦計画というものを策定したいと思ひまして、ただいま作業中でございますが、その骨子といたしますところは新潟火災のときにも自衛消防力が非常に弱かった、それから装備がたりなかった、という点に考えまして、自衛消防力の強化、それから新潟火災のときには、化学消防車で化学薬剤がありましたけれども、これは使えない状態にあったと、と申しますのは、御承知のように化学消防剤というものは原液と水とをまぜてはじめて効果が発生するのでありますけれども、その水が使えなかったがために化学消防車というものは使っておられない。かりに、あ

つてはならんことでございまして、あの程度の規模の火災が発生いたしましたならば、四日市市の装備、それから準備というふうなものから考え合わせますならば必ず私は初期のうちに消火されたものと確信をしております。

そういうふうなことから先ほど申しましたように、自衛消防力の強化、これは人員、機材、薬剤も含めての話ですがそういうもの、それから水利の研究、初期消火の方策、同時多発時の火災防禦、相互応援協定、あるいは救急業務避難といったような現場即効の消防活動を練ると、平素における準備の面といたしまして、特殊建造物の消防計画に再検討を加えて地震時にいかにすべしとすることをもう一べん検討を加える。それから市民の啓蒙ということもやらなければならん、それから計画がありまして計画だおれではないけれども、消火、避難その他の訓練の反復実施というふうな平素の準備の面をも考えてみたいと思っております。

それからこれは蛇足でございまして、四日市市の石油コンビナートの各工場は御承知のように化学工場でございますので、高圧ガスと消防上についていろいろ危険物と電気とが不即不離の電気計において成り立っておりますのが化学工場の実体でございまして、その、それぞれのものを管轄する行政上の分野というものが必ずしもこれは一本ではございませんので、いろいろ、通産省あり県あり市ありで多岐にわたっておりますけれども、市といたしましては、ただ消防法上のいわゆる危険物行政を通して化学工場の安全ということに首を突っ込んでおることとございまして、私どもはこれを行政管轄分野というものは別といたしまして、災害の防止、火災の予防というふうな見地から、たとえ電気であろうとガスであろうとタッチをいたしまして、そして各関係、各機関相携えてこういった化学工場の安全性を保持することに努力をいたしたい、かように考えております。

〔土木部長（城井義夫君）登壇〕

○土木部長（城井義夫君） 質問の才二間の市道並びに……（藤谷祐一君「議長ちょっと。一つ一つ。混乱しますか

ら、いまの説明に対して……」と呼ぶ) はい、わかりました。それでは、せっかく壇上に登らしていただきましたので、災害に関連しまして、先ほど二宮助役からの御報告に対して、土木部長としての立場から一部補足的に気のついたことを申し述べたいと思います。

まず、総体的な御説明がありましたから省きまして、私、まず新潟に入る直前の国道八号線等の交通の混乱状況からすごく感じたことでございますが、災害時になりますと予測せない交通量が発生してくる。これは災害の救援あるいは復旧のために必要な車もあるが、若干、やじ馬的な車も相当入っておくことは事実だと思いますが、いずれにいたしましても平生考えられない交通の状況になってくるということをしみじみ感じただけでございます。そのために新潟から七・八十キロも離れております直江津、柏崎方面で、県警の方がすでに関門所をつくりまして整理をしておるんですが、そういう関門を三つ四つぐり抜けて逐時入っていくわけでございます。

その労力といいますか、その仕事も非常に大きな問題であると、これが道路がスムーズであればそういった労力的な面において、他にも有効に使えることが考えられますので大きな問題であるということを感じました。

この問題に関連いたしまして、四日市の現在の状況は国道一号線、二十三号線が市内を通っております。で、四日市市が万が一こういった状況になった場合にはやはり新潟と同じような状況あるいはそれ以上ということが予測されるのでございます。幸いにしまして、名阪国道という問題がいま取り上げられておりますが、市街を離れて通過交通は、市街に關係なしに山手を名阪国道を通じて流してやるということになりますと、非常にうまい状況になると考えます。したがって、産業的な面、平生の交通の面のみでなしに、非常事態に対する面からも名阪国道の早期実現ということ強く要望したいと思っております。

才二番目といたしまして、二宮助役の報告のように道路と地下埋設管の問題でございますが、市内の交通の幹線と

いうのはとかく地下埋設管の幹線にもなりがちでございます。したがって、先ほどの御説明のように交通上どうしても通さなくてはならない事態においてまたは地下を掘らなくてはならないという事態が発生しますので、非常に混乱、復旧が遅れるということが予測されます。そういった面から私、考えましたのは重要な地下埋設管の幹線はできるだけ車道に入れなくて、歩道に無理してでも入れたいということ、それからもう一歩進みますと、先ほどのお話のように交通幹線にはなるだけ地下埋設管の幹線を避けて、それよりも裏の方と申しますかはずしたところで計画ができればいかとこういいたことを感じました。

それから才三番目に、工場地帯主として昭石さんの火災付近の状況を見たときの感じでございますが、一たんああいうふうな火災が発生いたしますと、少々の人間の力ではもうどうにもしようがないと、このためには工場の回りにあき地を置く、あるいはクリークをつくると、いいかえますと工場に近寄って一般の市街地を計画しないと、これがある事態になった場合の考えられる一つの方法じゃないかと、こういうふうにしみじみと感じました。

新潟には記憶をたどりますと、昭和三十三年にこの工場地帯に大火があったように記憶しております。それで、詳しくは聞いておりませんが、ちょっと、言葉のはしで気がついたんでございしますが、その大火のときに非常に考え方を決めて、強く法的な措置をすればこんど問題になりました破壊した百七十戸あるいは類焼した約二百戸等のところが当然空地なりあるいは工場関係の土地利用が考えられたのではないだろうか、やはり大火のあととすると前の状況のとおり復旧してしまったと、ここに振りかえてみると一つの大きな問題があるんじゃないかと、こういう感じを持ちました。

その問題は四日市は切実に感じておる問題でございます。これにつきましては、非常に強力な、われわれが行政指導をいたしますについて準備できる強力な法が欲しい。あるいはそれを遂行するための国の暖かい助成を十分考慮し

ていただかなくては成果が上がらないだろうと、こういう考えを持ちつつタンクの燃えるのを見とったわけでございます。

世俗で地震、雷、火事、おやじと申しますが、これは私、考えましたのは、こわいものにそういうことを使いますが、これは一べんにくるのだと、すなわち市に奉職します市民の公僕たるわれわれの常に考えておらなくちゃいけないのだと、地震、雷、火事、おやじは一べんにくるのだとこういうことじゃないかと感じたわけでございますが、地震がまいりますと必ず雷すなはち雨、洪水、高潮というものが必ずずついてくる、火事は必然的におきてくる、おやじというのはおそらく市民の何ていいますか、民生安定的な市民の声の解決、あるいは市民の生活の解決だろうというふううに感じてまいった次第でございます。

現在の情勢は、先ほどの説明のようにまず飲み水だと、水道を早く復旧せよということでございますが、水道だけがいちたんでおるのでなしに、下水もガスも全部やられておるわけでございます。ただ、生きていくためには水が一番必要だと、水道を通しますとこれはもう同時に下水の問題がでてまいります。谷ビルあるいは災害対策本部の市役所、県庁も便所その他封印されておりまして、水が出ると使う、それが下で吹くということで、現在の要求は飲み水でございますが、瞬時を経ずして同じように下水の問題ガスの問題がでてくると感じております。

ところが、市の区画整理課長等に会って話し聞きますと、まだ下水の調査ができておりません。災害後四日たっておりますが、まだ調査ができておりませんが、一応十五・六合のポンプを動員いたしましたして、とにかくかけてみようと、かけてみると堤防のどこに切れてる、あるいはどのパイプから逆流してくるということがわかるんで、現在もう調査しようと思っても手の尽くしようがございませんと、こういうように申しております。ちよっと気のついたことを申し上げました。

○議長（錦安吉君）

暫時、休憩いたします。十分間の予定であります。

午前十時五十五分休憩

○議長（錦安吉君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。水道局技術部長。

〔水道局技術部長（山本文雄君）登壇〕

○水道局技術部長（山本文雄君） このたびの新潟市地震調査団に水道局から私派遣されましたので、水道の立場からみました災害の状況と本市のこういった地震に対する対処についてのあらましの考え方を申し述べさせていただきますと思います。

新潟市の現在給水人口は二十一万ほどございまして、そうたいの給水量が日量十万吨程度ございました。水源は信濃川の兩岸からそれぞれ水を取りまして、二系統にわたって西新潟市に六万吨、本新潟市に四万吨の施設をそれぞれ持っておったわけでございしますが、地下埋設関係のパイプが寸断されておりまして、その中でもとくに震度の激しかった地区は、各戸の給水装置もばらばらになっておると、こういう状況でございます。なお集水設備あるいは上水設備といったものがほとんど卒にして被害がありませずに、パイプ関係が寸断されておると、こういう状況であります。

現在新潟市の水道局の職員は、二百二、三十人おりますが、ほとんどこれの復旧に忙殺されておりますけれども、何と申しましても、先ほど来からお話がありますように、交通量が非常にかた寄ってしかもその道路がき裂を生じておるといふことから、まだ十分調査のいき届いていない点が多々ございまして、中でも西新潟市におきまして

は、導水管と送水管の太いパイプがやられておりましたので、テレビでもいっておりましたように浄水場に水がないと、こういう状況が現出されたわけであります。

自衛隊が約千五百名、水道局に陣取りまして、水道関係の復旧にあたっておりますが、これはそういった導入管、送水管の太いパイプの堀りおこしと、そのパイプ的なパイプを敷設する臨時応急配管工事に作業いたしております。なおこういった災害が起りますと人間は自分の生命の保全を確認したすぐ直後はまず水を要求されます。したがって、現在の新潟市の状況は明けても暮れても水の問題でございまして、それも飲み水を要求されることが非常に多い状況でございます。現在全国からタンク車が百九十台出ておりまして、各水道局からもそれぞれの持っておりますタンク車が応援にかけつけておりますほか、市内で徴発いたしましたトラックにドラムカンを乗せまして走っておりますのが二十台、計二百十台のタンク車が、関屋の浄水場に水を求めまして、延々とこれが一日五回程度市内に配水をしておるわけでございます。市民はバケツその他を持ってこの水をくむわけでございますけれども、これに多くの時間がかかりまして、まだ家屋の復興ということではなしに生きるための生活のための水に追われておると、こういう状況でございました。

なお、御承知の万代橋という大きな橋が落下しなかったわけで、こゝに、兩岸を結びます連絡の水管橋のパイプと添加してありますのでこの分は助かったわけでありますけれども、橋の兩岸が非常な落下をしておりますので、これが太いパイプがずたずたになっておりますので、両方の信濃川をはさんでの系統は完全に断ち切られておる状況でございます。

水道局としましては、応急的な復旧作業はこゝ一カ月位で地上配管等によってこれに対処し、原型復旧は見通しが立たないけれども数年かかるだろうと、こういうことでございます。地震と同時に各水道の幹線から水柱が立ちまし

て、さらに道路の決壊をひどくしたと、こういう状況でございました。

現在のところ、この飲み水を確保するというところでございますけれども、大きな建物はそれぞれ水洗便所になっておりまして、水洗便所がいっさい使えないという状況でございますが、かりに使えまして、水道が完成いたしましたとしても、その流末であります下水関係をつぶすところも寸断されておりますので、十万吨いるところの半分の五万吨送りますと、毎日五万吨の水がし尿とともに市街に流れだすと、しかも下水が勾配が逆になってしまっておるといふところもいたるところあるようでございまして、これらの問題が今後大きな問題になるようでございます。

これらのことを当四日市にあてはめて考えてみますと幸か不幸か知りませんが、四日市市は御承知のように三 Brooks に水源が分かれておりますので、それらの水源のいずれかが被害をこうむらなかったとした場合にはその水をできるだけ利用いたしましたので、とりあえず飲み水だけは確保し得られるのではなからうかこう思います。それは市内の幹線網に対しまして、だいたい東西の方向に縦に幹線を敷設する計画を二期計画で立てておりますし、そのほかに太い幹線を南北に一条入れるように計画をされております。が、しかしこのたびの新潟のあの地震をみますと、一本では足らなくて少なくとも丘陵地の端にもう一本正規な管網計算によらない予備的な太いパイプを敷設することが必要であろうというふうに思っております。

もう新潟市の場合は各市の水道局が非常な数にのぼっておりますが、東京都をはじめ大阪、名古屋その他二十数都市から応援にかけつけまして、現在百四十名ばかりかけつけておりますが、これはほとんどタンク車の運転要員でございまして、本日、名古屋市ブロックにつきましては、名古屋市の水道局の部長級の方が行っておりまして、具体的な応援は約三カ月ぐらいでそれぞれの技術要員を派遣する予定になっております。こういった際、四日市の水道局といたしましても、できる限りのお手合いはしたいと、こういうふうな考えを持っておるわけであります。なお、今後

の対策としまして、一番大切なことは本市の場合、道路の地下に埋設しますパイプの定規図が十分できておりませんが、いたしまして市内の幹線道路をみますと、右に左に原料輸送管が水道管も下水管も右に左にいております。下水管はま、だいたい真ん中にいておりますが工業用水その他ケーブルそういったものがふそうしておりまして、これらの実態をまず地下埋設連絡協議会というようなものを早急に関係県市あるいは会社の方々と結成いたしまして、詳細な平面図あるいは要点点の横断面、縦断面そういったものをつくりまして、有時の際にただちに埋管場所がはっきりするような資料を整える必要があらうかと思ひます。なお、とくにコンクリート舗装の国道等には今後絶対に幹線のパイプを入れないと、舗道がありますと無理をしてでも舗道の中に入れて、これも複線に入れるということではせひせねばならないことだと思ひます。

このたびの新潟の震災で厚生省の水道課長みずから各技官を数名つれて県の衛生部長室に陣取りまして、陣頭指揮をやっておりまして、現在の段階ではまだ、資材が十分整いませんのでこれらの連中もまだ出発しかねておるわけでございますが、とくに本省のそういった責任のある方々の話では、この幹線道路に幹線の水道パイプをいけるということが、いままでは常識であつたけれども、この觀念を変えなければならぬと、こういうようなことを痛切にいつておられましたし、私もまったく同感であると、こういうふうに思ひます。

なお、水道についてのこれらの災害対策につきまして、今後さらに十分検討を加えまして、少しでも災害を未然に防ぎ、また災害が発生した場合の有機的な運営というものを研究いたしたいと思つております。

#### 「衛生部長（中山英郎君）登壇」

○衛生部長（中山英郎君） 衛生部門について、新潟現地調査を命ぜられましたので、そのポイント、要点だけを申し上げます。

出発前には伝染病、ごみ、し尿の処理ということを一応規定いたしましたので、現地にのり込んだわけですが、途中、赤痢が十五名程度発生しておる情報をお聞きいたしましたので、一行も予防薬を飲んで乗り込んだわけでございますが、市の衛生部へ行きましたところ、首脳部は県の指揮下に入つていま会議中ということでございました。それで、この衛生部門の体制といたしましては、本市と違つて、市の保健所が二つを持っております。病院といたしましては市民病院でなしに健康保険の病院を持っております。それから新潟大学の病院があります。そういった機関であります、それで災害の時点にしばりますと、非常に言い方に誤解があるかとも思ひますが、衛生部門からみますと、災害が一番いい条件のときに起つたということでございます。と申しますのは数日前まで国民体育大会が当地で開催されていまして、たくさん選手及び陛下が来られるというので、全市をあげて徹底的な予防、消毒の措置それからごみ、し尿の処置が横行する市民の訓練が行き届いた直後だったということでございます。そういう衛生部門からは、一番好条件のときにあの災害がきたということがはっきりわかつたのでございまして、市街等を見ましてもほとんどごみがありません。そのごみの一例を申しますと、ダンボールなり、それからポリエチレンの袋に入れて集積しておると、こういう訓練がついております。きたない話でおそれ入りますが、便所の中にも各戸に消毒液を持っておりますというような国民体育大会に際しての平常時の一番コンディションのいいときだということが、この衛生部門の災害対策として二次的に置かれた理由がはっきりわかつたのでございます。大きな現象といたしましては、赤痢の発生は誤報であつて、疑わしいのは新潟大学に収容いたしましたのが、はっきり出たのは一名もないということが帰りにわかりました。それから済生会病院ちゅうのが、一メートル浸水のところにございしましたが、入院患者が約三百名ございまして、重症患者がだいたい百二十名程度のものについては一応孤立したわけでございますが、自衛隊の到着を待つて収容し、大学病院の方へ収容し、軽症者は家へ帰すという措置で医療的な措置は遺憾はなかったと、それか

ら各死傷者が非常に少なかったということで、医療活動については特段の形跡はみられません。ただ目だったのは組織だった県なり市の衛生活動よりも開業医の方が積極的に自家用車なりあるいは自分の病院を開放し、そういう自由な体勢で活躍されているのが非常に目だったわけでございまして、目撃したところでは某新聞社の移動診療車というものが、町のすみで健康診断なりあるいは軽いものにはヨーチンを塗るという手当てをしていたのを目撃したわけでございます。それで医療活動につきましては、最上るときで一応心配はないということで才二段に回すということでございますが、計画といたしましては一応現在一万戸程度のものが浸水中で、問題はその浸水が排水したのちに起きてくるということを心配いたしました。これは将来の問題として注意をしますが、現在一名も入っていないこととでわれわれは帰ってまいりましたが、これは将来の問題として注意をすることがあるということでございます。それから消毒につきましても、災害の浸水地区を重点といたしまして、日赤あたりを中心に行なっておりますが、徹底的な消毒はやっておりません。浸水地が水が引いたらやるということでおそらく四、五日のちだということでございます。

次に、し尿関係でございますが、し尿は私どもが到着した日には災害発生以来全部止まっております。あの市がだいたい民営が九十％に依存しておる市でございまして、民間の業者が取り扱っております。識者もその処理場がパイプの故障によりまして、機能不能という状態でございまして、十九日にいたしまして、県の衛生部の思慮で県下のし尿車を二十五台動員するということでその集積場所に私も行ったわけでございますが、臨時寄せ集めの各種の車あるいは民間業者で指揮系統はまだ十分でなく、しかも入るところが決まっておりますので、めざましい活動はいましておりませんでした。ただ、この処理場所が問題だということで県で水の来ないところをさがすという段階で帰ってまいりましたが、この点につきましては、市の場合には、主力が直営方式でございまして、力強く感じたのでこ

ざいまして、あ、いうことを想定いたしますと、暫定的な海洋投棄施設もし尿の場合には温存すべき必要があるということを強く感じたわけでございます。

それからごみの方の問題にいたしましては、先ほど申し上げましたように浸水地は別といたしまして、大半の市街地にはほとんどごみが出てません。われわれが過去において伊勢湾台風に際して流木あるいは、物の汚物というものの始末に非常に困ったわけでございましたが、ああいう現象は浸水地区以外には出てません。ただ浸水地につきましてはこれも伊勢湾台風に比べりやすい分規模の小さい地域でございしますので、川に面した地域でございしますので、大した量にならないと思います。ただ、ごみの焼却場が地蔵のために倒れまして、焼却不能ということでございまして、県はヘリコプターでその掘り場をさがして、そこに、集めるということをやっていると、いま、その会議中だということとでございましたが、結果は聞いてまいりませんでした。そういう事情からみますと、本市の場合、平常でもそうでございますが、あ、いった場合において必ず市で確保しておく必要があるということを感じた次第でございます。

ポイントだけを一応申し上げておきます。

#### 〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 霞ガ浦の遊園地の利用についての御質問でございますが、御承知のようにあの地区は従来霞ガ浦土地株式会社が所有いたしておりました地区でございまして、この五月末で株主が市及び開発公社に全部移った事情については御承知のとおりでございますが、したがって、本年度の霞ガ浦地区の海水浴場につきましては、開設をしないという建て前で旧会社はまいってきたようでございます。

ところで、今月のはじめに会社の性格が変わりまして、市の方から会社に対しまして、せっかくある施設であるから

市民のためにぜひとも開設をして一カ月あまりを市民が自由に海水浴をするようにしていただけないかという願いをいたしました。会社の方でも、これをやりましょうという考えを決めていただきまして、早急に非常に時期がさし迫っておりまして、何かと準備等に要する時間的な制約がありますので、他の地区の人はともかく四日市市民は、これによって夏のいつときを海水浴をやることによって保健体育上のプラスになるんだからということから急遽計画を立てていただきまして、その報告をいただいております。その内容を御説明いたします。

期間は七月十五日から八月二十日まで、入園料は無料でございます。諸施設がございますので、これを十分に活用していただければならぬ、そのためには約三百万円をかけまして、現在の建物やその他の施設を修理して利用する。演奏等もやはりお願いいたしまして、実施してレクリエーションの一つの催しといたしていただくことになっておりますが、これは無料でございます。

次に、有料休憩所がございます。休憩施設がございますして、これを無料で開放するということはどうい整理その他困難でございますので、一室一日これを利用する方々には六百円いただきたい。それから行った方々が着物を脱がれる、これを預りまして保管するというためにこの使用料は一日五十円、これには浴場の施設がございますので、入浴料はそれにつけてサービスすると、着物を預けない方々で風呂にだけ入ろうという方々には一人おとなは一回二十円、子供さんは十円こういうふうになっております。

それから施設を改修いたしましたところに食堂、氷店、菓子、喫茶店等々ございますが、これは例年どおりに経営していきたい、こういうふうを考えておるようでございます。それから貸ポートがございますが、現在会社が持っているポートがあるのでございますが、かなりいたんでおるようでございます。全部利用することはどうい困難だろう。もっともいいと思われる三十隻を提供いたしまして、これを貸しポート業者を選定し、これに無料で貸し付ける。

貸しポート業者はこれを修理いたしまして、時間貸して貸すと、それから自転車等で来られる方々のために自転車預り所を開設いたすようでございます。これは自転車に限らず自動車及びオートバイ等も含めてございますが、これは地元の青年団にお願いいたしまして、青年団は自転車一台一日二十円、オートバイあるいは自動車等は百円ないし二百円の保管料を設け、これは青年団の地元の基金にされるようでございます。

事業といたしましては、以上のとおりでございます。準備が非常に時間的な制約から一般に周知徹底といえますかPR関係がとうてい間に合いませんので、市の公報に号外として以上のような内容のことを報知することにいたしました。

それから交通でございますが、例年、霞ガ浦近鉄の停留所に急行と準急を止めていただいておりますが、これも今年度とくに近鉄にお願いいたしまして、臨時停車をしてもらうことになり、かつ霞ガ浦駅から遊園地までの間三重交通にお願いいたしまして、臨時バスの運行をしていただくことにし、市民の便益に供したいと思っております。

ところで、以上のとおりでございますが、これに要する予算といたしまして、約四百八十万円、予算を計上いたしているようでございます。そのうちたとえば、有料の郡屋を提供する等で料金を取りあるいは入浴料を取るというなどもございますので、収入がございますが、約三百万円は赤である。四百八十万のうち約三百万円を会社が赤として計上し、これを会社が負担するという考え方で予算がつくられております。そのうちお尋ねの水難事故等に対する対策でございますが、これは私どもとしても会社に対してもっとも強くお願いしている点でございます。今年度はいままでと違ひまして、PR等の期間もございません。とくに市民のためのレクリエーション施設というふうに私は考えてお願いしたんでございます。名古屋その他の方にとくに宣伝はいたしておりません。したがって入場者の

方々の数は例年に比べて少ないかとも思いますが、これの管理及び見張り等につきましての施設及び人員については、例年にくだらないように万全の措置を講じるようにお願いもし、会社もそのような計画でやっていく考えでえられるようであります。

以上、報告いたします。

次に、早魃についての御質問でございますが、本年度は例年に比べまして、非常に降雨量が全国的に少なかったのでございます。統計で見ましても、五月、六月はときおりバラつくほどの降雨があるんですが、問題になるような雨量ではございません。四月十八日から六月二日まで四十六日間、当市内に降りました降雨量というものはわずかに四十八ミリでございます。

たまたま稲の植え付け時期にあたっておりました。全市的に非常な植え付け不能あるいは植え付けたものが枯死もしくは枯死寸前にあるというような状況を呈しているところがございます。野田、久保田、河原田、下河内以下十七カ所ばかりがとくにひどいわけでございます。これの水田の作付面積で申しますと、百十二ヘクタールが作付不能、用水不足が五百十二、枯死もしくは枯死寸前のものが二百八十五、約計九百ヘクタールばかりが非常な災害を受けております。

幸いと、先ほど申し上げましたように二十日の雨で大半解消したんですが、作付が遅れましたこと、さらにこれにつきましてすでにせめりをやったとかいろいろな材料を備え付けまして、ポンプを備え付けたとか……。間違いました。先ほど申しましたことを訂正いたします。私、九百といいましたが、九十町歩でございます。九十町歩でございますから、そのように御訂正願います。簡単な井戸を掘りましたら、機械用水の設備をいたしましたり施設をすでに応急対策としてやっております。したがって、これだけの経費はまったく将来うまくいくとならば無駄に

なるわけであります。それだけ皆さんの農家の負担になるわけでございます。私どももいたしましたんですが、これについて重大な関心をもち、県及び国に対しまして、たとえば昭和三十六年に早魃の応急対策を願っておるのであります。それに全く合致、十分それに値する被害でございますので、少なくともそれに相当する、国としても助成策を講じてもらいたい、こういう考えでありまして、その例によりますという、四〇％を国が経費の補助金を出してくれておりまして、これに対して残りの六〇％のうちの四〇％をさらに市がさらに助成したという実績であったように思いますので、今回におきましても、国に強く要望いたしますとともに市も同様助成したいというふうに考え、市長にもお願いする考であります。したがって、これについては事業の実施したことについて材料の購入、あるいは労力の支払い、あるいは機具、機械の賃借料等々につきまして、すべて経費を整理していただいているように私の方から連絡はいたしておりますが、こういう書類さらにできれば写真等も添えまして、事務処理上、支障のないように準備もしておいてくれるように被害地に対しては連絡いたしている次第でございます。御了承願いたいと思います。

〔税務部長（國浦和巳君）登壇〕

○税務部長（國浦和巳君） 質問の才五項の、三十八年度の市税収入決算見込額の御質問にお答えいたします。

三十八年度の市税収入の決算見込額が二十一億八千万あまりでございます。それに特別とん釐と税が三千九百万ほどございまして、合計いたしまして二十二億二千万となっております。

〔土木部長（城井義夫君）登壇〕

○土木部長（城井義夫君） 道路、下水の維持管理の促進の問題でございますが、当初予算には下水関係といたしまして、維持管理の目的にいたしております予算といたしまして、約三百万、道路の維持修繕の予算といたしまし

て、工事費において三百万、原材料費において約二百万とこういった規模でございます。この額は当初予算としましては、例年の予算規模でございますが、例年かなりの追加予算をお認め願っておりまして、いろいろ一部の要望等もお聞きしておるわけでございます。幸いにしまして本年度はいまのところ昨年のような長雨もございませんので、昨年のように非常措置をする事態ではございませんが、非常に貴重な予算でございます。したがって担当のわれわれといたしましては、昨年度買わしていただきましたブルドーザー、ダンプカー本年度の予算で新しく買いかえをさせていただきます。また、土木部長の立場といたしましては市の財政に余裕ができませんれば、道路の維持費、下水の維持費あるいは防塵舗装を重点的に考えて追加の御処置を願いたい、これについては部長として努力をさせていただきたいというふうに考えております。

#### 〔藤谷祐一君登壇〕

○藤谷祐一君 災害関係からはじめまして、いろいろお答えをいただきましたが、とくに災害の問題についてはなお相当御質問申し上げたい事項がございますが、他の問題につきましては、簡単にございまして要領を得ました。とくに三十八年度の税収入については、結果が出ておりましてよくわかりました。

早策対策につきまして、市の方ではいろいろ資料を集められてその実情もよく調査されておるようであります。

もちろんこれにつきましては、二十日に雨が降って植付が完了いたしましたとしても、いま言われましたように相当な費用が使われております。そうして植付時期を失った収収という問題も起ります。できれば国の方にもお願いをいたした県の方にも連絡をいたし、少なくともその損失の補償についてお考え願いたいと思います。

市道の維持修繕につきましては、なお十分でございます。これについてはいろいろ御要望がございます。たとえ

ば都市排水の問題につきましても、ある場所におきましては一応年々継続事業をやっております。ところが予算の圧縮を受けてことしは中断されておるところもあるようでございます。せっかく仕事をし、三百万、五百万とかけて都市排水の計画をし、一部造成ができておりましたが、予算の圧縮のために継続ができないということになりますと、むしろそれを中断してしまって、逆に排水を悪くしておるという現象があるようであります。

こういう事実は、単に予算がないからとか金がないからとかということでおさまりません。むしろそれはさらに進んで少々の費用でも続けていって、効果を上げていくようにすべきであろうと思っております。

とくに土木部長の説明によりますと、予算は昨年に準じて組れておるということでございますが、年々増えていく車など重畳いろいろ考えますと年々ではいけません。さらに年々相当なパーセントを加えてやるべきでありそれでも十分ではありません。そういうことを考えて予算執行にあたっては、できれば建てかえ工事とかたとえば予算削減がある場合はやむを得んと思っております。そういうことをしてでも早く処置をしていくという方向に進んでももらいたいと思っております。

才一間の災害の関連でございますが、いろいろ新潟地震を振り返りまして、とくに現地に派遣された方々は詳しく現地の状況を調べられ、四日市に対していろいろお考えがあらうと思っております。またそれについては早速に手を打つべき問題、さらに国の力を借るような問題、工場自身が考慮しなければならぬ問題いろいろございましょう。おそろくさき言いましたように地震を考えずに設計はされておらないと思っております。もちろん地震のある国でありまして、若干そういう想定のもとに設計はされたと思っておりますが、不測の手段にそういう設備はしてなかったということは事実でございます。しかしその中にも急に地震、数十億、数百億をかけて改造するということは非常に困難でございますが、しかしあの地震の混乱の状況を見ますと、解決すべき点がなかったためにむしろ損害を大きくしたという問題も

たくさんございます。

たとえば、油のタンクが何万キロリットルというようなタンクが数十トン、数百トンと流れ出した場合には油は火の海となって流れて来るそうであります。その場合にはやはり工場周辺には堰堤をつくるという方法もあるようであります。

さらに都市疎開というような問題、住宅をなるべく離すというような問題もございます。手の付けやすい方向からやはり手を付けていくということが大事であります。

この間、新聞にでておりましたが、東京の大学の教授で、しかも公警対策の調査の委員長であります都留教授は四日市を去るにあたってこういうことをいっております。

国は四日市から年々二百億以上の税金を吸い上げておきながら、返してくる金はスズメの涙ほどである、四日市には何もしておらない。しかも住民は公害のしわ寄せと、いつおこってくるかわからん災害の不安に毎日脅えておるということでございます。ということは一例でございますようが学者がはっきり言っております。とくにそのときに市の案内をした理事者の一人に地下パイプ、ガスパイプはどの辺を通っておるんだと、工場と工場を結ぶガスパイプの位置を示めせという質問があったそうでありますが、その案内人は知らないと言ったそうであります。これは災害を予測して、もしも災害がおきた場合には市民を誘導し、また安全地帯に導くためにはやはり道路を通っていかなければならぬ、その道路が危険であっては困るから、事前にはっきりその場所を示めしておくべきだということからでたのだと思います。が、こういうことにつきましては、ただいま一部説明もございましたが、かつて私は四日市の市政の中で地下パイプ網のあり方をはっきりしておけということを申したことがございます。工業用水の工事を始めるときに市の監理課の方に申請をしてパイプをいけるときに、いろいろ都市によっては順序があるそうであります。四

日市は順序があるだろうからいろいろ市の指示に従うということで申請いたしました。が、まあ、別に規則はありませんから適当にやってくださいということであったそうであります。これは将来下水をやる場合に非常に支障をきたす問題でありまして、圧力の加わる上水道などはよろしいが、とくに圧力の加わらない自然流れの流れている下水となりますとやはり水の処理ができません。こういう関係から一つの順序を立てて道路の整備をなすべきであります。

また、塩浜のある地帯でございましたが、私は農地の関係をしておりますので、市の方の申請によりまして、市道の調査に行きました。ところが現場が田んぼであるはずが、すでに道路敷地のような形をしており、その下にどんなパイプをおいております。まだ埋めてなかったのに十八本のパイプがずっしと並んでおりました。まだ市道として認定もしておらん。まだ農地の許可も受けておらんのにこれはどういふことだということで問題をおこしたことがございます。しかし市の監理課が前に約束し承認したものをいまさらどうするわけにもいきませんので認めてまいりましたが、そういう事実があります。で、いちいち市の監理課の方へ書類を渡されて、全部監理課が許可しておるはず。市の地下におけるパイプ網というのは市の監理課が全部あたっておるはず。です。

たとえばこの一覧表を見まして地下道をつくりますと、だれでも一見してよくわかります。上水道の位置、下水の位置、電話ケーブルの位置、ガスパイプの位置そういうもの全部一覧表にした場合には四日市のが全部わかるはず。これはまとめてやる気であればすでにできるはずであります。しかも最近ふえております工場から工場に伝わるパイプの問題、これも工場内は別といたしましても、工場から市道にいたる部分は歴然とするはず。そういうことがよくわかっておらないと、さっき指摘されましたような問題が起きます。こういう点からいまして市は将来そういう地下系図といいますが、そういうものをつくる意思があるかどうか。これを一つお尋ねいたします。

それからさっきもいいましたように、こんご工場誘致という関係とくに油関係の工場につきましては、立地の条件

が非常にございます。たとえばいま阿倉川の前に十萬坪の大協和の敷地が予約されておりまして、二割の金が払われております。四千九百五十円、五十円プラスで二割の予約金をもらっておるんですが、昭和三十九年中に協和の進出が決定された場合は解約という条項があるようであります。しかもその中には、まあ、さらに話し合いをするということもあるようでありますが、この状況をながめて、さらに四日市はあの地帯に油工場の誘致をするかどうかということは非常に大きな問題であります。

これは四日市の政治の上で残された仕事でございしますが、将来そういうところにたとえば安全装置ができるというたしとしても、やはり金がかかる、しかも万全は期し難いという答弁がございましたが、こういうことを予期しながらさらにその工場の誘致ができるかどうかということについてのお尋ねをいたしたいと思います。

まずこの点だけを御質問申し上げます、さらにまた、お答えによって御質問申し上げます。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午前十二時休憩

午後一時八分再会

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

二宮助役。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） 午前中の御質問にお答えいたします。

地下埋設図面について共同溝の考え方は、従前にもございましたが、今回の新潟地震にあたりまして、強く学者の

間に唱えられて時代の趨勢をして、かような施設を生みそうに思えるような次第になりました。つきましては、市としましては、これらの趨勢に遅れないように十分勉強したいと考えております。

なお、危険物の所在につきまして、こんご防災計画に強く取り上げますので、防災計画の一環としてこれを市民にどんなふうに観念を持たし、承知をしてもらうようにすべきかということを検討して、それらにも善処したいと考えております。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 今後の工場誘致についての御質問でございしますが、私ども、常々考えておりますのは、産業の振興と地域社会の安寧幸福というものは矛盾さすべきではないと、すべてのものは、市民、県民、国民の幸福の増進ということが基本でございまして、これを矛盾する考え方はするべきではない。したがってこんごの産業のあり方、産業の社会性、倫理性こういったものがベースの一つとして当然考えられるべきであります。また私どもといたしましても、そのように指導いたすべきであると考えております。

したがって、今後進出する工場があった場合には、十分に公害さらに立地上いかなる影響があるかということを考えまして、処理いたしたいと考えております。

現在すでに売買の予約等が行なわれている土地がございしますが、今日におきましては、必ずしも適当なる立地条件でないと思われる地域がございしますので、これについては私も従来から関心を持っておりまして、会社がわとも十二分の相談をいたしまして、善処したいと考えております。

御了承いただきたいと思います。

〔土木部長（城井義夫君）登壇〕

○土木部長(城井義夫君) 御指名を受けるようですが、私の方の問題といたしましては、地下埋設管の問題あるいは共同ビツトの問題と存じますが、先ほど二宮助役からお答えいただきましたような次才でございまして、道路の管理を担当しております土木課、都市計画課の立場からいきますれば、共同管理の実現ということは非常に好ましいことである。なお地下埋設管の埋設の企画をつくるということは当然のことと思っております。

ただ、共同溝につきましては、国の方の補助の法律と申しますか、そういった面がまだはっきりしておらないようでございます。

現在では、東京で一部、このオリンピックを目標とした工事に行なわれておりますが、いろいろ研究する点もあると思ひますので、今後よく勉強いたしたいと考えております。

○議長(錦安吉君) 質問者も答弁者も大きな声でお願いいたします。  
藤谷議員。

〔藤谷祐一君登壇〕

○藤谷祐一君 私 の質問に対していろいろお答えがございましたが、なお十分でないところがたくさんございます。しかし、続いてたくさん質問者もございまして、項目も上っておりますので、時間を割合いたしまして、簡単にさらに要望を申し上げておきます。

とくに、この新潟地震に関連して四日市の災害をどうして守っていくかということにつきましては、非常に大きな問題でございますが、しかし、さいせん申し上げましたようにできる限り早くから手を付けて、徐々に解決できる問題は解決しておいて、災害に備えて欲しいと思ひます。今後大きな政治問題が出ると思ひます。

国の力を借りねばならぬ問題、県の力を借りねばならぬ問題、さらにコード等配水線をする問題も残っております。

これは、市長の大きな政治力によって解決を願ひたいと思ひます。これについて市長のいろいろと御努力があるうと思ひます。

さらに、霞ガ浦の利用の問題につきましては、まだ十分ではございません。方針としてはけっこうでございますが、しかし四日市市民が、とくに日曜日の憩いの場を求めて殺到した場合にどうして整理をしていくか、さらに近鉄の名古屋線から来るお客を霞ガ浦で止める場合、名古屋、桑名方面からはやはり従前のようにたくさん来ると思ひます。その方々を当市のものでないんだから入れないという方法がとれるかどうか。もしも入れた場合にはさらに殺到すると思ひます。むしろ開放をして混乱を起こすということが、現実におこるかも知れません。たとえば四日市の市民がきようは北のブロックをあけるとか、きようは南のブロックをあけてみるとかいう場合に整理をしておくと、非常にたくさんの方が集まってきてむしろ混乱を起します。

これらを考えますと、やはり一つの基準をつくって喜んで秩序ある遊園地してもらいたいと思ひます。市が経営するから、ただである、市の力でやるからむしろ行きやすいという気持でどんどん殺到してまいりますと、むしろ、新しい混乱を起すものになりますし、またさらに、水難事故等おきた場合にはその補償という問題が大きくからんでまいります。こういう点も十分考慮されてよく順序を立てて、そして喜んでいただく施設の開放をお願いしたいと思ひます。

要望といたしまして、さらに市長の御答弁をお願い申し上げます。

〔市長(平田佐矩君) 登壇〕

○市長(平田佐矩君) 今度の天災を機会としまして、わが四日市の都市の構成の上に再検討を加えなければならぬという事態になったと思ひます。

これは平素から公害問題等に関連いたしまして、何とかして整備していきたいという考えをもっておったのは皆さん御承知のとおり。しかも、四日市は議会の方々の協賛を得まして、この問題にはすでに一指を染めておるのであります。すなわち南部丘陵地帯を五十万坪にわたって市がこれを払い下げを受けて、そして低廉な土地を手に入れこの公害問題から脱出したいと思つて苦心慘たんをしてきておるのであります。

幸いと旧地主の御同意を得まして、またこれに對しましては市は応分の敬意を表することにいたしまして、一つの立派な体制をもつていたのであります。

われわれはそれを一日も早く推進したいと努力してまいりましたが、すこしわれわれの考えておることとは変わった方向に向いておることは事実であります。すなわち、われわれが直接払い下げを受けて、きわめて低廉な地所を手に入れて、そうして、これが移動を開始せしめるのにもっとも都合のいい状態に置こうと、こう考えておったのであります。必らずしも四日市の意図はそのまま通っておりません。

現在は、住宅公団によって南部丘陵地帯を開発していただくことになっておるのであります。私が卒直に考えておりましたこと、皆さんの脳裏にも往来していたこととはやや趣を異にしておる。しかしながら、その目的とするところに向かつては、軌道には乗ってきたのであります。

したがいまして、公団の手を促して一日も早く公的な場所を得て、この都市改造については一指を染めていきたいと、こういう考えでおることは皆さんのもうすでに御承知のとおり。しかしながら實際問題になりますと、ごく一小部分の土地につきましても、たとえば、市が直接補償をいたしますから移動を開始していただきたいとお願い申し上げます。住めば都であるからなかなか行きにくいというような問題も起つてまいりますし、またお住いになっていらっしゃる方々の全幅な御希望を入れるのにも市としても困難な事情もありまして、實際問題になりますと、容易な

らざることはございますが、しかし今日の新しい川崎市の場合を考えてみました。今度の新潟の大天災を考慮に入れてみますときには、やはりき然たる態度をもって大きな方針を確立して、それに沿つて動かしていけないと、右を伺いたり、左を伺いたりいろいろの小節にとらわれて、これを断行しないということになるといつの日かわが市の改造をなし得るでありましょうか。

これについては一つ十分なる、皆さまとともに計算を加えると同時に覚悟をしてかからなければならぬと思うのであります。しかし問題は四日市市の力ではどうにもできません。これは災害に對する才一番の責任者である県にも強く要請しなければならぬと、さらには国に向かつてはこれは強力に要請しなければならぬと思ふのであります。すなわち、国は向後いろいろの騒ぎを起す場面において既成都市においては思ふ存分いかなから新産業都市をこしらえるんだと、その新産業都市についてはまだ具体的にはあらわれておりませんが、その構想をいたしましては一坪に對して一万円ぐらいの補助を与えていかないうと理想的な工業都市はできないんだこういつておるんです。四日市のごときは現に国が希望するところの産業の才一線に立って、そして日本を興隆せしめる原動力になってそのもっとも尊い役割を果たしており、市民は、それに對して恩恵も受けておるかも知れませんが、苦痛も受けておるのであります。すなわち国策に順応するためには、ある程度までの苦痛を受けておるのであります。そういうものが、こういうような幾多の生きた災例に際会したときに、国というものが思い切つて現実のものにして改善するべき手をさし伸べることは、これは当然のことであろうと私は考えるのであります。

また県としても、声を大にして叫ぶのは当然であらうと思ふ。一つも県の方からそういう話が出てこない。私は残念でたまらない、はっきり言います。ぼくは……

これでは新しい産業基地をこしらえようなんてことは、それは美辭麗句であつて、腹から言っている言葉ではない

のである。ですから私は近く催されます全国市長会議に出まして、この現状を訴えてそうして将来だれかおこらんのいうことの保証のし得るものがあるかといったら、これは私はないと思う。必らずどこかに回り合せて、こういう場面がでてくるんだからいまのうちにその手を打っておく必要がある。これに対しては国として強力な支援をすべきである。

新産業都市よりもむしろ先に、現在起っているものから改善すべきであるということを私は叫ぼうと思つて、そうして市長会議の御賛同を得ることができれば政府に迫りたいと思つておりますが、最近の新聞を見ますと、政府御当局においてもそのことを御自覚になつていらつしやるように見受けられるんですが、のど元過ぎれば暑さを忘れるで、これも日がたちますとどうもおもしろくないからこの際少しきびしゅうございますけれども私は大いにこの問題についてお願い申し上げて、とくに四日市のような現に國家に貢献しつつあるところにむかつては、よろしい特別な処置を講じていただくべきであらうということをお願いするつもりでおります。

したがいまして、さいぜんから派遣いたしましたものから、るる申し上げましたように、もし新潟のようなものを四日市の図面の上にびったりと置いてみたらあれだけで済むかどうかということを考えますと、私はどうも済まないような気がする。非常に心を痛めなければならぬような気がするので、この際今日までも皆さま方の非常な御協力を得まして、推進しておるのでございますが、さらに一段の変わった工事に置き変えまして、そうしてこの問題を強く押し進めて行くべきが本当であらうと、こう考えておりますので、今後理事者といたしまして、いろいろの研究をなし遂げ、また専門家の、こういう方面のコンサルタントにかけまして、広く知識を得た上で、さらに皆さま方に緊急に一つ御協議をおかけ申して取り進めて行きたい所存でおるような次才でございます。

次に、霞ガ浦の問題でございますが、これは先般来申しておりますように、霞ガ浦土地株式会社は、そのまま存続

せしめていくものでございます。したがいまして、処置といたしましては、霞ガ浦土地株式会社の処置でございますがしかし実質的には市が掌握をいたしておりますので、重役の計画してまいりましたことを顧問会にかけまして、顧問会で十分研究をして、こうあるべきであるということ意見を取りまとめまして、会社の責任としてことを運ばせたいというふうに考えております。

なお、私の考え方としては、わずかな区域でもございしまするので、できる限り市民を優先していただいていきたいと思つておりますが、しかし四日市といたしましては、この近隣におきましてもやはり何となく指導的な立場におる都市でございしますので、四日市の市民だけだということはちよつと狭量のような感じがいたします。

したがいまして、四日市の市民を重点的に考慮に入れました上、一般の市民の方々にもできる限り楽しんでいただけるように、少なくともこの夏は、しばらくの間でも皆さんのお役にたつように利用せしめたいとこう考えておる次第でございますが、なお詳細につきましては、会社から申し出て来るはずになっておりますから、つど委員会にもおかけ申し上げて御相談を願いたい、こういうふうに考えておる次第でございます。

どうぞ、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（錦安吉君） 加藤議員、どうぞ。

〔加藤定男君登壇〕

○加藤定男君 私が通告申し上げました三点に御質問をいたします。

まず、市民にお尋ねいたします。市長は当初予算のときに、今回の施政方針は、その重点施策として、社会経済の動行をよく見定め、市民生活に直結したきめのこまかい施策を行ないたいと、かようにおっしゃいまして、また美しい町づくりまた住みよい町を建設されることに重点を置かれるというお話でございました。私といたしましてはまこ

とに心強いことでございまして、心から同感の意を表し、これを大きく期待をしておったのでございます。しかし、本会議に御提出になった議案といたしましては、まことに市長のお気持ちとは相反した問題ばかりであったと私は考えます。まことに残念に思う次第でございまして。

しかし、本市の財政を思うとき、また理事者の皆さんの御苦勞を考えますときに、やむを得ないものと私は配慮して御質問に立ったわけでございます。会を代表するものとしては、まことに抽象的でございまして、その点あらかじめ御承知を願いたいと存じます。

才一点の公害対策問題については、幸いと、私が公害を御質問するのに季節風と申しますか、この議場にも悪臭が流れておることは、私の質問に花を添えていることと私はまことにこの意気をもって皆さんに御質問をいたしたいと思ひます。

この問題は、当議場においても、また同僚議員の皆さんからもいつも質疑応答され、そのつど理事者の答弁はまことに形どおりの答弁の感がいたしました。

本市の公害は日に日にひどくなり、まことに憂うものでございます。いまは言葉につくせん事態に来ておると私は考えます。それは工場の増産のため、またどんどんと工場の新増設をされる意味からと私は解しております。いまのところ工場内の道義の至らしめる問題ではなからうかと深く思うものでございます。

とくに、今年度より国の施策が軌道に乗り、市長はこれを大きく期待をしておみえになることは、いつも市長の説明の中にあるわけでございますが、過日、学者グループが当市にまいられまして、公害調査、これまでの当地で行なわれたこの種の調査に比べて、異色あるものを発表されたことは、御記憶のとおりと私は思います。公害対策に有益なヒントを与えていただいたことには深く感謝の意を表する次第でございまして。

その中で、公害について秘密主義というようなことを止めようというような言葉がありました。またガラス張りによって調査をしたいと、公害対策がすでに才二次のものであるというような指摘ある最後長策の運動にヒントを与えていただいたことは、まことに時宜を得た言葉であると私は深く感謝の意を表した次第でございまして。幸いと本市公害対策も市長は新しい角度から、新設対策費の増額等を現在行なわれておられます。その新しい課において新しい公害対策の問題を今日どのように取り組んでおるか、その内容を御説明を願いたい。

それに関連いたしまして、御要望を申し上げて置きます。

新潟の地震によるこのたびの災害には、心から御同情にたえん次第でございまして。同時に四日市市と新潟市との都市形体がまことによく似た感じがいたします。

本市の場合に推定をいたしまして、災害を思うとき、日々の公害に苦しむ皆さんが、さらに深い不安の念になられることは当然だと思ひます。ところが、昨日いち早く市側と石油コンビナート関連工場二十五社代表会談が防災対策にお取り組みになったことは、市民としてまことに心よく感謝にたえんでございまして。また国といたしまして、極力石油コンビナートの保安を拡充することを報道されております。

その中で本市の公害と考え合わせたことは、国は石油コンビナートの新増設に周辺の住宅地と関係を重視し、災害防止基準を明確にし、工場を住宅を分離するところ。この国の施策こそ、本市の公害対策の一環せる国のベースに取り入る機会ではなからうかと私は考えるのでございまして。

いまひとつ、新潟の災害の被害をさらに大きくした一つとして、本市でもいろいろと問題になっておる地盤沈下の問題でございまして。災害を考え、深井戸による地盤沈下、災害の諸問題等に法文化をして、明らかにこれを規制する、強く打ち出されることを私は要望したのでございまして。この地盤沈下対策についての、今後の取り扱い、規制をい

かようにされるか、この点に対して御説明を願います。

才二点の問題、土木行政については、ただいま藤谷議員より質問があり、理事者はこの問題に対して御説明がありましたので、私はこの問題を簡単に要望にとどめさせていただきます。

この問題におきましても、市長は良い町づくり、美しい町づくり、住みよい町づくりをするには、何をにおいても市民生活に直結した問題を処理するという言葉から考え合わしまして、当初予算のときに道路維持費または、都市下水においては、少額であり何とか増額の手を強く申し入れましたところ、市長は近い予算編成にその均衡をはかると仰せられたように記憶しております。この点は、お忘れになっているんじゃないかということを私は残念に思うわけでございます。これから二期をひかえ、この対策にはどのような考えがあるかということをお尋ねしたかったのでございますが、この問題は藤谷議員の質問で了承いたしましたので、私は要望だけにとどめさせていただきます。

通告の才三点、衛生面について二点ほどお伺いをいたします。

才一点は南部清掃センター完成と相まって、塵埃処理は一段と向上した感はいたしますが、いまなおどの川を見ても、また至るところの空地を見ても以前と変らない塵埃の山でございます。

これは、人間世界道義の問題と言われるかも知れませんが、一面、清掃事業にも問題があるのではないかと、能力を誇る施設の拡充と同時に、塵埃の集荷能力のバランスが取れているかどうか、この点をお尋ねしたい。

また、コンテナ方式がよいと言っているが、よいものならなぜ早く取り入れ、広く取り入れて、最大の能力を上げることがなせしなさんか、この点をお尋ねをいたします。

また、一般市民からるる小言が耳に入るわけでございますが、ごみ取りの箱の取り扱いがまことに不親切だと、またものを上げると非常に親切丁寧にやってくれと、こういうようなことが耳に入り、すでに理事者の方にも入っ

ておるだろうと私は思います。

こういう問題を担当理事者はどのように処置をするつもりでおるか、この点をお尋ねをいたしたい。

最後は、まことに問題だけで、私も議場で発言するのはどうかと思いますが、御了承願いたいと思います。

御承知のとおり四日市は、いろいろな施設が施こされておりますが、この問題はまことに忘れがちであり、また取り扱いも大変むづかしいと思います。市長の施政方針のようなふさわしいことではないので、この点を理事者の皆さん方の努力で解決をお願いしたいと思います。

終末処理始末でございますが、この問題は御承知のとおり中央にグリーベルトあります。また至るところに新しく児童公園等も施設をいたされまして、市民としてはまことに環境のよい場所を与えていただいたわけでございます。

ところが、朝夕、動物の運動に足を運ばれる方々がまことに始末の悪い結果を置いて行かれるのでございます。児童公園においては、子供の気持を大きく傷つける問題でございます。また、衛生都市を目ざす四日市といたしましても、こういう問題がある種の問題で片づけなく、この問題を何とか皆さんがたの努力で解決していただきたいと思うわけでございます。私が言うのを参考に、おりにふれて歩いていただきますれば、コロコロコロとなにが落ちていくかがよくわかります。この問題に対して対策の方法があるやないか、衛生課の担当の方に御説明を願いたいと思います。

以上、三点について答弁をお願いします。

〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕

○衛生部長（中山英郎君） お答えいたします。

才一点の公害の問題でございますが、まず、先般、当市に都留団長以下の経済調査団がみえましたときに、秘密主

義ではないかという御批判をいただいたことは、私が、ちょうど日曜日でございましたが、当市の公害事情を説明にまいりましたときにも指摘されまして、承知しております。

それで、とくに御質問になったどのように新しい体制で対処しているということの具体的なお答えを申し上げたいと思います。

新しい体制といたしましては、御承知のように機構上は公害対策課が新設された。保健所にも公害対策ができたという機構上のことがすでに御承知のとおりでございますが、以下予算的に裏づける対策といたしましては、今月の十五日だったと思いますが、県市協調の線におきましては、汚染対策協議会が従前どおり実施する。協調線であるというのを再確認いたしております。それで従前の調査は大気汚染も測定は従前どおり。さらに、才四年度継続ということでございます。さらに本年度新しく取り組むことは、気象条件が公害に及ぼす重大なポイントであるという点につきまして、気象観測所の設置を政治的に、政策的に国に要望するという点と、それが完成するまでは、航空自衛隊の協力を得まして、昨年の九月から実施しております。五百メートルから千五百メートルの空中の温度測定の場合に、明野の航空自衛隊の軽気球の分遣隊の協力を得まして、地上班の観測、それから、空中の観測といたしまして、気球を飛ばす地上と連携動作といたしましては、地上から気球をはなち、これを観測する。おもに風向の実地調査というようなこと。それから、いままでは単に高度における高いところの三段階程度の空中の温度のみでございましたが、本年につきましては、空中は、ヘリコプターによりガスの採集、その測定、それから、むろん温度、気流の調査もやりますが、これをだいたい五段階程度のものにして、しかも定期的に継続したいということで県の方を通じて、一月二回を原則といたしまして、実施する方針が決められました。だいたい話し合いができてまして、この経費につきましても、自衛隊の経費を使う。そうしてあとの調査の雑品類を協議会の経費でやるというふうにいたしました。

て、空中気象上のデータをさらに突っ込むということに向かう方針でございます。

さらに、大気汚染により人体への影響といたしまして、これは先般も本会議で申し上げましたが、その後も厚生省のほうと数字折衝がございまして、現在時点にわかっていますことは、大阪市と当四日市市で四千名、だいたい四十才以上の人を対象として汚染地区の甚しい地区の人を四千名、それから、汚染地区で被汚染地区の対象地区の人四千名を本年の七月下旬からだいたい二週間、それから、才二回といたしまして、十二月ごろに二週間行なうと、これがためにいままで市内に定点観測といたしまして、十五か所ありました観測を二十五か所に増やす。その二十五か所の中には一月を集計した亜硫酸ガスの量あるいは降下煤塵の量をする定点観測でございますが、それを毎日、毎時自動記録計による、電動式の磁気記録計と申しますが、現在は磯津と保健所に二カ所あります自動電動機を厚生省の物品を一年間借りまして、市内に四カ所ふやす。自動記録計をつくるというふうな網の目のこまかい測定を設置することに決定しております。

それで、これは実施部隊は厚生省の所属の公衆衛生員の医師班、だいたい三十名程度の一団が実施します。これは全部、だいたい大阪と四日市で二千四百万の国費が投入されるわけでございますが、一部県に委託費が出されまして、県と地元四日市市といたしましては、役務的なことを援助すると、こういう態勢になっております。目下報告調査の前提といたしまして準備中でございます。

そのほかにそれと相関連いたしますが、先月の二十一日から、今回初めて市と保健所の話し合いによりまして、東橋北地域、だいたい対象人口が九千名ぐらいおられますが、これを十五才以上にいたしますとだいたい六千名住民の方がおられる。その地域を対象といたしまして、二カ年前に実施いたしました塩浜地区の才一次検診に対応する地区を設定いたしました。五日間にわたりまして、結核検診と合わせて公害上才一次的に発見されるであろうピークプロ

これは呼吸の検査でございますが、合わせまして実施をいたしまして、現在その実態を整理中でございますが、こまかい数字は少し手元に記録がございませんが、概数千七百名程度のものが、受診されました。そして、私が新潟に出発前に課長からメモで渡されましたものが要精密検査者、さらにレントゲン写真をとっておりますが、大きな写真を取りさらに精密検査を必要と思われる方が百二名だったと思います。この人につきましては、だいたい四日間の程度で今月中に出すと、すでに通知は出したと思いますが、東橋北地区の検診を実施いたしました。この結果を待って、この七月下旬に行なわれる厚生省直轄の調査にも副次的な資料を提出し、さらに二回の調査の資料といたしたい、こういうふうに考えております。

それから、行政的には五月一日で煤煙等の規制の法律の対象になったことはすでに御承知のとおりでございますが、この対象工場は、現在時点百十工場、二百五十施設が対象にあって、先般も県に問い合わせたところが、一応の対象工場は全部調査表が出たということでございます。

これにつきましては、とくに問題になりますのは、中小企業のとくに窯業の万古工業の指導が問題になります。とくにこれは関係者の、むしろ産業関係から声が出たのでございますが、煤煙措置をするために金があると、その融資あっせんについて骨を折れ、先般の県・市の会議に出ましたときには八千万円程度の申請が出ている。これをなるべく通すように中央に働けるということを決めたしております。

さらに窯業試験所を中心として、この業体の熱管理の指導と、それから設備改善内容を個々の工場ごとに指導をしていく方針を確認いたしております。

次の問題といたしましては、この公害と保険衛生面の関係で新しい考え方は、現在進めておりますことは、一つもつとも甚しい汚染地区について具体的に申しますならば、最終的に場所は決定いたしておりますが考えの中にある

ものは磯津地区だとか、あるいはみはま地区あるいは橋北地区の場所について黒川調査団にも指摘されたのでございますが、空気が清浄な安全場所的なものを考えたいという考え方でございまして、技術的には一応正式な名前はともかく、空気清浄的なものを考えたいと、これには技術的には医学の専門家の方の御指導を得たい。で、これと関連いたしまして、手始めと申しますと変ですが、これらの環境に入る一つのテストケースといたしまして、先般教育委員会の方といろいろの相談をしまして、市内だいたい六個ないし七個について医学的には疑問でございするが、一々の調査実例といたしましてためそうじやないかという話がございます。その試みの話は市内の磯津、塩浜、あるいは橋北という地区と四郷だとかそれから三重だとかいう被汚染地区、抽象的に六七個に空気清浄機のメーカーの提拱を受けて分析もやるということで、その測定をし、その影響度を調査するという話し合いが教育委員会との方でだいたいまとまりまして、七月下旬程度から実施したいという話がいま最終段階にきております。それとさらに重症者のせんそくの疾患の継続検診については前年どおり続けたい。現在時点で私が新潟に出発前に配布した数字では磯津の方が塩浜病院に七名みえたのでございますが、理由はただす暇なかったのでございますが、二三名一時退院されたというお話を聞いておりますが、基本方針としては、重症患者についての継続診断はさらに進めてこれの療養につきましては、県市合同の分担で処理したい。なお先般も副知事にこの点、県の態度を確認したわけでございますが、上半期までは待ってくれ、それまでは市で考えてくれという話もございましたが、ともかく基本方針としては継続検診を続けたいという方針を堅持したいと思っております。

以上が現在時点でわかっておる具体的事例でございます。

次に、御指摘のコンビナートと住宅の分離ということが黒川調査団にも指摘されておった事項でございまして、この点につきましては、県市合同の名前で調査費百万で土地利用センターに委嘱いたしましたして、先般も委員の方がみえ

たわけでありますが、九月ごろに一応結論を出して土地利用及び経済価値とそれから防災価値と申しますかその判断をいたして主として土地利用、都市計画の再検討の基礎資料ということで、この主管課は、市におきましては企画開発課が担当して各課が協力するという調査法でございます。これにつきましては、先般のたゞいま問題になっております新潟の地震というものにも関係がございますが、公害面だけではそういう学理的な問題点の取り方、整理方をいま調査中でございます。

地盤沈下対策につきましては、私が承知しておりませんので、あとで補足して担当の方からお答え申し上げたいと思います。

次に、純然たる衛生面の御質問でございますが、南部清掃センター竣工後において集荷の能率がどうかとかあるいはコンテナ方式はどうかということでございますが、南部清掃センターの竣工後の能力はだいたい八時間で六十トンの能力でございますが、最盛期にはごみの性質もよかったのと相まちまして、最悪の場合八十トン、最高百トン程度のごみ処理の実績を現在とおるわけであります。

したがって、終末処理においては、予想以上の焼却能力を上げたということがこれで断言できると思うのであります。ただ注意していただくことはそのほかにこれだけでは市のごみは焼却しきれません。したがって、旧来におきまする末永焼却場の公称能力日量七十八トンの炉でございますが、この炉は老朽化いたしましたして、年中修繕で苦しんでおるわけでございますが、だいたい三十トン程度、すなわち三分の一度しか能力がございません。

それでその方の能力が落ちておるということで、総体的にはそう倍増されたわけではない状態ということを抑え願います。これに御指摘になった点は、集荷の面でございますが、コンテナ地区以外は七日取りを原則といたしまして、実施中ではほその線にしております。本年は幸いこの四月、五月雨がすくなくて、去年のようなむごたらし

い姿を呈しなかったことは幸せと考えております。コンテナ方式は本年度当初予算で八十個の予算を御承認願いますので、すでに発注済みでございますが、やがて入ると思っております。入ったあかつきにおいては、八十個の新コンテナのごみ箱がコンテナ地区に配置されます。

それから、本年まで認めていただきましたし尿車は会計課の特別のはからいによりまして、五月上旬に入って威力を発揮しております。これはちょうど教育民生委員の管内視察の前日に入って、教育民生委員の方は御覧願った機械でございます。

それからごみ箱の取り扱いが不親切だということにつきましても、私が直接電話でお聞きしたことがございます。それから、ものをもらうと親切にやるとかということも前に、四五年前によく聞いた話でございますが、最近、私自身はあまり聞かないのでございますが、これに対する取り扱いの監督にあるものの決心といたしましては、現在才一課長が末永焼却場において指揮しております。それで、そういう問題を指摘されます私どもはやっては困ると、それほど市の職員ははじめではないのだと、十分とは言えないにしても、給与面にしても、厚生面においてもずい分変わってきておるんだから、やってもらってはむしろ困る。むしろ誤解がある。やめてくれということをいってお答えしておりますが、ことの性質上われわれのわからん部面においてそういうことがあるかもしれません、われわれの方針といたしましてはそういうことが訓辞なり、指導でむしろ自負心をもってやり、またそういうことのないことをさらに注意したいと思っております。

それから犬の問題でグリーンベルトにあるという問題でありましたが、これは衛生部長としては少しお答えにくいんですが、お答えにくいということは、公園管理は公園課の方でございますが、ものの性質上、道路とかそういう公園施設内の清掃は現在才一清掃でも才二清掃でも扱っております。したがって、そういうところの場合には計画的

に集取的にやるということは、衛生部ではやっておりません。

ただ、衛生部で関係いたしますことは、そういうものがあつた場合、通報その他があれば衛生部の態度としましては管理主管課の方へ連絡した上消毒剤をまくとか臨機の共同作業的なことを衛生部としては処理したいとこういうふうに考えております。

以上終了ります。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後二時九分休憩

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。加藤議員。

午後二時三十分再会

〔加藤定男君登壇〕

○加藤定男君 私が三点について御質問申し上げましたことについて、衛生部長よりこまやかに、まことに私、頭が悪いのでおっしゃることが一つも入らんようなことでまことに面目ない次才でございます。

皆さんもおわかりと思うが、私非常にその点に遺憾に思いましたので、今後かかる事業をなし行なわれている部長の御厚意に対してことごとくそういうこまかい点を何か資料によつてたびたびお出しをいただければこれにこしたことはないかと存じます。そういう点をよろしく、御配慮願いたいと思います。

いろいろの問題で御質問申し上げましたが、地盤沈下の問題は部長よりいろいろお話がございまして、他の議員の方が通告をいたされておりますので、答弁は私はいただかなく、ただ要望としてここでお願いをしたわけでござい

ますので、答弁をいただかなくとも私はあえてさしつかえはなかったわけでございます。その点部長御了承願いたいと思います。

三点のうちで、大要、私の言葉も判じ的那种のような質問でございましたので、御了解の点もまことに、御説明に苦しいようなお話をございましたが、これは公團課、公團担当する都市計画の課長、また衛生課の皆さんとよく協議をいたされまして、児童公園に遊ぶ幼い子供の心に傷つけんような措置を辭してもらうことを強く御要望申し上げておきます。四日市市として、今後それをますます皆さん方の努力でお進めしていただく過程におきまして、この問題は十分なことでございせんが、できるだけ御手配をお願いいたしまして、三件についての要望を申し上げて私の質問を終わります。（「関連」と呼ぶ者あり）

○議長（錦安吉君） 山中議員。

〔山中忠一君登壇〕

○山中忠一君 ただいま公友会の会の代表として、加藤議員が公営問題、道路問題、衛生問題について御質問を申し上げたわけでございますが、理事者の親切な説明でよく承できたんでございするが、二点私がちょっと頭が悪いのか、聞かそこないしたのか了承がでん点がございするのでお尋ねしてみたいと思います。

才一間に理事者の答弁を聞いておりますが、四日市の市一般財政をみまするさいが目算にも足らんような予算は市長も当初予算に認めておられるし、部長もただいま何とか国の予算にしてみらいたいということをおっしゃっておられましたが、もしも九月の追加予算に事務多忙と申しまするか仕事が多忙と申しまするか、不幸にして土木に回す予算がないとせられるときには、建設部長は今後の四日市市の道路の維持と管理はどのようにして行かれるのか、それが才一点。

そうして、市長はその追加が捻出できんということになればどう考えていただく、ないからもうしようがないんだとあんな言われるか、それとも予算外の負担でやっても市民の日常生活にこと欠かないようにしてやるという御親切が、あるのかこの一点をお伺いしたい。

次に、衛生部長のただいまの答弁でございます。よく了承したのでありますが、私はただ一点本当に四日市市民が、衛生部長の言われるように、すべての点に満足し得るような処理はできておるであろうかということとは町のまた井戸端会議を聞いてみても、なかなかそのようにいっとらんじやないかということが入るんでございます。あの三滝川の堤防、各河川の堤防に山のように積ってくる塵芥が、なぜそんなところにほるんかと、取りに来てくれないからしょうがないじやないか、ほるとこがないじやないかと、私には一筆もの私有地がないのだからほらさしてもらわんならぬ、私はただこの答の一点に尽きておると存じます。いかに施設をもたれておるか知らんが、はなはだ私が遺憾に思うのは、塩浜、末永の塵芥処理現場のあの今日の様相でございます。一昨年前には尊い子供の一命を奪い取っておるといふようなことでございますが、皆さま、一べんあのいまからでもよろしい、道路に立ってこれが四日市の塵芥処理現場であろうか、文化都市を叫び、そうして美しい町づくりを唱えておられる市長も一度はあれを一べんあれをのぞいていただきたい。私は四日市のつら汚しだと、面目にかかわると、あの残骸は――。このようなことを私は感じますので、せめて行ないと実行と一にして、そうして市民の要望にこたえてやってもらう。その上に処理ができないのなら市民はなっとくするであろう。あの処理場を眺めてはたして市が、どれだけ塵芥処理場に力を入れておるんであろうと、私は一市民として疑われるのもっともだと思いますので、右の御答弁を願いたいと存ずるものでございます。

どうぞ、よろしく御答弁願います。

#### 〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 道路下水道につきまして、維持修理費がきわめて少額である、これにつきまして、先刻、土木部長からお答えいたしたとおりでございます。うちわ話を申しますと土木部長は強く私を突き上げております。

四月予算が始まったばかりでございます。六月のこの議会に一般的な経費というものを計上することについては経過日数その他からみまして、十分熟しません。すべて次に回すということで、今議会に臨んだわけでございます。もとより十分な金額であるとは私自身も思っておりません。そのために機械力を利用し、一昨年つくっていただきました道路修理班を十二分に活動さしまして、その間をまかない、さらに九月予算におきましては、せひともこれを適当な金額、ない袖でも振ってこれについての予算を計上すると、こういうことで私も市長を強くゆすぶっております、そのようにいたしたいと存じておりますので、御了承いただきたいと思っております。

#### 〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕（「簡単にやってくれ」と呼ぶ者あり）

○衛生部長（中山英郎君） 三滝川の不法投棄でございますが、これは事業上から出る土砂その他の事業の残滓と家庭ごみとがございしますが、大半は事業場その他のあるいは土建関係の土砂でございます。で、土砂につきましては現在泊山の方へ市で埋め立てをやっておりますので、そこにほっていただくように指導しています。

それから、末永焼却場のほうは南郡清掃センター建設に際しておはかり申し上げたように、一応あれは予備的な存在で長続きはしないと思いますが、あれも公称能力は下回りますが、予備的の焼却炉として維持して焼却能力の足しにしたい。将来はこれを改装したい、あるいは北部へ持って行きたい、こういうことでございます。

#### 〔山中忠一君登壇〕

○山中忠一君 まことに理事者の答弁、簡単明瞭で当を得た答弁で感服いたします。

どうか、ただいま助役が仰せられたように九月予算には、ない袖でも振ってやると、この言葉をこの議場において述べられた以上は、私は助役のお言葉を信頼していいと思うんであります。どうか、九月予算、どうか、土木維持に管理に円滑にいくような予算を立てていただくことを切に願います。

すこしそれますが、今回、われわれも管外視察にやっていたきました八戸、弘前と秋田と各四日市ほどの予算は持たなくとも、多いところは四割に達するような道路維持費を持っておる。少ないところで二割というのでございするから市長も認められるのはあたりまえでございしますので、どうか、よろしくお願いしたい。

ただいま衛生部長のお言葉は、まことに先を考えておられると思いまするが、市がまだ当分の間はだされるようにせねばならぬというのでございしまするからどうか、市民が納得のいくように、これほど力を入れていただいておるのだから、やはりわれわれも協力せにやけりやならないなというような気持ちの起るようかどうか、いまのようなあのようない見苦しい塵埃処理場じやなく、たとえ、すこしの手入れでも年々施していただくということをどうか、お願いいたしまして私は右の要望をいたしまして、質問を打ち切ります。

○議長（綿安吉君） 山本議員、どうぞ。

〔山本栄一君登壇〕

○山本栄一君 私は質問書に通告いたしましたとおり、七件の問題につきまして、市長はじめ関係理事者の方から御答弁を承りたいのでございます。

まず才一点に掲げました当市の非常時防災対策についてでございますが、このことは先ほど同僚議員の藤谷君から御質問がありまして、二宮助役はじめ関係部長の方の懇切な御答弁があったのでございます。

当四日市は、新潟市に数倍する規模のコンビナートだけに市民の不安はつるばかりでございます。新潟の昭和石

油タンクの発火はもっとも安全を考慮してつくられておりましたにもかかわらず、原油タンクからの発火であり、しかも隣接民家三百余戸を全焼するという事態を生じたのであります。それにつきましても、新潟の教訓はあまりにも大きな犠牲のうえに与えられた災害でございします。当地方にもし新潟地震のような天災があった場合、あのような悲劇を四日市が繰り返さないよう万全の措置を講じていただきたいのであります。

去る十九日の新聞が報じておりましたように、四日市は工場側がその施設に対し秘密主義を取っているためにコンビナート地域の防災対策が遅れているとするならば、これは大変なことでございます。工場地帯の防災対策が万一のときの住民の避難場所の設定、電気、ガス、水道等の復旧対策については、理事者において万全を期せられるよう要望をいたします。

次に、市道の維持管理についてでございます。これも藤谷、加藤議員から御質問がありまして、理事者の適切な御答弁があったのでございます。くどいようでございますが、わずか年間三百万円の道路補修費は、全市いたるところ舗装道路が穴だらけであり、言下に絶するデコボコ道であります。雨天のときなどは両側の人家や通行人の迷惑困難このうえもない現状であります。

先ほどの山中議員の質問要望に対しては、市長は必ずこたえていただけるものとは思いますが、現在、市民がそのように困苦に耐えている一方、姉妹都市ロングビーチ訪問の儀礼的経費に五百万に近い費用が予定されております。

私たちは、国際都市親善を推進するためにこの経費の支出については反対するものではありませんが、市長はこの意欲で市民がより以上要望しております道路行政に今後予算を計上して、市民の要望にこたえていただきたいと思うのであります。これも要望にとどめておきます。

次に、才三点に掲げました車両制限令施行後のバス路線についてであります。

去る三十六年七月国会で車両制限令が制定されました、まる三年を過ぎた本年七月末で、猶予期間が切れるのでありますが、これに対し市内のバス路線の対策はできているかどうか。この法令によりますと、市街地では道路幅六、五メートル以上、とくに混雑するところでは七、五メートル以上、地方路道では幅四メートルないし六メートル以上で、三百メートルごとに待避所を設けるなど基準が定められております。このバスの問題も市民の日常の生活から一日も切り離すことのできない重要な問題であります。もしバスの運行を止められる路線がありとするならば、関係市民で相当な迷惑をこうむるのであります。

ここでお伺いをいたしたいのは、四日市市内にこの制限令に抵触するバス路線が相当にあると思われるのであります。その路線の名称とキロ数をお尋ねいたします。なおバス路線につきましては、二年間の猶予期間の延長も考えられていると聞き及んでおります。しかしいずれは実施されるのであります。これに対して該当路線の拡幅、待避所の設置等の御計画があるかどうか、関係部長から御答弁をお願いいたします。

次に、霞ガ浦の海水浴場の運営についてであります。この問題も藤谷議員からの御質問に対し、庄司助役から詳細な御説明がありましたので、質問を中止いたします。

運営面にはある程度の疑問点もあるように思いますが、緊急を要する問題だけにやむを得ないことと了承をいたします。ただ水難事故等に対しては万全の措置をお願いしたいのと、遊園者に対しては、公德心をよくわきまえて、いやしくも他人に迷惑をかける行為のないように、また風紀の問題等十分に監督していただきたいと要望をいたします。

才五点、堀木火葬場の北大谷へ移転計画についてであります。西浦の区画整理事業に関連して、堀木の市営火葬場の移転は急務であると思っております。移転問題もいままでに二転三転の結果、松本山西方の北大谷の約二万坪の敷地に移転が決定しております。仄聞するところによりますと、その予定地付近に会社の社宅や住宅の団地

ができることとあります。墓地公園建設がおくれた場合、またまた反対運動が起るおそれが十分にあると思っております。

以上の見地から考えて、一日も早く敷地の整理等の必要があると思っております。衛生部長はどのような計画を持っておられるのか、詳細な御説明をお願いいたします。

才六点、防疫対策と環境衛生について、いよいよ伝染病発生期を目前に控えて、各地で集団的な伝染病が発生しております。本市の防疫対策は万全であるかどうか、具体的に御説明をお願いいたします。

また、塵埃の収集、下水、汚水の処理には万全を期しておられるかどうか。先ほどの御答弁にもあったように思いますが、これも具体的にいま一度お伺いをいたします。

一般下水の配水路整備についてでございます。旧市内の公共下水道事業は、関係各位の御努力によりまして、着々と完成の域に近づいております。周辺の一般下水の配水路を見ますときに工事なかばで放置されている箇所が方々で見受けられるのであります。いまだ少くして完成されると思われる箇所も相当にあると思われしますが、この一般下水の問題については、今後どのような御計画があるのかお伺いをいたします。

先ほど、御質問をされた問題と重複する点もあると思えます。どうか、重点だけでけっこうでございます。御答弁をお願いいたします。以上。

#### 〔管財課長（杉本治芳君）登壇〕

○管財課長（杉本治芳君） 車両制限令施行時のバス路線についてお答えいたします。

車両制限令に抵触いたします路線といたしましては、厳密に申し上げますと十七路線ございます。そのうち十路線につきましては、交通量がさわめて少ないと認めて規定した道路という事項に当てはめまして、先般告示いたしました

た。よりましてこの路線につきましては、規定からのがれることとなります。七路線につきましても、三百メートルごとの待避場ということやら車幅が六メートル以上ということになっておりますが、路肩を使用するという法の拡大解釈を考えますれば、いまだちにバス路線が停止されるといふものはございません。ただし、このままでいいというものでもございませんし、また交通量が徐々に増してくることが当然でございますので、早急にこの対策は立てなければならぬと思います。これの要します経費につきましては、一応家屋の移転費という工費は除きまして、道路工事費だけで千五百万円ないし二千万円は必要かと考えております。

現在のところいまから二年延長されるようでございますが、その間に根本的に対策を立てていきたいと、現在協議中でございます。

#### 〔土木部長（城井義夫君）登壇〕

○土木部長（城井義夫君） ただいまの御質問の關係のある部分についてお答えいたします。

ただいま杉本課長から答弁のありました車両制限令の実施の問題でございますが、これは緩和措置が行なわれるやにも聞いておりますが、現実の問題といたしまして、道路が非常に狭いんでございまして、法的な解釈で一応逃げられるということでありまして、道路のやっておりますわれわれの立場においては、何とかして法のぎりぎりの線あるいは拡大解釈で逃げられるのではなしに大手を振って通っていただける状況にいたしたい、こういう考え方をしております。

したがって、先ほど答弁のありましたように、千五百万程度、主として家屋移転は除きまして、千五百万円プラス補償費ということになりますと、工費は千五百万程度でとくに法に準拠する待避所等はできるんじゃないかという予想はしております。なお、これを逆に拡大しまして路線を整備いたしたい。市の財政上いろいろ問題もあると思

いますが、道路の担当のわれわれといたしましては、すくなくともこの際こういった問題を思いきって解決をつけていただきたい、こういうふうに考えておりますので、よろしく御了承願います。また、したがって予算の問題も関係いたしますが、十分に市長にも御了承を得るようになりたいと思ひます。

それから、才五間の火葬場の問題でございますが、堀木火葬場は近く実施をいたそうとする西浦土地区画整理の区域内にございまして、区画整理の遂行上からもこの堀木火葬場の問題が解決がつかないと区画整理事業が進行しないという状況になっております。したがって区画整理の完了予定を考えおります五年程度の間には、すくなくともあとが公園に使えるような状況にしたい、こういう考え方でおります。区画整理の立場からいまして、現在の施設に対する移転補償的な面は一応に計画の中に打ち込んでおります。したがって、その区画整理の立場から移転補償の出し得るような状況にタイミングを合わせていただきまして、新しい北大谷の計画を進めていただくに非常に好都合だと考えております。

次に、才七間の配水路の整備でございますが、食い散らかして大部はあって、したがってせっかくの投資が生きておらない。あるいはいまだ少し投資することによって非常に効果が上がるのではないかと御趣旨でございますが、ごもっともでございます。われわれといたしましては、そういう点よく調査いたしまして、何とか解決のつくものはつけるようにしたいと思います。

先ほどから各議員から御質問いただいております維持費の問題で額が非常に少ないということでございますが、われわれといたしましては、いただいた予算でこれをもっとも有効に生かして使おうということを考えなくてはならないのでございまして、その点十分に慎重に扱い、研究の上、的確な仕事をやりたい、こう考えております。

なお、下水道の新しい計画につきましては、下水道課長がおりますので、詳細に説明をさせていただきますと思ひ

ます。

〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕

○衛生部長（中山英郎君） 関係部門についてお答え申し上げます。

堀木火葬場の北大谷への移転ということにつきましては、先ほど土木部長から土木部の立場において御説明があったわけですが、これは墓地公園と火葬場を二つを含めるということに、当初西浦区画整理の発端当時からなっております。衛生部の担当する火葬場におきましては、規模、構想につきましては、一応一宮市当たりの例を取りまして、案をもっておるわけでございますが、その進捗について、現在率直に申し上げますと、棚上げという形になっております。棚上げの原因は、一番の最たるものは進入路の問題でございます。これはいろいろな方法がございまして、いずれを取るかということにつきましては、財源的な関係もございまして西浦地区の進捗状況を期せずして一挙に解決したい。これは土木課と合議的な立場において処理したい、このように考えております。一応の成算は火葬場設置のものは持っております。そういう段階でございます。

次に、防疫対策と環境衛生について具体的に説明せよということでございますが、防疫対策につきましては、海外的なものは厚生省から毎月資料をいただいで、世界中における伝染病の発生の情報がいります。とくに開港場を控えておる四日市港をする本市といたしましては、先般も打ち合わせがございましたが、国際連合の情報が月報でまいておりまして、その情勢によって海から来る防疫対策は、名古屋の検疫所と地元の保健所と連携をもって遺憾なきを期したいという所存でございます。

それから、環境衛生につきまして、こゝで御指摘になっておる環境衛生ということとは、ごみ、し尿の問題と思いますが、ごみ、し尿とも私どもの担当責任者といしましては、収集については十分な態勢であるということとは思って

おりません。とくになかんずく不足するものは車両と人員である。車両につきましては、現在、厚生省に総計十五台の車両申請をしております。財務当局との内部的な折衝におきまして、起債を取れば市独自の予算化も考えるというところで十五台全部まいらんかも知れませんが、この起債の確保に努めたい。

とくに先般名古屋で大会がありましたときに、公害都市については、特別に考えるべきだという決議もいたしておりますので、そういう線からも合わせて運動し、起債獲得し、万全を期したいと、こういうふうに考えております。

〔下水道課長（天野助春君）登壇〕

○下水道課長（天野助春君） 下水道事業の三十九年度の事業につきまして、御説明申し上げます。

下水道事業の中には、公共下水道と都市下水道とがございまして、いわゆる公共下水道と申しますと、現在、四日市の中心部を突進しております下水道事業でございまして、三月の市会におきまして、才一期の認可の変更の議決をいただきました。これを本省に申請いたしました。六月十日付をもちまして、いままで二八三〇五七五ヘクタールの実施地区でございましたのを、拡張いたしましたして三五九ヘクタールの地域の認可をいただいておりますので、それに基づきまして、事業を進めていきたい、そのように考えております。

本年度は、補助金で四千万円内定しております。三十八年度は三千五百万円でございましたので、五百万円の増ということになっております。これは三分の一の国庫補助でございますので一億二千万の事業費、そういうことになっております。

なお、都市下水道につきましては、昨年雨池川の配水路の工事を実施したのでございますが、本年も引き続きまして、これを実施することになっております。昨年度は補助金で八百三十万円でございましたのを三十九年度は八百五十万いただいておりますので、これも同じく三分の一の国庫補助でございますので、事業といたしましては二千五百

五十万円を実施する。この個所につきましては、昨年実施いたしました反対側の水田に面したほうを渡岸工事をする  
と、延長は約五百メートル実施する予定でございます。

そのほかに都市下水道といたしまして、富田の配水ポンプ所、これが新しく三十九年度から実施できるようになり  
まして、本年度は初年度でございますので、国庫補助といたしまして、二百万円、事業費といたしまして六百万円を  
見込んでおります。いずれもこれは九月の市会に補正予算として追加したい、そのように考えております。

なお、三十九年度から南部の丘陵地の住宅計画の一環といたしまして、それに伴います下水道工事を行ないますの  
で、環境事業といたしまして、二千万円、これは事業費におおしますと、六千万円でございます。なお、それに伴い  
ます終末処理場の計画でございますが、これは現在、日永のガス会社の付近で第一期公共下水道に伴います終末処理  
場を建設中でございますが、これとは別に新しく南部丘陵地域を対象にいたしました終末処理場を建設する予定でこ  
ざいまして、これも四百万円の国庫補助を一応、内諾を得ておりますので、用地も本市会にお願いしております土地  
の取得の議案が出ておりますが、用地も確保の見通しがつきましたので、この建設事業も進めて行ないたい、そのよ  
うに考えております。

以上でございます。

#### 〔山本栄一君登壇〕

○山本栄一君 御答弁をいただいたのでありますが、火葬場の問題でございます。

西浦の区画整理に関連して進めて行きたいというお話でございますが、先ほども質問申し上げましたように、周  
辺に住宅が立った場合、またその住宅の方々から排斥運動が起るような心配はないか、私はそういう心配が十分ある  
と思うのでございます。進入路が決定しないとお話でございますが、決定できれば喜んでございます。早く進

入路の決定をしていただいて、整地だけにでも一日も早くかかっていただく必要があるんじゃないかというふうに  
考えるのでございます。五年の間には必ずこうするとは御答弁がございましたが、それまで住宅が待っておってくれ  
るかどうか、これは疑問だと思えます。

先ほどの御質問に市長の答弁をお願いしたのでございますが、道路費の補修費なんか非常に少ないと、助役も何  
としてでもこんどの九月市会には、市長を吵すってでも出してもらうというお話でございましたが、これに対して市  
長はどう考えてみえるか、一言ここで答えいただきたいと思えます。

他は了承をいたします。

#### 〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 道路関係の予算につきまして、まことに乏しいから一つ考えを直して、もっと出すようにせ  
よ、ただいま、庄司助役からない袖だけれども、ひとつ市長に振らせるように一生懸命やると、こういっておられま  
したから、できる限り庄司助役のない袖を振らせるような方向に市長もひとつ努力することにいたします。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後三時十六分休憩

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

衛生部長。

#### 〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕

午後三時三十五分再会

○衛生部長（中山英郎君） 再度の御質問にお答えいたします。

大谷墓地を整地だけでもやった方がいいんじゃないかと、それから付近に住家が建つてくると支障があるんじゃないかという御配慮につきましては、ありがたく存じております。また、われわれもとくに住家が開発されていくということは、将来、問題を減退するより増やすということの可能性は十分あると考えます。だから早いほうがいいということはわかっておるわけでございますが、ただ整地だけでもということは草がはえておるとくずれませんが、整地だけだとどうもむだになるようにくずれていくと思います。それから火葬場の建設につきましては、だいたい五千万円程度の財源的な見通しもあると思いますので、財源的な見通しと、それから先ほども触れましたが、進入路等一挙に解決したい。で、さしむき整地だけでもやるのは考えてないわけでございまして、ただ、山本議員の御指摘になりますように、住家を建設するにしたがって、トラブルが多くなるということとは、それも考えまして、その火葬場の構造上について、姫路なんかは火葬場前にすぐ住家あるいは店がございしますが、ああいった体形でということに最初から思っていますので、そういう規定方針で進めたい、こういうように考えております。

以上で終わります。（「関連」と呼ぶ者あり）

○議長（錦安吉君） 伊藤議員、どうぞ。

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 山本議員の御発言に関連いたしまして、二点だけお伺い申し上げたいと思います。

才一番、都市下水の完成促進と申しますか、先ほど市長は何としてでも九月には予算を計上して、これらを進めたいとこんなようなお言葉をいただいておりますので、非常に喜んではおりますが、御案内のように工業地帯は東側が高くて西へ来るほど低いために、ものすごい排水地帯がありまして、ここ数年来悩みに悩んでおる次才であります。

そういう点をよく勘案されまして、ずっと下の一部にはすでに工事をしていたのでございますが、そのいずれもが、その後少しも進捗をいたしておりませんので、その悩みのたるや年々大きなものがございます。せひともその点について早急に研究、施行を賜りたいと思うんでありますが、才一点。

二点、防災について。この件につきましては、今剛柔谷議員の御質問にお答えくださいました市長並びに理事者の御答弁でよほどその意を尽くしたのではございますが、重ねてお伺い申し上げたいと思います。

南部工業地帯、この中にはいろいろな悩みがあります。私はたびたびこの壇上から公害の対策について叫んだものでございます。その他南部問題にはいろいろな悩みがありますが、今日は大きな不安恐怖におそわれていることばけだしいままでは一度もなかったのでございます。きのうは新潟の震災である。川崎のガス爆発である思っておりますが、あすはわが身に迫っておるような、その恐怖心がこれは工業地帯にびまんしております。いい知れない不気味な気持ちでございます。夕方、将棋をしておる人むれに仏どもが通りまして、すぐにいったい、おれたちはどうなるのや。ここにあの程度の地震が起ったらいい、われわれはどうなるのや、こういう声はお風呂に行こうが、花見に行こうが、一たん家を外に出たならば、あちらにもこちらでも聞くのがその気持でございます。私は考えました。本当に今日のこの市政の上になさにならんことがあるが、私は市政要論と申しますか、市政のもっとも大事なものは、市民に不安を与えないということであらうかと思ひます。不安のある二十四時間、日々を過ごすほど本当に私は、愚政はないと考えております。

南部工業地帯の市民が、日夜晩めて不安と恐怖におののいておるものは、無数に並んでおるあのタンク類、それから軒下を通っておるたくさんのコンビナートの配管であります。しかもその近くには高圧ガスが通っており、故障があったら知らせよこんなような意味のことが書かれてあります。それを目の前に見ておる市民が、この今次の災害を



なお、中間部にはさまりました住居地域並びに商業地域の排水につきましては、これは地盤の沈下によりまして、普通の都市排水的な考え方では十分な排水を期待することができませんので、公共下水道的な考え方をいたしまして、これをコンサルタントに依頼したのでございまして、このマスタープランが一応、完成いたしております。この概要といたしましては、近鉄の西側において幹線一本、大井ノ川の方角に敷設する。それから県道の東側並びに県道をはさんで一本、南北に幹線排水路を計画いたしまして、これを二つ合わせまして、現在、大井ノ川の排水ポンプ場がございしますが、あれの西側の地域で大きなポンプ場を設置いたしまして、あれから排水するというプランが一応できておるわけでありまして。これには、ばく大な費用が要しますので、現在、実施いたしております才二期の工場下水道、その次に才二期といたしまして、橋北並びに落合川周辺、それから塩浜地区、これを才二期の計画に入れます。終末処理場といたしましては、現在バス会社の付近で計画しております敷地が、一応その付近を入れました敷地がありますので、そこで、処理をして排水をいたしたい、そのような考え方をしております。

なお、近鉄の西側の排水につきましては、とくにコンサルタントにあそここの問題について依頼したんでございすが、皿の底のような状態でございまして、現在の状態ではあそここの池の水まで排水するということは、不可能な状態でございまして、近くあの付近で住宅化するという想定のもとに排水計画を樹立したい、このように考えております。

なお、現在の段階といたしましては、予算の有効なる運用によりまして、現在の排水施設を十二分に利用いたしまして、排水の完全を期したい、そのように考えております。

#### ○消防長（竹内鉄雄君）登壇

○消防長（竹内鉄雄君） 答へ申し上げます。

タンク群の耐震は考慮されておるかとの御質問でございしますが、これは承りますと、午前中にもお答え申し上げますように、震度三度程度の耐震が考えられておるようでございまして。もっともこの震度何度に対する耐震と申しましても、私どもまあ空間的には詳しいことはわかりませんが、同じ四日市市であり同じ南部でありまして、土地の条件によって実際の場合には違ってくるということでございまして。

したがって、この耐震設計を上回る地震現象が起った場合には必ずしも安全とは言えないのでございまして、私どもが午前中にも申しましたように、絶えずして被害が起った場合にはどうするかというのを当面の問題として考えておるわけでございます。もっとも、今後、消防法の関係法令が改正されまして、こうした耐震性をどのくらいにやるのが適切であるかということは、各それぞれの専門家の科学的な計算に基づいての規制が出ると思うわけでございまして、その規制が与えられるまでの間は、もしそういう上回る現象が起きた場合の災害はどうするかということをおわれれば考えていきたいと思っております。

それからその次に、現在の工場の施設でもって隣接の人家が安全であるかどうかという問題でございしますが、これも現在の法規上におきましては、安全であるということでも許可をされておるのでございまして。しかしこれも最前申しましたような新潟の例もありますので、たとえば現在は大型タンク一つごとに、例の大昭和石油の火災の状況から割り出しまして、防油堤から油が流れておることを防ぐ施設といたしておりますけれども、新潟の例によりまして、消防長が申しておりますとおり、これはただ新聞紙上で承知をいたしただけでございしますが、そこにある一か所ごとのタンクに防油堤をつけることはもちろんであるけれども、タンク群全体を一つの防油堤をつけるような法改正の方向に進んでおるわけでございます。しかし、この防油堤をつけましても、防油堤そのものの工事をもまた厳重に規制しないとせっかく固めましたけれども、破れてきて漏れてしまいうんでは、これはどうにもなりませんので、そう

いう点が考えられると思いますけれども、現状では先ほど申しました震度三程度のものを考え合わせて現状では付近住家が安全であるということが言えると思いますけれども、それ以上のものは絶対的な安全性は確保しておらないということでございます。

それから、次のパイプラインの種類でございますが、これはもう、工場内はともかくといたしまして、道路沿いには無数のパイプラインが走っておりますのでございまして、いろいろ種類を申し上げますとたくさん種類がございまして、時間的にもどうかと思しますので、一部御紹介を申し上げてそしてあとは資料として詳しい図面をさし上げたいと思います。それでよろしゅうございましょうか。で、原油タンクもありますし、ガソリンもあります。プロパンもございまして。それからエチレンもございまして。それからブタンもございまして。それから副生ガソリンというものもございまして。いろいろ種類がございまして、資料としてさし上げたいと思っておりますが、そういったもののパイプの太きでございまして、これは十二インチから、大きいものは十二インチそれから小さいもので三インチというふうなものが通っておりますでございますが、これにつきましては、高圧ガスは通産省の所管に基づくそれぞれの規制を受けてそして埋設されております。それから油類のいわゆる危険物につきましては、法の示す技術上の基準にしたがいまして、私どもが許可をいたしております。現在のところではまあ、これも絶対的なものではございませんけれども、道路のはたに寄せて一定の深さでやっておりますので、いまのところではまあ安心であろうと、ただしこれも危険物製造所の施設するときにも申し上げましたように現在では完全であるけれども、時の経過につれて、電気関係の不足とかいうことが起こってまいりますと故障が起こらないとも限らない。その故障箇所を発見するためにいろいろ警報装置なり点検規定というのがございます。点検を実施いたしておりますけれども、絶対的な安全とは言い切れないけれども、まあまあ大丈夫だろうということでございます。

それから、こういうふうな状態を市民に対して安心させるために、PRはどうかというお話でございますが、これもま、程度問題かと思しますので、絶対に安全だと、腹をかかえて引き受けたというわけにはまいらないところにはささかじくじたるものがございます、しかしこの程度のPRならば、ここで申し上げたPRならばあらゆる会合でやっていきたい。それからまた、とくに工場事業場等のそういった方面の担当者もよくそういうことに留意をされて、そして市民の不安のないような方向にもっていただくように努力をいたしたい、かように考えております。

#### 〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君　ただいま消防長から非常に力強い御答弁をもらったんでございますが、震度三には大丈夫とこういうようなお話でございますが、震度三が私たちのからだにどういうような感じがするものか、そのことはわかりませんが、先ほど私も申しましたように、このタンク群のあるところが全部とっていいぐらい沖積層であってしかも、きわめて地盤の軟弱な、その軟弱な地盤の深さが三十メートルからあると、こういうことを聞いておりますので、この点くらいはあの関係市民はほとんどの人が知っておるわけでございます。何とかして法令に触れさせねばよいというのではなしに、ひとつ十分の御指導、道徳的、社会的、人道的な御指導をぜひとも賜わりたいのであります。

二つ目の建設地はこれで行まのところでございまして、こういうお尋ねに対しては、消防長はまあいまのようなぐあいであまり進まないかと、こういうようなお話でありましたが、消防長は朝の藤谷議員の御質問にも消火については初期の消火には自信があると、初期ということに非常に力を入れられましたが、よほど用心をしていらっしゃると思えますが、まず、いまのところだいたいよろしいというふうなお話でありました。よく知らしめろ、これは私が非常に希望しておる点でございますので、さらに一例を申し述べますというところ、某工場に相当大きな水槽タンクがございまして、付近に流れておるうわさでは、あのタンクが爆発すると一・五キロやら二キロやらものすごい破片が飛ぶ

とかあるいは爆風で倒れるとかいうわきが流れておりますので、そういう点をよく御研究くださって、なるほどそういう措置が水槽タンクに講じられてあるならば、われわれはま、安心しておつてもええのかというような、市民が知らないがために不安に陥れるということのないように私は阻止願いたいと考えます。

要するところ、私の三問お尋ねしたことは、十分に保証せられないまでも、それに対して大いに関心を持っておつていただくということは了承できるのでございます。

実際に目の前にタンク群を毎日眺め数多くのパイプラインを軒下に持つておるものにとつては本当にこれはゆゆしき一大事でありまして、川崎のガス爆発そうして新潟のあの大地震は、本当にこの地区に対して、四日市市に対して大きな警鐘であろうと思います。で、ただいま御回答願つて、しかもこういうような災害を繰り返すというようなことがあつては私も、本当に申し訳なく存じております。返す返すも再びこうした惨事が万が一にもこの四日市のこのここらに起こらないように万全の策を講じて、関係市民の胸をなでおろさるうようにしていただきたいことを要望いたしましたして、終りにさせていただきます。

○議長（錦安吉君） 訓覇議員、どうぞ。

〔訓覇也男君登壇〕

○訓覇也男君 社会クラブを代表いたしまして、質問を通告の順序にしたがっていたしたいと思います。

その前に社会クラブは、地方自治法の精神に乗っ取りまして、とりわけ福祉都市の建設という点を強調しつつ進んでいくものでございます。もう一つ質問の前に申し上げたいことは、市議会は理事者側と一歩常に離れていくのが任務でございますが、せっかく全市民の力によって選んだ市民が思う存分活動できるようにさせるといふ、そのことは当然のことでございます。二歩離れないでいくといういうことを十分考えているわけでございます。と申しま

すのは、なにか議会側からの質問に対しては、卒直に腹を打ちあけて話をされるという態度がない場合もあるわけでございます。

公害の町四日市、あるいは寄付の町四日市といわれておりましたが、最近には秘密の町四日市といわれるようになってまいりました。どうか、先ほどの考え方で進んで行くわけでございますから、本当のこととお話をいただきたいと思うわけでございます。

才一番に、公害の問題でございますが、もう公害に対する問題は調査、研究あるいは防止対策という段階からもう一歩別の段階を迎えたいと思うわけでございます。四月の二日から治療ということについて緊急に善処しなければならなくなつたと考えるものでございます。当局は、四月の二日になくなつた塩浜の古川さんのことを知っていたかどうか。そしてその原因が何であつたかどうか、これを確かめられたかどうか、それに対する措置はどうせられたか、こんごそのような問題に対してどう対処しようとしておられるか、その点についてお伺いをしたいと思います。

聞くところによりますと、五十五歳の停年を迎えられて会社をやめられたあとは、会社におられるころは、しばしばぜんそくで悩まされたそうでございますけれども、会社をやめられたらとたんに元氣になられて、家業のプロパンガスの配給の仕事に飛び回つてみえた。スクーターに乗つて二つのボンベをつけて職業に一生懸命、本当に見違えるほど元氣に働いておられたということでございます。ところが、二、三年前からぜんそくのような病氣になられ、家へ帰つて来ると発作が起こり、入院している間、あるいは四日市、塩浜をちよつと離れているときもその苦しみの中からこれは公害である、磯津地区の人たちも入院をしておられるし、ずい分多くの困つていらっしゃる方がたくさんおられるが、これは公害として扱い、対策を立ててもらいたい、ぜひ公害と認めてもらいたいということをしばしば

訴えられたそうでございます。

苦しいせき込みの中から自分かもしれないも死んだならば、もしも同じく困っている人たちに對してなにか参考になるであらうからぜひ解剖をしてもらいたいという遺言をされたそうでございます。三月の終りから四月のはじめにかけて塩浜一体をおおうスモッグの中で息を引き取られたわけでございますが、かけつけた兄弟の方が遺体をそこなうということはいかないという意見もあったそうでございますけれども、苦しいなかから公害と認めてくれないという憤りやら苦しみやら、また、回りの人たちが同じように苦しんでいるのを見て、実際に自分のからだを刻んでも何とかしてもらいたいという強い遺言があったという、そのことで御了解になって解剖をされたそうでございます。

いままでも聞きますところによりますと、これは公害であるということと専門の医師は断定できないというようなことを聞いておりますけれども、専門的に原因が何であるか、どういう病名の何であるかは、そう簡単に私はわかるものではないと思いますし、また、何年かのちにそのことの本当のことをつきとめていただくことも大事とは思いますが、現にいま、この公害の地を離れたならば何ともないし、帰ってきたならば、せき込むというこの事實は、公害でなくてはかに何があるかということでございます。

また、それは特別の体質の人であらう、少数の人であらうということを聞きますけれども、たとえ一人でもそういう原因で、そういうことになって苦しみ、命を失うということがあったならば社会としてそれを放置するわけにはできません。伝染病にいたしましたとしてもかかるものもかからないものもあるわけでございますが、こと公害のことになりますと、このような形で見過され、あるいは責任が回避され、あるいは放置されておるのでございます。

公害バスカーに乗って夜磯津の海岸に行っていました。気温が下がっていきますと、いままでも空に向けていた煙がどんどん下がってまいります。煙の出るほうはそれこそ百万ドルの夜景のように、文字どおり明るく輝いており

ますけれども、磯津の町はボンボンと火がついている程度で、すだれが降りていきますけれども、煙の向かう方向まではびたり閉ざれているのでございます。

あの活気があったであらう漁師の町が、全く死んだような町になっているのを見ましたし、煙の中にさらされていると本当にもぶっ倒れそうな気がしたわけでございます。地形的に見て、とくに、磯津地区の問題は緊急の問題であらうと思うわけでございますが、それが磯津地区に限らず、この古川さんの場合は塩浜の本町でございます。

それと前後いたしましたとして、調べていただきましたところによりますと、同じ日にやはり、肺性心でなくなられた方がございます。

なお、今年のはじめから五月の終りまでの間、呼吸器系統あるいは心臓衰弱などというような系統でなくなられた方が十二・三名もおられるわけでございます。専門的にあるいは直接にこれが、公害であるかどうかということについては、われわれとして何とも申し上げられません。このような傾向にあるということも十分この重大さをあらわすひとつではないかと思うわけでございます。

さらに、この岡田屋のすぐ近くの北国さんという方が、やはり煙が来るとどうしても家にはおれない。空気洗浄機やら換気装置やらクーラーやら合計二十万ぐらいかけて小さな家の中に装置をしてややくくなったけれども、やはり風向きが岡田屋につき当たって自分の家の前に落ちてくるときにはどうにもおられない。津新町に出かけて駅の前で辛抱をしたり、あるいは湯の山まで出かけて帰ってきたり、あちらこちら四日市から遠く離れて電話でいま煙はどちらにいつているか、もう来なくなったかという話を聞いて帰って来られるのだそうでございます。

このことについて二宮助役に相談を申し上げたけれども、いまは何とも心かたがないというつれない返事であったということでございます。医者が学問的に私を公害であらうとなかろうと、断定しようとしまいとそういうことは聞

題ありません。煙が来たらせき込んでどうにもなりません。こうして逃げて歩いてるんです、ということをおられました。夜間に非常に多いので、昼間なら一本三十回の注射も夜になると五百回、七百回という処置が取られるそうでございます。経済的な負担もさることながら、こういう事実があり、しかもなお、まだこの四日市の中心にもあちらこちらにもそういう話を聞くと言っておられました。

いまや、四月二日を期して市民の命を守ることにについて緊急に適正な処置をしなければならぬと思うのでございますが、一人の人間の命を失ったことは二十万市民の命を縮めていることでございます。このような傾向が現実になった今日、これに対してどう対処をされるかということについて御答弁をいただきたい。

もう一つは、四日市の公害の調査をし、見に来られた方々は、新しい都市をつくるための参考としていろいろ資料を集めていかれます。今度できる新座都市は、たいへん仕合せだと思えます。しかし、四日市はどうしてくれるかというところについて、なかなか御意見がいただけないのでございます。

すくなくとも、モルモットになった四日市をよく調べて、新しくつくる都市の育写真ができたならばそれに合うように都市改造をするしか手がないのではなからうか。該当する人たちを疎開させ、磯津地区のようにしよっちゅう吹きさらされてる地区を集団疎開をさせるという、そういうことに抜本的な対策をいまから考えていくべきではなからうかと思うのでございます。

将来の關係でなかなか動かないという方もあると、先ほど市長が言っておられましたけれども、このような原因がはっきりした以上、そのことをいまままで秘密主義にしているからそうなのであって、実は、一人死んだのだ。人間の命を縮めているのだということをはっきり公表をして、強力な行政指導によって全部、集団移住をさせる方向に向かって進めるべきであらうと思うわけでございます。

なお、治療の点についていまままで当局がやってきました点について、いろいろ追求したい点もございます。

たとえば、医師会が公害調査のために補助金を申請をしております。いろいろ審査をした結果、担当の医師をはっきりさせてグループでもつくったときに渡すということになったのでございますけれども、それも渡っていないようでございます。補助金の問題ではなくて、あるいは臨北地区や塩浜地区だけの医師の問題ではなくて、四日市の町の真ん中に、あちらこちらそういう該当者が出ているのでございますから、いろいろ医師の組織的には問題もあらうと思えますけれども、積極的に現場の医師の協力を求めるという、そのことにもっと積極的にあらねばならぬと思うのでございます。

なお、現在、国民健康保険は、家族は五割負担でございます。塩浜に入院されている方は、それは処置ではなくて実験用、研究用として入院されておられるのだそうでございますし、五割負担を県・市がもっておられるのだそうでございますが、これを全面的にこの該当者には適用していくという、その措置なども早急に考えただかなければならぬことではなからうかと思うわけでございます。

次に、企業側のその防止の問題でございますが、このような事実がはっきりした以上、企業は積極的にこれに対して防止する対策をどの程度持っているのかどうか、このことについて市長は、この事実をひっさげて強力に要請をすべきであると思えますが、その市長の決心についてもお伺いをいたしたい。

なお、参考のために、医師の診断の問題で先ほど申し上げました北田何茶という方が、おれは公害であることを診断してくれといったときに、ある病院はこのように診断をいたしました。病名、気管支炎ぜんそく、付則として上記疾患について昭和三十八年四月より当院外来において通院加療中、病状により嚔地療法の必要を認める、このくらいしか書けないという医師の見解だったそうでございます。これほどはっきりしているということを、私は申し上げた

かったのでございます。

次に、児童福祉について。肢体不自由児の訓練施設ができるということで、新聞にも発表になったようでございますが、どうなっているのか、これはどこのだれが担当してやるのか、聞きますところによりますと、保護者が中心になってやるのかという話でございますが、このへんのことについて、その担当はだれか、経費予算はどうなっているのか、その点についてお伺いしたい。

次に、保育料の問題について。例年この話は出てまいるのでございますが、保育料の不均衡の問題については事務的にはなくて、市民感情としてほうはいとしてあるわけでございますから、これの調整についてお考えをいただけるかどうか。

次に、遊園地の問題でございます。新しい国道ができたりして、いままで海岸で遊んでいた地域の子供たちが、もうすっかり遊び場を失ったという地域はきわめて特徴的でございますが、その他市内一円本当に子供の遊び場所がございません。小規模なものでもたくさんつくることはもちろんのことでございますが、日曜日、一日親が子供をつれて遊びに行くというところを何とか一、二か所大規模なものをおつくりになる計画がおりかどうか。これに関連いたしまして、霞ヶ浦遊園地の問題が出ておりましたけれども、水の汚染度について自信があるかどうかということについて十分注意していただきたい。これは要望とどめておきます。

次に、精薄施設その他につきまして、いままで児童福祉関係で相当事務的にも考え方にも専門的なことが多いのでございます。昨年、とくに幼稚園、保育園の問題から考えて対策を立てるような委員会をつくってはどうかということについて、福祉事務所長からつくるという答弁がありましたけれども、まだできておりません。で、それらを勘案いたしまして、ぜひこれは、学者を入れた社会福祉審議会というような制度のものをつくって、抜本的に対策を練り、

年次計画でもつくるといふことが必要であろうと思います。思いつきでこのことはやっていたら将来、大きな悔いを残すと思いますので、そのような審議会でもおつくりになって専門家の指導をいただくということが一番いいのではないかと思います。そのようなことが、なされるかどうか決意をお伺いしたいと思ひます。

次に、工業都市対策でございます。先ほど来、とくに災害の問題については、御論議いただき御説明もいただいたわけでございますが、昭和三十六年、同僚前川議員が、このパイプの問題について四日市は火の海になるといふことを指摘したのでございますが、新潟、川崎の事件まで放置せられておったということについては、残念でございますけれども、この際思いきって抜本的な対策を立てられることをこれは要望いたします。問題は、消防長の若干の答弁の中にもあったように思ひますが、火を消す、災害を救助すると、なくするというだけでは消防としてもおそろくはがゆいことでありましようし、四日市といたしましても、このことでは甚だ不適切ではなからうか。

通産省の関係の行政指導、あるいは労働基準法関係の行政指導等いろいろあるわけでございますが、日ごろからの強力な行政指導をどこか窓口を一本にしてもっていなければ万全の措置は取れないと思ひますのでございます。

全国的にそうではなくても、とくに四日市、四日市の類似都市は、特別にその権限をどこか一本に集めておくといふことが必要であるといふことを、強く中央の政府に要望してこういうような体制にされることが何としても肝要であらうと思ひますし、それに応じて、たとえば高圧ガス関係の技術者を消防署の中におくとかいうようなことまで、対処せられるべきであらうと思ひますが、それについての御見解をお伺いしたいと思ひます。

なお、小さな問題でございますけれども、先般、県の計画と聞きましたけれども、でん粉工場を団地化をすると、こういうふうな発表がありました。が、わずか一年のうち、短時日稼働する工場が団地化できるかどうか。もうそれぐらいならやめるといふことになるならば、いもをつくって現金収入を得る農家の方にも大きく影響することであり

ますが、これは産業の関係からの御見解をお伺いしたいと思います。

次に、学校教育の施設、運営についてお伺いいたします。懸命な御努力によりまして、予算が本年度は一千万余り増額になったことを喜ぶものでございますが、依然としてなお、寄付に頼らなければならないという事情にあることは御承知のとおりです。

これに輪をかけていきますと、一部学校当局のものが争って寄付を集めて、いい設備を誇るといような傾向なきにしもあらずでございます。

昨年、これは一つ教育委員会として校長の評価についてどうということを開きましたときに、余分に寄付を集めて盛大なことをする校長は、適切でないとする評価に対する見解がございましたが、いま問題になっておりますのは、海蔵小学校におきまして、その昔、あまりにもパンがよくないというので、率先して寄付を集めて製パン室をつくられました。いまは閉鎖したままで放置してあるわけでございますが、その先頭に立った校長が、いま学校教育課長になっているのでございます。個人的にはきわめてりっぱな人でもあり、あらゆる面で尊敬できる点もあるわけでございますが、個人の問題ではなくて今日のこの姿を見たときに、やはり学校への寄付を求めてまで盛大にすることがりっぱな校長と認められるのかという誤解も受けるわけでございます。

そのような声を聞いておるのでございますが、そのことに対して教育長からの御見解をお伺いしたい。

次に、幼児教育でございます。保育園の場合は私立でございまして、措置費や国が決めている基準があるからよろしゅうございますけれども、幼稚園の場合は、私立であるとその保育料については規制がございません。行政指導に頼るほかにいわけでございますが、保育園もなく公立の幼稚園もないという地区に私立の幼稚園が一つございます。その地区の子供たちを教育するために、不当に高い保育料を払わなければならないという現実の事実がございます。

地域的にどうにもしようがないわけですが、これに対してどのようにこの不公平を御指導いただけるか、何か対処していただきたいと思いますが、この保育料の調整につきまして、格段の御努力をいただきたいと思いますが、いいお考えがあったらお聞きしたいと思います。私立の経営についてどうか言うのではなくて、同じ市民として高い保育料を払わなければならぬというところに問題があるわけでございますから、特別の地域に対する補助、助成などということについてお考えいただけるかどうかをお伺いしたい。

次に、教育研究所の問題でございます。これの運営につきましては、先年、機構の問題で設立の趣旨からみまして、学校教育課長に属しているということについては、趣旨に反しているのではないかとすることに對して、さっそく学校教育課の下所属から離されました。このことについては、きわめて適切な処置であったと思うわけでございますが、その後の運営につきまして、研究調査、それから研修とこの二つの大きな柱があるわけでございますが、いま、ほとんど現場教職員の研修という面だけで、研究調査という項目が少し力が抜けてきているのではないか、このとおり進めて行くならば、教育研究所でなくて、教育研修所にし、あるいは学校教育課の中の研修係ということで行くことであろうと思いますが、四日市の地域の市民の教育的要求にこたえて研究調査をするという研究所本来の事業をこんごも進めて行かれるのかどうか、力を入れて行かれるのかどうかをお伺いしたいと思います。

次に、高校教育について。これは地域が開発されていきますと、高度な経済の成長下におきまして、大きなしわ寄せを受けた姿が、一般の定時制高等学校移転の問題であったと思うわけでございますが、さし迫ってからはおおいので、もういまからこの定時制高等学校の問題について対処していかなければならぬと思うのでございますが、その後どのように折衝せられ、計画が進められておりますかお伺いをいたしたいと思います。

次に、病院問題及び保険対策について。いま、四日市の病院には、病院の増設反対というビラがいま張ってあるわ

けてございます。この増設に対して医師会からの反対の運動は、桑名の国保問題ともからみ九月を目標にしていると言いますが、そう甘くはないのではないかと思います、その後医師会との折衝がどのようになされたかをお伺いしたいと思います。

が二番目は、国民健康保険の問題でございます。

先般、運営審議会で家族の七割給付についての答申をしたのでございますけれども、とくに四日市の地域といたしまして、先ほどの公害ともからみ、あるいはが一次産業の生産手段をなくして、臨時雇人などの形でつとめに出ていながら四日市の現状も見、労働力こそが社会を繁榮させていくという、こういう見地から、いま家族が五割負担では、たちまち食うに困ることになるのは火を見るよりも明らかでございますが、これについては先ほど保険料を約三割も引き上げましたので、そう保険料の引き上げという形では対処されない。何とか繰り入れでもってやってもらいたいということをお願いしたのでございますが、来年の一月一日から家族の七割給付について実現をしていただけるかどうか、これについての繰り入れ金を全額みていただけるかどうかお答えいただきたい。一部繰り入れについては、市民の税金であるから、一部の二万世帯の被保険者に対して繰り入れをするのは不当ではないかという御意見もあるようでございますけれども、そういう受益者の問題をとらえれば、該当しないところに税金を使っている面がいくらでもあるわけでございますし、四日市の地域以外のところにも金を使っている例があるわけでございます。そうではなくて保険制度という問題と四日市の現状からみまして、すべて繰り入れてやっていただきたいと思うのでございますが、全国的に一般会計から繰り入れしている例を最高から一つ、二つ三つくらいおわかりでしたら御報告いただきたいと思ひます。

次に、市の機構及び人員配置についてでございます。

これだけ予算が増えて仕事が増えて、しかも複雑化いたしまして、機械化をせられた面もあるわけでございますが、ものを生産する場所と違ひまして、なかなか機械化だけでは人員の効率化は進みません。こんな現状になってきましたこのときに、先般も申し上げましたたとえば、国の最低基準を割っているという保育所について、あるいは老人ホームについて、まだ定数が増やされておらないように聞いておりますが、それは一例でございます、公害において、その他各所で人員がきりつめられておるようでございます。最近、人件費が多いという問題は、趣旨は御了解をいただきまして、各地で人件費が多すぎるという声は消えていったようにも思ひますが、思ひきって人員の配置を増加していただくという点についてお考えをいただきたい。将来を見通せばやがて時間短縮の問題も出てまいります。いまからりっぱに熟練された諸君を養成しておくことが、きわめて必要ではなからうかと思うわけでございます。

次に、住宅係でございますが、こんどの機構で監理課から配置されたわけでございますが、家を建てる建て方について、ないしは国の所屬についてはいまのとおりでもいいかも知れませんが、市の政策といたしましては、入っている人ないしは低所得者の管理などと関連がありますので、これは厚生部内に所屬させることが適切であろうと思ひますが、それについての御見解を承りたいと思ひます。

次に、林部長が長く入院をしておられますが、林部長の代行はどなたがやっておられるのか、先程、県庁舎の寄付がおさまって全県下に四日市が恥かしい思いをしたわけでございますが、寄付することに基本的に私は反対でございすけれども、このような慣例、慣習になってきたときには、やはり四日市だけが抜けておるといふことは恥かしい思いをしないようにしたいわけでございますが、一例を上げれば、そのようなことが事務的に停滞をしないはそこしていつているのは、中心になる総務部長が長く休んでおられるからではなからうかと解釈をするのでございますが、たいへん林部長には心痛のことと思ひますけれども、この担当について明確にお示しをいただきたいと思うわけでござ

ございます。

次に、監査委員の問題でございますけれども、このたびあの土地会社の重役か役員に選任せられたように聞いておりますが、法の趣旨からみまして、違法ではないけれども、妥当ではないのではないか、とくに開発公社のいままでのいきさつからみて不信任感があるわけでございますからこの辺のところをひとつお考えをいただきたいものと思いますが、いかがなものでございましょうか。

次に、収入役の権限の問題でございます。

この前、収入役の選任に同意をいたしましたときに、収入役も心を入れかえて収入役としてりっぱに果たすということをおわれわれも聞きましたし、そのようなことでございましたので、同意をしたわけでございますけれども、その後、各所、各議員間、職員間で聞きますと、熱心のあまりか、きわめてこまかいところまで御注意をいただいているようでございます。一例を上げれば、とくに交際費の問題については、お客さんが来て食事を注文すると、それを検収をするというので、わざわざ会計課まで持って行って井のふたを取って見てもらわなければならないということもあるようでございますし、あるいは茶菓子を買うのに、ちよっと先いうのを忘れたので、それはいかんということでも御注意を受けたという話等々たくさん話を聞くわけでございますが、私は、熱心とはいえ、このことはたとえばです、三万人の人間がそのことで右往左往して二十分かかったといたします、係長がそれで心配をし、課長補佐が心配をし、課長が心配をする、合計、一体いくらの損失になるかということでございます。これは極端な一例でございますけれども、このようにあまりにも熱心にやられるについては、行政がマヒをする部面が出てくるでありますし、また、特別、市議会の方面については交際費の内容まで知らせということになりますと、市当局とは別の機関として活動しなければならぬという、その性格からみても困る場合が出てくるのではないかと思うのでございますが、このこ

とについてわれわれの間でもいろいろ考えましたけれども、地方自治法の示めすところでは、議会の同意を得なければならぬという項目、このことについては同意してしまいました。しかし、収入役の任期は四年である。市長がこれを一方的に解職することができないということになっております。直接請求八十六条の役員解職請求、これはできるわけでございますけれども、これもまた八十八条によりまして、解職請求の制限期間が一年ということでございますから、まだ収入役が就任いたしましたから一年にならないので、これもできない。そうすると議会ですれは困りますというところで議決するということの効力がどうであるか、この辺のところがちよっとわからないのであります、法的な御解釈を一度、参考のためにお聞かせをいただきたいと思います。

以上で私の質問を、代表質問を終わりたいと思います。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後四時五十五分休憩

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

先ほど、議会運営委員会におはかりいたしましたして、本日の会議時間は、議事の進行状況をみて、これを延長することとに御内定願っておりますので、この際本日の会議時間は、午後九時まで、これを延長いたします。

衛生部長。

〔衛生部長（中山英郎君） 登壇〕

○衛生部長（中山英郎君） 才一問の公書問題について、お答え申し上げます。

塩浜の本町に住まわれておった古川さんの死亡について知っているかというお尋ねでございますが、この死亡された事実と経過につきましては、私どもが二月一日以降、塩浜病院に磯津の患者さんがごやっかいになっておりますので、折衝をもっておりまして、相当悪いということは、主治医からほかの地区にもこれらの人がおられるということは、二月の下旬ぐらいに知っておりました。なくなられたということにつきましては、吉田教授が英国へ行かれる直前のときでございましたので、吉田教授から塩浜病院患者でそういう死亡者があって、渡英前で詳しくは知らないが、解剖も頼まれておるから、さらに残った医事で解剖その他の精密検診を頼んでおいた。医学的な所見及びその他は帰ってきから聞くということで、なくなられたということはよく承知しております。

それから、磯津地区のほかに肺性心その他で十二名の死亡者があるということにつきましては、現在のところでは私の方ではつかんでおりません。これは北田さんとか、そういうことは公害対策課の方から連絡がありまして、家庭訪問とか、結果を状況を調べにいくということを、私の方へ連絡がありました。結果は聞いておりません。ただ、古川さんの場合、その他の場合はだいたい調剤議員が言われたような推移、及び事実ということは私は、同様なかなん定と申しますか、同様な結果だというふうに肯定してけっこうだと思えます。

それから緊急にそういったこともおりました緊急事態にどうして対処するのかということでございますが、公害とくに、大気汚染担当部門といたしましては、現在、磯津地区に限っておるところのいわゆる重症患者の継続検診というようなものを、県と相談中でございますが、一定の鑑定基準、あるいはそういうもので、患者を把握したい、ということ、把握した上において処理すると、この把握の方法の一つといたしまして、先般、午前中申し上げました胸部の一勢検診、それから、厚生省に行なうところの七月、八月の伝染病の検診ということと合わせて私どもが、随時、パトカーなりあるいは電話でこういう患者がおるということを、全部チェックしております。これは全市、全部、

網羅しておるとは断言いたしません、私自身が承知しておるのも十数名の患者が、そういう症状の人がおるということを公害日誌に記録するようにしております。

そういったものについていま、調剤議員が言われましたような現場の医師の協力といったことが必要になって、この通報制度というふうにするか、一つの相談として、この間、県の衛生部長と話し合いましたときには、緊急医療対策要綱というもので、処置したいというふうな態勢で、基準をもって、そうして、緊急時と予防措置とを分けて処理したい。その場合に現場の医師の協力、それから継続検診、この中には指導も含む。その表については、さし向き国が処置するでは、入院、研究、療養費については県・市共同でみていこう、こういう基本線が一応内定し、正式に決まればそうしたいと思いますが、そのほかでも実は、塩浜のいつせい検診以外においても一名現に、七月以降電話連絡で入院を通報いたしました。現在、入院中でございますが、そういうふうなことで私どもといたしましては一応現在のところでは、拠点を塩浜病院に限っておりますが、そこであそこを一つの拠点として判定してもらって随時、県との協議が整うまでは、随時その医学的所見に基づいて、医師の助言に基づいてできるだけの処置をしたい、こういうふうに考えております。

それから、企業への努力、要請での市民の決心につきましては、市長からお客えがあると思いますが、私どももいたしましては、いろんな公害に関する、または最近発生いたしました震災のことににつきまして、機会があると思いたすので、こういう事態のことを市長は御承知でございますが、そういう機会をとらえて強い要請の形で意見具申をしたい、こういうふうに考えております。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） 日短かく暮れいきます春の日に古川さんが若くして世を去られたということで、あの方は終

始、公費だ公費だといっておられた声を聞いておりますので、私たちも非常に心痛むものがございます。一体、この問題は生命に関することでございまして、こと生命に関します場合には、私たちはあらゆる手を尽くす、たとえ早く世を去っても悔がないような処置をしておくということが要諦であろうと思ひます。

こういう点におきまして、本年度はとくに、市長は塩浜地帯にあるところの呼吸器系統の患者のために悔があつてはならないというお気持ちで、一千万円も特別な予備的な経費を計上して御賛同いただく次才であります。

しかるに、かような趨勢にもかかわらず、県におかれましては、新年度が非常に財政難の事情から、あるいはそれらの分担を持ちにくいとかいうような事情がありました。市は進んで県の分も暫定的にこの一千万の力で立てかえる、もしくは患者の皆さんが必要とするところの病院におけるクリーナーのようなものはかるようにいたしまして、提供してございます。

これ、全く皆さん方に悔のないような処置をすることが必要である、こういう精神でありまして、決して、試験的にモルモットとして、一つのテストとしてゐるんだということではないのでございます。この点、とくに私は、申し上げたいと思ひます。

次に、遊園地の大規模の運営についての計画があるかとお尋ねでございましたが、この点につきまして、泊山の公園計画の中に非常に進歩的にして大きなものがございしますので、要すれば係のものからお答えするようにいたします。

さらに、社会福祉審議会の問題がございまして、これは訓導職員年末の御意見のように聞いておりますが、時代の趨勢は、それらのものにつきましてだんだんと必要を感じてくるように私たちも考えております。したがいまして、係におきましてこの点を十分、研究して社会福祉の進歩のうえに遺憾のないようにしたい、こういうことで国につ

ましても相談をし、また、学者などの意見、資料などの収集をつとめておりますので、なお、しばらくその集まるのを待ちまして、お答えする時期をお待ちしていただきたいと思います。

次に、国民健康保険の問題であります。

御案内のように本年度から四カ年計画をもちまして、新世帯主の給付を五割から七割に上るという国の政策が打ち出されました。つきましては、その希望のあるなしを解答せよという樹て前になっておりまして、われわれの市におきまして、それを研究しております。本市の事情は先に、この経済の基礎を固めるために保険料の増額をいたしております。新年度からその運びに入っておりますので、この点は、皆さん保険被保険者の方々に對しまして、非常に重圧になっておることを感じておりまして、その御苦痛がどの程度であるかということについて、しさいに觀察をいたしております。

さような事情がありますので、先に、六月六日に協議会を開きまして、おはかりをいたしました。委員会の方々が熱心に十分な御協議の末にお答えいただきましたことは、できる限り早い時期、すなわち四十年一月一日を目標としておられるようでありますが、そのできるかぎり早い時期にかつ被保険者に急激なる保険料の負担増額をかけないやうに十分配慮のうえに実施に努力せられたい、こういう市長に對する答申でございします。政府が、七割給付に踏み切りました際の四月には、各種の条件を含んでおりますが、そのなかにございまして、とくに保険料の増額をしなければやれないような場合でなくして、被保険者の負担増加というやうなことを主として考えてやれるやうなところで、この才一年度、才二年度の早期の実施を希望しているということがわかりましたので、われわれはこの点につきまして、慎重に考えました結果、その時期は、まず三十九年度実施は四十年一月一日からであります。四十年年度実施は、それ

に続いて行なわれますので、本市としましては、才一年度よりもむしろ才二年度におきまして、希望を達することが被保険者の皆さんに重なる負担増をかけないで済みますし、保険経済の基礎も無理なく進められると、こういうような見地からいまま、検討を進めております。

次に、林部長の病欠の問題でございます。

われわれは、林部長の一時出勤可能な様子をみまして、愁眉を開こうとしておりましたが、その後、意にまかせずなお、執刀されました名古屋のほうの病院に入院される必要が生じまして、おもむかれたことは御承知のとおりであります。その間の事実上の部長の事務の扱いは、軽微なものは職責上、総務課長が便利でありますので、総務課長をして、総務課長が扱っておりますが、いわゆる部長として同意し、決裁を要するような重きものにつきましては、すべて助役決裁に変更いたしましたして、二宮助役が、これを見ております。

こういう扱いをして現在のところ支障がございませんが、何分にもお話のように長期にわたります場合におきましては、これは相当考えなければなりませんので、われわれとしましてはいつまでもかような情勢のまま推移することは考えておりません。

ただ、できるだけ早い機会に本復されまして、御出勤になることを待っておりますので、いましばらく、この状況で進むことをお認めいただくようにしたいと思います。

その他の問題につきましては、関係の部長等からお答えさせます。

〔厚生部長（平井清三君）登壇〕

○厚生部長（平井清三君） 肢体不自由児の訓練施設をだれがやるのかということでございますが、これは市内の保護者を現在、予想しております。

それから、経費の關係でございますが、施設は中部西小学校のあいた教室を使いたいと思っております。それから、この施設の医師とか、訓練師は県から派遣を受ける予定でおります。ただ、器材等の初年度調弁費につきましては、県・市から二十六万三千円の助成金を支出しておりますので、その範囲内でまかなう予定でございます。

なお、その後の運営費につきましては、市の助成金をもって運営する予定でおります。それから、保育料の不均衡があるが、これについてどうするかという問題でございますが、保育料は御承知のようにその児童の属する世帯の市民税とか所得税を基準にいたしておりますので、税制上の問題がそのまま保育料にあらわれてきております。それで、税制の問題とも合わせて考慮したいと思っております。

それから、私立幼稚園だけしかない地区においては、高い保育料を払わなければならぬが、これはどうかということでございますが、これにつきましては、先ほどの保育料の問題と合わせて考えたいと思っております。

国民健康保険の繰り入れ金の多いところを二・三例上げよということでございますが、西宮市が被保険者の約六万で一億四千万程度の繰り入れを行なっております。これは給付が法定以上の給付をしているためでございます。それから、横須賀市が、被保険者が六万八千で四千四百万の繰り入れがございますし、富山が七万七千の被保険者で、三千六百万程度の繰り入れを行なっております。

〔土木部長（城井義夫君）登壇〕

○土木部長（城井義夫君） 才二間の児童福祉についての中の遊園地の問題でございます。

この点につきましては、現在、土木の都市計画課におきまして、全市的な公園緑地の計画を検討しております。この案につきまして、だいたいの案としての案がまとまりましたので、こんど建設省の公園を担当しております施設課等にいろいろ御指導いただきまして、都市計画の計画決定を進めたい、こういうふうを考えております、その案とし

て、一応課としてまとまったという段階でございます。

こんど、いろいろ市の財政あるいはその他の問題を勘案いたしまして、これを事業決定を進めて行きたい、こういうふうに考えております。

#### 〔消防長（竹内鉄雄君）登壇〕

○消防長（竹内鉄雄君） お答えいたします。

石油化学工場の安全確保に関する行政上の分野は、御指摘のとおり、通産省、労働省それから消防庁という中央官庁の所管になっておりまして、それが下がってまいりまして、県それから労働基準監督省、消防ということになっておるのでございますが、労働関係はともかくといたしまして、高圧ガスと危険物の関係は、その密接な不可分な性質からいたしまして、これは一本化するのが適切であり妥当であると私どもも常に考えております。このことは、中央官庁に反映するように申し入れは絶えずいたしておるのでございますけれども、まだ、実現をいたしておりませんが、今回の被害にかんがみまして、いろいろ検討されておるようでございます。

それから、工場安全対策の窓口は、一本にしたほうがよいのではないかとということでございますが、これは出先機関といたしましては、消防一本でまいりたいと存じております。まだ、現在でもそうなっておるのでございます。

それから、才三の技術者を置く意思はないかというお話でございますが、これは高圧ガスは別でございますけれども、危険物関係の技術者はおきたいとは考えておるのでございますけれども、現在、その人を得ないというふうな状況でございます。

ただ、ここで申し上げておきたいのは、技術者がなければ、そういう行政はできないのかといえますと、決してそうではございませんので、御承知のように、石油化学工場といえば非常に高度の施設と技術があるわけでございます。

私どもの承っておるところによりますると、石油化学に対する日本での権威者である学者の方々が、工場を視察にまわってまいりまして、その実体をつかむということは、なかなか困難であるというふうなことでございますので、私どももいたしましては、工場のそういったことから非常に詳しい係の方々を奨励することによって行政上の目的を達成いたしておる実情でございます。また、将来もそういうことを強化していきたいというふうに考えております。

#### （収入役（川崎祐男君）登壇）

○収入役（川崎祐男君） お答えします。

ただいま、副副議長から収入役が、注文した弁当のふたを取って見ろというふうな御発言がございましたが、私は、かってそういうことをした覚えはございません。また、まことに申し訳ない次ですが、係のものにもそういうことを申しつけた記憶がございませんので、ただいま、下の方へ行きまして、係のものに尋ねましたところが、弁当の注文した場合は、改はかぞえらと、それから、おりなんか注文した場合は、これは比較せんならんので、従来、調達係長において内容を検討しますと、そういうお話でございました。いま、初めてそういうことを初めて聞いたんでございますが、まことに申し訳けないと、そういうふうな次で、それがなにかの言い伝えの間違いじゃなかったかと私は思います。

ただ、私がこの際皆さんに申し上げておきたいことは、収入役の仕事というものは、支出負担行為の確認ということ、非常に重要な仕事なのでございます。ことに、この四月以降、地方自治法の改正によりまして、これを強化されておりますが、当局としましては会計規則というものがございまして、これが私が、着任以前からりっぱな会計規則がここにございます。で、係の人は、その各条項にしたがって仕事をしておられるので、あるいは皆さんが、その内容を御存じなくて誤解をなさる点があるんじゃないかと、私は考えますから、よくそう規則なんかも御覧くださ

て、収入役室、いまは収入役室、前は会計課でございますが、その係の人がその会計規則にしたがって、いろいろの指図をするという次才でございます。

私が、直接それを指示しておる場合もありますし、いまのような知らん場合もございますが、これは会計規則によって仕事をしとるでございますから、一応、会計規則などもまだ御覧になっていない方は、一べん御勉強をお願いいたします。

そのような次才です。どうぞ、よろしく。

#### 〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） 学校教育施設の運営について、お答えいたします。

かつて、寄付によりまして、施設が流通されておったということは事実でございます。これは、はなはだ残念でございますが、事実でございます。それから、例に取り上げられました海蔵の製パン室は、これは給食が始まった当時、PTAが製パンを始めてパンの質が非常に悪いというので、学校によってパンの質を向上させようということで、始めて二、三年たしか続いていたと思うんですが、経営が困難であるのとパンの質も向上したということで、もう一応これで、つくっただけの役目を果たしたということで終わっております。その施設は現在、不用になっておりますけれども、ここには現在パン置き場に使っておりますが、これにつきましては、まだ不用になった施設そのものを、PTAが処分せずにそのままっていることでございますので、これは処分してもらうように連絡いたします。なお、これによって、その当時、校長であった云々というお話がございましたけれども、私いたしましたしては、そういうことは関係なしに、そういうことを考えております。

それから、二番目の私立幼稚園の補助の問題ですが、これは総務課の方からお答えさせていただきます。

三番目の教育研究所につきましての問題でございますが、地方都市におきます教育研究所のあり方は、これは訓類さんも先達でございますので、非常に御研究になってよくわかっておいでと思うんですが、非常にむずかしい立場にあるということは、現場の先生方の立場を離れては、研究調査というものは浮いてしまう、浮いてしまうというよりは直接役に立たないという批判をこうむるという。それで、現場の問題を多く取り上げますと、これは研究調査でなくして、むしろ研修ではないかという批判を受けるということで、この研究調査につきましては、非常にむずかしい問題を含んでおりますが、現在、研究調査と研修と二つの部門をもっておりますけれども、四月早々研修の役業が非常にたくさん行なわれておりますので、一見しますと研究調査のほうがなおざりになっておるんじゃないか知らんというふうにもみえないことはないと思います。

現在、研究調査で七つの主題目を上げてこれに従事しておりますが、その研究調査の指導官といたしましては、国研の才一研究調査部長の小沼先生、才四研究室長の原田先生、企画室長の主原先生、職員員の横山先生に研究調査の御指導をいただいております。なお、これにつきましては、御先輩であります訓類さんから御指導いただきたいと思います。

それから五番目の高校教育の問題でございますが、主として定時制の問題でございますが、これにつきましては、市といたしましては、工業高校の移転とかみ合わせてこの問題を処理したいという申し出を教育委員会に申し入れております。教育委員会といたしましては原則的には賛成をしてくれておりますけれども、さしあたっての問題は、私たちといたしましては、商業の定時制の問題もございますので、まだ、進展をみていません。これははなはだ残念でございますが、何とか早い機会に商業高校の定時制の問題は解決いたしませんと、私たちもこれは自然あすこで消滅して行くのではないかという気もいたしますので、これについては努力いたしたいと思っております。

○市立病院事務長（三輪喜代司君） 医師会の病院増床に対する反対に対して、その後の医師会との交渉の経過を御説明いたします。

五月になりましてから二回交渉をもちまして、一回は向こうの医師会の要請によりまして、事務長と院長が医師会へ出しまして、いろいろと意見の交換を行なったのでございますが、この経過を結論的に申しますと、医師会は市立四日市病院の増床反対は、われわれのいわゆる民衆を圧迫するために反対するものではないんだと、四日市の医療向上のために、市立四日市病院は真に、四日市の医療センターとして、名実ともに盛ったものにするために、われわれは反対をするんであって、したがって、単なる増床だけの増設は反対である、こういうふうなことを医師会側がおっしゃって見えたんです。これに対し、私たちといたしましても、今度の病院の増床につきましては、ベッド数だけをふやすんではなくして、それに伴って内容も充実するんであるということを申し上げてまいりました。と申しますことは、現在、病院は現状を入れて、三百三床でございます。今度、二百十六床を増床いたしますならば、五百十九床、いわゆる五百ベッドの大病院となるのでございます。したがって、そうなりますれば、たとえば、検査センターにいたしましてもあるいはレントゲンにいたしましても、あるいは脳波の機械一つを取り上げても、その他いろいろなものを取り上げても現在より以上のものをこれに備えなければならないということは、これは明らかなことでございます。そういうふうな形でただ、ベッドだけをふやすんじやなくして、増床と同時に病院の内容もよくするんだというふうなことで話し合いが終ったのでございます。

その後また、私と院長と医師会側の正副会長とお会いいたしましたときにも同じようなことがございました。ただ、その中で私たちがちょっと気になりましたことは、外來を制限しろというふうなことを医師会側から申されたんでこ

ざいます。これは、私たちといたしましては、いわゆる公的医療機関として、病院のほうへ診察にみえる患者に対して、ここはあなたがたの来るところではないから、どこどこへ行きなさい、というふうなことは申し上げられません、ということをお願いしました。それとまた、医師会側といたしましては、現在、病床のベッドのあいでおる病院もあるが、これへ患者を回したらどうかということもおっしゃれましたが、これもやはりケースバイケースの問題でございます。私のほうから他の病院へベッドがあいてないために、お願いをしておるのもございます。しかし、これを無理にあなたはどここの病院へいらっしゃい、あそこがあいておりますからということはお申し上げられない、というふうなことも申し上げてきたのでございます。その後、ちやうどたゞいま副議長からお話がございます。増床反対のビラが出た当時に、医局と医師会との間に懇談会をもちました。これは、医師会側の要請によりまして、一回、病院の医者と私たちと代表とで話し合いをしたい、こういうことでございましたので、医局の先生とそれから医師会の正副会長、三人おみえになりましたが、お話し合いをいたしました。このときもやはり単なる増床は反対なんだ、われわれは、ベッド数にはこだわらないんだ、病院の内容がよくなって、しかもそれが市民の医療の向上のために役立つならば、医師会側として決して反対しない、こういうふうなことを、この席上で、二宮会長がおっしゃって見えました。こういうことでございます。

そういうことで、市長から四月二十日に回答が出されてからの交渉の経過といたしましては、根本的には病院の考え方と医師会の考え方とは同じでございます。ただ、病院といたしましては現在、医者、医局とそれからいわゆる医療部門と看護部門この二つの意見を取り入れまして、私たち事務担当者として、議案をつくりまして、現在、これをまとめ中でございます。これが、まとまりましたら、また、皆様のほうへもお知らせをしたい、このように考えておる次第でございます。

なお、予算がたしか私、前事務長から引き続いておりますと、一億三千円で、全部仕上げるというふうなことをお聞きしておるのでございますが、その範囲内でやるとすると、非常にむずかしい問題も出てまいりますので、その節はまた、皆さま方の御支援をいただきまして、よりよい市立四日市病院の建設をいたしたい。そうして、医師会ともども四日市の医療のために病院側も努力をいたしたい、このように考えておりますので、よろしく願ひいたします。

〔産業部長（芝田敬太郎君）登壇〕

○産業部長（芝田敬太郎君） 御質問、才三点の工業都市対策最後の問題、でん粉工場の団地化の問題にでございますが、過般、新聞で拝見をいたしました、その後、県の助成機関等に問い合わせをいたしておりますが、まだ、本庁から何らの連絡がないということで、私どもも詳細を承知をいたしておりません。ただ、まあ、新聞で見ましたことにつきまして、市内のでん粉工場の状態を考えると、七工場でございます、年間約二万トンの処理をいたしております。市内の、先ほど御指摘がありました零細企業であるから、もしこれを団地化せよということになると、もういっそうやめちまうというふうなことになるかねない。まさに、私ども、そういうふうな心配をいたすわけでございます。そして同時に市内のいわゆる原料であります甘しよの作付が非常に減りまして、約五百ヘクタールでございますが、それで産額は千トンから千五百トン程度でございます。金額にいたしましても、一千万から一千五百万程度でございますが、しかし、私どもはこの七つのでん粉工場のことを考えますと、単なる団地化の問題は零細企業であるかぎり、なかなかむずかしい問題でございますし、そしてまた、これが排水対策として、団地化を県が考えられたといたしますと、作業の性質上、水をかるがる使います。どこへ動かしましてもやはり、下流排水の問題は解決がせないんじやないかということを考えます。そしてまた、単なる団地化をはかるということだけでございますと、御指

摘のように年間操業日数というものは、きわめて少のうございまして、私のほうの一番多いのでも百日にならないという程度でございます。そういうことでございますから、経営の内容は専門的にはなかなかやり得ませんので、兼業家族労働、そういったこと等を取り入れております。そういうようなことから県が、これを、団地化するというところでございますと、起こり得るといいますか、問題は御指摘のとおりの問題としまして、やるとすればやはり、協業化するか企業合同するか、そういうことをいたさなければなりません。しかし、こういった問題も非常に問題点を持っております。先ほど申し上げましたように、何らの連絡がございません。私どもは、県と今後、この問題につきまして、十分連絡をいたしまして、善処をいたしてまいりたいと思っております。

〔総務課長（天野正春君）登壇〕

○総務課長（天野正春君） 才七点の機構の問題につきまして、お答えいたします。

剛副議員がおっしゃられました建設部の住宅係を民生課の中に所屬するのが普通じやないかと、こういうようなお問い合わせがありますが、機構につきましては、市のあり方あるいは人口密度、市政のあり方という考え方で現在の四日市市の、現在の住宅係の受け持っております市営住宅につきましては、御承知のように約千五百五十戸ぐらいだと記憶いたしておるのでございますが、これの管理につきましては、ほとんどが修繕と維持管理を主体としてやっておりますのでございまして、こんご二千軒、二千五百軒というような住宅政策を打ち出すことに相なりますれば、住宅課の独立ということも機構上に考え合わせなければならぬじやないかと、こういうふうな現在で考えております。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 今月初め改正いたしました霞が浦土地株式会社市の監査委員が役員として入っていること、違法ではないにしても妥当を欠くのではないかとこのことでございます。

このことにつきましては、当初、私どももいたしまして、地方自治法の建て前から、いろいろと検討を加えたわけでございます。市長あるいは三役、議会の議員等が、これに参加することは禁ぜられておるように法文ではなっておりません。ここに私どももちょっと考えましたのは、地方自治法にいわゆる該當の会社もしくは団体というのが、当該敷地が浦土地に当てはまるものであるかどうか、その実体について議論する場合に私どもはなお、疑問をもつわけでございますが、当面、疑問の措置は構わないほうがいいということで、議員に出ていただくこと、市の三役がこれに参加することを避けたのでございまして、当時監査委員について議論はしたんでございましたが、選任権者においてこれを決定するというような法文もございましたので、監査委員はまあまあいいんじゃないかという程度で送り込んだという次がございまして。しかし、当初、私どもが考えまして、できるだけ疑問となるようなことは避けるべきであるという建て前から申しまして、今日これについては、最近の時期においては是正するという前提で考えたいと思っておりますので、御了承いただきたいと思います。

それから、でん粉工場について一言、補足しておきますが、でん粉工場の出す排水が公害として非常に下流域に害をなす。さらに、当市においては、水道までがこの被害を受けまして、緊急避難措置まで講じたこと御承知のとおりでございます。一般的に公害対策についてたゞ県と市が共同で工業立地センターに委託、調査をしてもらっておりますが、それと別個にでん粉工場の公害の対策について、県みずからが工業立地センターに対策を依頼している段階でございまして、団地化云々ということは、私も承知いたしておりますが、現在、公害対策についてコンサルタントに委託調査中であるというふうに御承知をお願いしたいと思います。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後五時五十五分休憩

午後七時九分再開

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

訓期議員。

〔訓期也男君登壇〕

○訓期也男君 たいへん長時間、時間をわすらわしまして失礼でございますが、御協力をお願いしたいと思っております。

答弁のうちで、議会が不信任案を出して否決した場合にどうなるかということに対して、お答えをいただいておりますが、なかなか法律的にもむずかしい問題であろうと思っておりますので、もしお答えがありましたら、お教えいただくことができましたら、お答えいただきたいと思います。なければ、研究課題にしておいていただいてもけっこうでございます。

才一点の公害の問題でございしますが、一つは、この古川さんの場合、国家賠償法の適用の対象になるかどうか、その点、御見解をお伺いしたい。

なお、この問題につきましては、公害であるということがはっきりしたのでございますから、二宮助役のおことばによれば、塩浜病院に入院しているのは、決してモルモットやテストではないということでございますから、公害であるということがはっきりしたものに對しては、医療費、治療費の補償をすることでありましょう。そうすれば、その古川さんの問題につきましても、ずいぶん入院費がかかっておるようでございますが、これに對しても補償をすべきでありましょうし、さらに、いま現在、市内で同じ病気で苦しんでおられる該當者に對しても治療費を補償

するということを、直ちに実施をしていただきたいと思いますが、緊急医療対策要綱を作成中であるということばでありましたけれども、それに少し時間がかかるようでありますならば、そうこのように補償することとを、広報なりなんらかの方法で全市民に徹底をさせていただきたい。そうすれば、せに金をあれこれ心配する不安もなくなるでありましょうから、ぜひそのようにお願いをいたしたいと思ひます。で、この緊急の措置を直ちに実施していただくことこそ、公費才一考で、しかも、進んで自分の体を解剖に提供した古川さんの遺志にも沿うことになり、この靈を慰めることにもなろうと思ひますので、少なくともこの点だけは直ちに実施の手續きを進めていただきたいことを要望いたします。

次に、国保の問題でございますが、四十年より実施の予定というふうに、助役の御答弁をいただいたのでありますが、聞くところによりますと、周辺の町は皆、才一年度すなわち四十年の一月から実施すると聞いておりますが、この大田市が回りの町村より遅れるということは、きわめて残念なことでございますので、町村が実施しなくても市が先にするのだというくらいの気持ちで、市長の一大きな政策として才一年度から実施していただくおつもりはないかどうか、お伺いをいたしたい。

次に、肢体不自由児の訓練施設の問題でございますが、市長もこのことについては、きわめて賛意を表わしておられるように聞きますから、このような弱い人たちのこの施設を、保護者にまかすというようなことは、一つは責任の回避でもあらうと思ひますが、これは、いま直ちに民生課なら民生課で実施できないにしても、少なくとも社会福祉協議会で実施をする。社会福祉協議会をすみやかに法人化すると、これくらいの措置をして、市の、主として行政的な責任をもって実施せられるようにやってみようか。保護者に責任を持たすという形は不適當である、このように考えますが、その意思あるかどうか。

次に、安全関係でございますけれども、なんとかひとつ、特別都市としての指定を受けて特別せられるように、強力に中央に働きかけていただくよう要望いたします。

それから、病院問題につきましては、たいへん苦しい客観情勢の中で、きわめて紳士的にいいうに話が進められているようで、敬服いたしますが、ただ、業務上、病院の事務長が医師会と懇談をする、あるいは折衝をする責任者になるということについては、事実上はそうあらうとも、少し条例から見ても適當でないのではないかと。市民の健康を守る衛生、保健行政上の行政的責任者は病院の事務長にあるということについては、少し問題があるのではなからうかと思ひますが、事実上の折衝の担当者であるにしても、行政的責任者というものは、条例上も違つた形があるのではないかとと思ひますが、そういうことが、かりに紛争をしていったときに、病院ないしは病院内部の方々にたいへん御迷惑をかけることになるのではないかと思ひます。

その辺、行政上の責任者はだれかということについてお聞きいたしたいと思ひます。

もう一つ、監査委員の問題については、御答弁の趣旨を了解いたしました。

もう一つ、まだ選任せらるべき監査委員が選任されておらないようでございますが、いつ御選任になるか、その点つけ加えてお伺いをいたしたいと思ひます。

なお、人員配置の問題に関連いたしまして、せっかくいい人材を集めるために、市の職員の初任給基準を引き上げていただいたのですが、時期を失しますと、いい人材が集まらなくなるわけでございます。聞くところによりますと、すでに大企業の方では、採用試験を行なっておるようでございますが、市といたしましては、来年度の予算見直しもなかなか立ちにくいと思ひますけれども、担当者においては、最もその必要数について、政治的な問題は別として、これだけの人員は必要であるという見直しを早く立てて、一日も早く採用試験をやられるということ

が、適切ではないかと思いますが、とくに技術関係の職員などにおいては、有利なところにひっこ抜かれるわけがございますから、これに対して担当課長の御答弁をお願いしたいと思えます。

最後に、収入役の問題でございますが、規則をよく見よというような不適なことは、われわれは了承できません。こういう執行権の内部の問題についてわれわれが取り上げることは、はなはだ不適当かとも思いましたけれども、いまの市の職員の立場からは、強く市の権力に対してものを建設的に申し上げるような力関係ではないように、残念ながら伺うわけでございます。やむをえずわれらの耳にまで入ってききましたので、申し上げたわけでございますが、一部、行政の事務の混乱とかあるいは停滞とかということに対しては、きわめてむだな損失でありますので、申し上げたわけでございますが、規則どおりにやとります、わからなければ読んでみるということに対しては、先ほども控室で、訓諭君、あれはもう性分やで直らぬで、こういわれた所も聞いたのでございますが、このままではこの問題は承知できません。こういう不適なことを撤回されるかどうか、重ねて収入役の見解を伺いたいと思います。なお、公害の四日市の現状につきましては、本日の毎日新聞の「企業の大森」を読んでいただくと、そっくりそのままです。御参考のために申し上げます。

終り。

#### 〔助役（三宮力甚）登壇〕

○助役（三宮力甚） 古川さんの問題につきまして、私が先刻お答えしました申し方が不十分なために、お聞き取りを思いがけない方面に向けていただいたことは、まことに残念に思います。

あらためて申し上げますが、古川さんが御病気のことを聞きまして、県・市ともにはからいまして、御入院を進め、治療を塩浜病院にいたしましたのであります。これは、公害であるという見地からしたのではないわけであります、こ

れを機会にテストしようという考えでもなかったということを申し上げておいたつもりであります。しこうして、不幸にしてこの治療、診断の結果が、産業的な公害から発病されたのだということがかりにわかりましても、医者診断としては、公害なりという診断にはならないだろうと思えます。病名としてお書きになります、その病名のかたわらに、この病気はどういうわけで発生したというようない一つの見方を医者として書かれるだろうと思えます。その見方がつけ加わりまして、大気汚染に基づくものであって、われわれはこの大気汚染という事実を認めなきやならぬという事態の診断をえましたならば、私たちは公共団体に非常な責任を考えなきやならぬという段階がくるだろうと思えます。

先刻申ししたのは、そこまでの段階までいった過程ではありませんので、入院をお進めして、治療を受けられまして、専門の医者があすこにおられますので、その方の手を尽してもらうことが何より私たちでできることにおきましては最上なのであって、できるだけことをしてあげましたなれば、事態はよくならなくても悔いはないだろうと、こういう親切的な行政措置であったと私は信じております。

そういう事情でございますので、公害であったということをお認めなさいという意味じゃないということを、はっきり申し上げたいと思えます。しこうして、これは国家賠償につながるかどうかという問題は、きょうな次でありますから、大気汚染に基づく発病であるということがはっきりし、しかも、それが国家賠償的な要素を、法に照してもつておるといふ因果関係をたどった場合にのみ考えることでありまして、国家賠償法の対象になりうるとは信じておりません。

次に、国保の問題であります。

才一年次から率先やってほしいという御意見でありまして、まことに私たちもきょうな点は御熱意の現われだと信

じております。これらにつきまして、他の市町村の模倣をこのさい御披露申し上げます。

県下の市町村を見ますというと、才一年次に七割給付を実施したいという希望のものは一市二十三町村でございます。才二年次に希望するものが五十町村、才三年次に希望するものは六市二十三町村、かような内容にたいしたいところは、考うべき内容がたつきさんございまして、たとえば制限をしないというような問題、あるいは給付率を五割から七割にし、さらには、いずれはさらに上の八割なり九割というような目標をもつような時代が来るといふことが察せられます。かようなことのほかに、その経済自体が堅実に、長期計画性のあるものでなきやならぬと私は信じております。そういうふうな見地をとくに重視いたしまして、今回は、他の町村に負けずというふうな考え方をとらずに、むしろ堅実に、しかも、できるだけ答申に即しまして、すみやかな機会としまして、四十年度に実施したいとかような考え方であることを申し上げたいと思います。

次に、病院問題であります。

ただいまのところ、医師会との交渉の過程におきまして、病院の先生方もしくは事務当局が当たっておる現状を御覧いただきまして、病院に迷惑がかかるのではないかという御心配をいただいておりますことは、まことにありがたいことだと思っております。かようなことのないように、私たちもこんごも氣をつけるつもりであります。

ただ、行政的な責任は、申し上げるまでもなく市長にあるのであります。病院の先生方は医師会のメンバーでありますし、同業の故をもって平素、昵懇に交際しておられます。建て前から、なるべく談笑のうちに意思相通じまして、疏通をしまして、ことが運びますようにという過程におきまして、現在のところ、病院のほうに交渉を頻繁にもつていただいております。決して、本庁のほうにおきましてそれらの問題を取り上げることを避けているという建て

前をとっているわけではないのであります。不日、究極においては本庁におきましてこの問題を、医師会と話し合うような機会を持つつもりであります。

以上、三点につきましてお答え申し上げます。

#### 〔人事課長（佐々木晃精君）登壇〕

○人事課長（佐々木晃精君） お答えいたします。

御質問のありました来年度の新規職員の採用であります。お話にもありましたように、いい人材がえやすい条件がそろってまいったことはたしかでございます。従前、こういう例もございまして、四、五年前でございしますが、いい人材をなんとかして思いまして、早い目に試験が行なわれたことがございます。そのときに、幸か不幸か決定いたしました優秀なところが、二、三進学などのために抜けた例もございまして、一時迷ったこともございますが、やはりその後の状況によりまして、市役所を希望する優秀な方々がふえてまいっております。従って、県あるいは会社におきまして、相当時期的に早くなつてきているように思いますので、私自身の考えとしては、やはり将来のことを考えますと、一応、年々の計画採用は必要だと思ひます。そして、もし本年度、来年度の卒業者を目標にやるといたしますれば、時期を失しないようにお願いしたいと考えております。

#### 〔収入役（川崎祐男君）登壇〕

○収入役（川崎祐男君） 会計規則を見よというふうな、そういう失礼なことを私は申し上げた意思はないんでございしますが、もしことばじりにそういう点がありましたら、取り消さしていただきます。会計規則に従って収入役室の職員が仕事をしとるという意味でございますから、どうぞ、よろしく。

#### 〔訓導也男君登壇〕

○副町也男君 公害の問題につきまして、学問的に、あるいは医師がそうと認定するかどうかというその論を、私たちはいましていると思いますが、もうすでにここまでに立ちいたった事実問題でございます。大気汚染の影響のところへ行けば発作も起こるし、遠くへ行けば起こらないという、こういう人たちが相当数あることがわかっているのでございます。この者に対して緊急に措置をせられることを要望いたします。

市長がロングビーチへ美人コンテストに行かれることが、明るい話であるというふうにいわれました。たしかに国際協力力の面において明るく思いますが、いままでもこういう事実が隠されていたことが明るくことではなくて、その公害の事実が明るみに出たことが暗い話ではなくて、実は明るい話でなくてなんでありましょうか。そのように、すべて明暗の問題につきましては、そういう人たちが隠されていて、あるいは学問的な論議の対象からはずされたり、あるいは範圍やら区分が明確でないという理由で、その人たちが救われないと、そういうところから見ただけの場合に、ロングビーチの美人コンテストは、明るい話ではなくて、実は、逆に暗い話になるわけでございます。明暗の問題をいま論議しようとは思いませんけれども、少なくとも、こういった現実の事実に対して、手続き論や学術的な論議ではなくて、素朴な市民の常識的な公害の被害に対してこたえるように、緊急に措置をしていただきたいと思ひます。これは、要望いたします。

病院の問題については、行政責任が市長にあることは、当然のことでございます。そのような考え方で、はたして医師会対策ができるかどうか、疑問でございます。行政的な責任の行政的な担当者だれかということでございますが、これにつきましては、それは、あまり見通しでは進まないと思ひますので、こちら側の態勢もきちんとして、え、国保辞退の場面がきますならば、国民健康保険があるいはその他関係の各課とも関連する重要な事態に立ちいたりしますので、少なくとも、いまから桑名の国保辞退の事態を調査して、これにたえうるかどうかなどもよく調べておかれることが、必要であろうかと思ひます。

次に、収入役のいまのおことばで、さらに、われわれは追及しようとは思ひませんが、わざわざ下まで調べ

に行つたということが、いかに職員に暗い気持ちを持たせ、そのことが実は問題なのでございます。規則は規則、規則が懸ければ直せばいいわけでございしますが、それにしましても、運営の妙は人にあるわけでございします。そのことが自分の所管の職場にあるということに対して、これだけの世論になっているということくらいにまでわかつていふというこの事実に対して、収入役は十分反省をせられ、さらに、政治的な立場から、市長はよく御注意、御相談いただくことが適切であろうと思ひます。

以上、要望いたしましたので、私の質問を終わります。（「関連」と呼ぶ者あり）

○議長（錦安吉君） 前川議員。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君 たいへんおそくまで恐縮ですが、副町議員の質問に対して、若干、補足的な質問をしておきたいと思ひます。

まず、公害問題ですが、この公害問題の中でバイフ・ラインあるいはそのほかの防災的な問題について、いろいろと積極的な意見が出ておまして、たいへんけっこうだと思ひますが、そういうものの中から窓口が一元化され、強い行政指導が行なわれる形ができたとしても、やはりそれを受けとめるだけの態勢がなければ何もできないわけです。たとえば、いま、ちょっと話が廣へられますが、税務関係でもって大規模債却資産の係というのが、きわめて少ない係でやられております。ところが、この大規模債却資産というのは、皆さんもうすでに御承知のように、非常に大きなウェイトを占めておるわけです。従つて、どうやってこれを調査するかというと、まず会社の帳簿なり会社の出

す資料をそのまま受け入れているのが、実態ではないかと思われます。これは、税金のほうの問題ですから、人命にかかりませんが、これと同じように係が貧弱であって、会社の防災計画をそのまま書類上で審査すると、こういう形であったんでは、せっかく指導・監督の面が一本化されたとしても、それは絵に描いたもちにしかすぎないわけですね。

従って、専門家を配置するとかしないというふうな話もありましたが、現在の消防の予防係を充実・強化していくということが、具体的には必要ではないかと思われませんが、この点は、先の議会においても若干触れたと思いますが、さらに、消防長のほうの考え方、それから、現状についてお知らせをいただきたいと思うんです。

単に書類審査なり、あるいは一年に一回回られるか回られないかというふうなことであっては、大きな災害をどうするかという具体的な対策が立てられないわけですから、この点を念を入れてお伺いしておきます。

それから、五月二日に、市長の諮問機関としてありますところの四日市公害防止対策委員会におきまして、市長への答申案をつくり、これを市長にお渡しし、要望を申し上げたわけですが、これらの答申に對しまして、市のほうにおいてどういうふうに具体的な対策が立てられるのか。

時間がなくてまだ立ってないというのなら、あえて答えはいただかなくてけっこうですが、少なくとも、先ほど調剤議員から繰り返して申しておりますように、事人命にかかる問題です。一刻も猶予がなりませんから、そういう点で具体化を進めていただきたい。そして、次の議会にでも御報告をいただきたいと思ひます。あれば、いま出していただきたい。

それから、中山衛生部長の報告の中に、学校にエア・クリーナーですか、これを置いて試験をしてみようというような話がありました、これらにつきましては、科学的に十分調査をしてやっておられるのか。あるいは、さいわいに

して業者なんかの申し出があったために、それを受け入れてやっていくのか、この辺のところ、たいへんだいじな問題だと思ひんです。

公害問題でいろいろ追及されるので、まあやっておるということだと、結果的には、形だけを整えて内容のないことになるわけです。

たとえば、三十坪なら三十坪の部屋に対して、どの程度のエア・クリーナーを入れればいいのか、こういうようなことは、すぐ計算ができるはずですよ。ところが、私がちょっとこういう質問をするというところは、実は、新聞を見ますというところ、写真が出ておりました。この写真では、きわめてかわいらしいクリーナーが、先生の教壇の横にあったわけです。たぶんこれでは家庭用のクリーナーではないかと、こういうふうに考えますので、ちょっと心配をするわけですが、その辺のところをたしかめておきたいと思ひます。

それから、もう一つ。午前中の市長の答弁の中に、公害対策として移住の問題も考えなきゃならないと、そのために泊山団地のことをいろいろと具体化しようとしたが、結果的には、住宅公園の住宅開発になってしまったということ、たいへん不満でもあるし、また残念に思う、というふうな答弁があったように思ひますが、といって、私どもは、やっぱりこれは放っておくわけにいかないと思ひます。

従って、いまできる範囲のことはやらなきゃいかぬ。住宅公園の規則、規定というのがあって、四日市は指をくわえて見ていたらいのかということじゃやないと思ひます。そこでですね、この公園の法律なり規則なりを改正さしてでも、四日市の公害地区の住民を特別に入れるということ、強く関係方面に訴えて、積極的な対策をとっていただきたいと思ひますので、この点に対する考え方を、やる気があるかないか、こういうことをお伺いしておきたいと思ひます。

それから、最後に、もう副議長の方から結論が出されておりますので、私があえて申し上げるまでもないと思うのですが、収入役が、ここで率直にお前たち、勉強してこい、といったとすれば、それはたいへん失礼なことで取り消すと、このことばはたいへん率直でけっこうだと思います。

しかし、私はもう一つ答えていたなかった。それは何かというと、つまり、収入役のいつておられることは、おそらく法的に、事務的に間違ひはないと思うんです。しかし、その間違ひがないからこまかくやっていくということ、つまり「角をためて牛を殺す」、職員がいたずらにこわがってしまつて、よい心配をする。そういうことによって行政なり政治なりというものが停滞をしていくということになったら、これはいったい何のためにそういう厳しいことをやっていくのかということで、本来が転倒されるのではないかと思います。この点を十分に理解した答弁がいただきたかったです。

従つて、私はここで議長にちょっとお願いをするわけですが、少し休憩をいただきまして、私ども検討してみたいと思います。

以上です。

#### 〔消防長（竹内鉄雄君）登壇〕

○消防長（竹内鉄雄君） 消防行政のうちで、予防行政と消防活動とがございますけれども、まず出して消すよりは出さない消防というのが、これは消防行政の要諦でございます。それがためには、石油化学工場といわず、一般対象物といわず、たえず予防の面に力を入れるのが本筋でございます。また、私どもそういたしておるのでございます。

ただ、予防行政に従事する係の者が、能力が貧弱でないか、というようなお尋ねであつたかと思ひますけれども、まあ高い次元から見ただきますならば、こちら貧弱には相違ございせんけれども、私どもは私どもなりにたえず

研鑽をし、学歴はございせんけれども、たえず研鑽を行なつて、皆様の御信頼にこたえるという気持ちを持っています。まして、行政をやつておるつもりでございます。

それで、本部におまして、私以下二十名の人員でございすけれども、予防係にはそのうちの七名をさきまして、そして、それぞれの分野において研究もし検討もし、実地に出まして各工場の係員と相談もし研究もして、安全をはかつておるような次でございます。

御承知のように、石油化学工場の施設というものは、これは日本で初めての施設も多うございすし、あるいは世界でも初めてでないかというような施設もつくられておると聞いておるのでございます。そんなところの、応用化学の多少の知識のあるものを入れましても、直ちにもって役に立とうとは考えておりません。むしろ、そういうふうなものをたくさん集めてくれば、それに越したことはございせんけれども、一応、現在の段階においての取り組みの完べきを期しておるような次でございます。

#### 〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕

○衛生部長（中山英郎君） 公害の問題について、お答えいたします。

五月二日に市の公害対策委員会の答申ができたのでございますが、それにつきましては、新旧の委員長同道、直接に市長に手渡され、新旧の委員長から付帯説明がございました。

ただいまの御質問は、この答申に基づく具体措置を考えたのかどうかということでございますが、実は、この答申が用ゐして、印刷かけまして、部内の公害問題連絡会議というものを、県・市共同の大気汚染協議会が十五日にありましたので、それをもちまして、十九日に議会の日程をえまして、十九日にやるということを決定いたして、そのとさに検討することになっておりましたが、突発の新潟災害で、関係の部長が大半欠席いたしますので、延期

をしたというのが実態でございます。これにつきましては、ただいまの時点では、本月の月末に吉田教授の英国の話それから、委員である武内教授の脱硫装置に関する公開討議が予定されておりますので、それとあわせて日程を組み直して、新たにこの客申案に対する市独自の具体策というものを、ひとまず公害問題連絡協議会において策定し、あらためて市議会の都市公害対策委員会におはかりしていろいろ御意見を調整して、対外的に活動いたしたい、こういう段取りでございます。

一応、こうした形になっておりますことを、御報告申し上げておきます。

次に、私が触れましたクリーナーの半校でのテストということでございますが、この問題は、実態的には、私も塩浜病院へ行きまして、あそこに市が買収するまでに置いてあったのでございますが、病院でもこれはテスト中なんだと。しかしながら、亜硫酸ガスについてはそう効き目がないけれども、集塵については相当効果があると。しかも、医学的に、一部所見では、亜硫酸ガスと煤塵との、あるいは粉塵あたしと競合した場合には、症状が悪化するんじゃないかという疑問があるということで、あの五万四程度の集塵装置だけでは、決して効果は認められないけれども、集塵については、ある程度効果があるんじゃないか。しかも、直接、患者に聞いた話で、医者もおったのでございますが、これがあつたおかげで非常にいまは楽だということがございましたので、前川議員のいわれるように、科学的にどれだけの部屋数でどうだ、または、それを効果、悪臭あるいはそのガスの成分に対する分析価値というものは未知数でございますが、医学者の説明によりますと、あれだけでは解決しえないけれども、やってみることは、一つの試みとして有意義であるというようにいわれておりまして、そのことが、教育委員会と体育・保健の部門でこの点をタッチされまして、市の公害対策室のほうに持ち込まれた問題でございます。

ただ、私といたしましては、よりよろこのごろ各種メーカーが出てきまして、自分とこの機械宣伝にやられるとい

うことは、地方公共団体としては非常に困る、効果があろうがなかろうが困ると、特定の会社を宛名的に使うことは、政につつしむように指示してございます。また、そういうようなことがないように、私自身監督いたしたい、こういうふうに考えております。

以上でございます。

#### 〔助役(庄司良一君) 発言〕

○助役(庄司良一君) 南部丘陵地帯に住宅公園が進出して、あそこに大規模の住宅団地を形成すること、すでにこれは記されたとおりでございます。当初、市長が考えておったことと違うといいますが、ここに住宅ができると、このことについては、その住宅は四日市がまさしく利用するものでございまして、効果は同じように現われてくるものであると思います。

ただ、これの利用方法が、たとえば、市が自ら経営する場合においては、公営地の方々をこれに優先すると。優先して利用していただく、こういう措置がとれるわけでございますが、現在の公園の規定から申しますというと、そういう措置は実際上、困難でございます。公園の規定によって運営せられるということでございます。

そこで、われわれといたしましては、公園に対しまして、四日市の特殊性を考えて、しかも、当初、四日市市が考へた目的、趣旨というものも御説明申し上げまして、現在の公園の、事務的に処理しうる範囲において、公害地区の方々を優先して、ここに収容する面を考慮する、考へるということにいたしておりますが、これは、あくまでも許される範囲の技術上の措置でございます。公園としては、公園規定にしばられて処理するわけでございます。やむをえないかと思ひます。

ただ、国家の財政資金がここに十数億も投下せられることでございまして、これは、直ちに四日市にとってもブラ

スに働くともどもは確信しておるわけでございます。これのいい意味の影響は、必ず出でくるであります。

そこで、さらに、公団に対して規則を変えてでもと、こういうお話でございますが、これは、公団に対してそういうことを申してみても、まことに私どもとしては、ちょっと無理かと思うんでございます。公団を直接、指導・監督しておる建設省に強く働くべきでありましょう。さらに、大蔵省に強く働くべきであると考えております。

そこで、午前中の市長の答弁にもございましたように、今日、産業公害を防止するためには、既成の四日市のごときところには、単に悪い意味のサンプルということではなく、これを改良いたしましたして、ぜひともりっぱなものに仕上げる必要がある。そのためには、都市計画の上から都市改造が行なわれなきやならぬ。そのための国家的の法的措置なり予算措置なりを必らずとももらうべきであると。そして、このことを、この二十五、六の両日、東京において行なわれる全国市長会に緊急議案として四日市から提出し、これを初めとして猛運動を開始したいと、こういうことでございますので、そういう努力は、こんごわれわれは全力をあげてやる覚悟でございますので、御了承いただきます。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後七時五十六分休憩

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

午後八時九分再開

前川議員。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君 多くの質問に對しましては、一応の答弁をえましたので、打ち切ります。

ただ、収入役の問題としましては、先ほど休憩中に各派一応集まりまして検討を加えた結果、収入役の答弁ではまだ不適当な点もあるが、しかし、こんごの行動を見守っていくことで了承する、こういうことになりましたので、これで質問を打ち切ります。

○議長（錦安吉君） 本日は、この程度にとどめ、あの方は明日お願いすることにいたします。

明日は、午前十時に会議を開きます。

本日は、これをもって散会いたします。

午後八時十分散会

昭和三十九年六月二十三日

四日市市議定会例会會議録(第三号)

四日市市議會

昭和三十一年四月廿日市議會議事速記録 才三号

○昭和三十一年六月二十三日（火曜日）午前十時五分開議

○出席議員（三十八名）

宮	鈴	伊	志	前	喜	岩	坪	安	藤	錦	北	伊	酒	米
崎	木	藤	積	川	野	田	井	垣	谷		村	藤	井	田
春	愛	太	政	辰		久	妙		祐	安	与	宗	昌	好
吉	次	郎	一	男	等	雄	子	勇	一	吉	市	一	一	兼
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	速
														記

○議案説明のため出席した者（二十五名）

市	助	助	収	税	産	厚	衛	土	建
長	役	役	入	務	業	生	生	木	設
部				部	部	部	部	部	部
長				長	長	長	長	長	長
平	二	庄	川	園	芝	平	中	城	鬼
田	宮	司	崎	浦	田	井	山	井	頭
佐		良	祐	和	敬	清	英	義	鉄
矩	力	一	男	己	太	三	郎	夫	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

谷	訓	味	山	増	渡
口	覇	岡	本	山	部
専	也	一	栄	英	権
九	男	郎	一	一	太
君	君	君	君	君	郎

坂	田	中	野	日	荒	矢	伊	須	大	前	加	山	高	笠	服	橋	永
上	村	島	崎	比	木	田	藤	藤	島	川	藤	中	橋	田	部	詰	田
長	末	忠	貞	義	武	繁	泰	總	武	宗	定	忠	伊	七	昌	興	利
十	松	勝	芳	平	治	郎	一	太	雄	雄	男	一	祐	衛	弘	隆	一
郎	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

秘書課長	阿南輝彦
人事課長	佐々木晃精
財務課長	天野助春
財務課長	伊藤涼一
管財課長	杉本治芳
市民課長	喜田喜重郎
下水道課長	天野助春
消防長	竹内鉄雄
消防次長	金田妙弘
給務課長	大倉尚明
市立病院事務長	三輪喜代司
水道局長	岩野見齊
技術部長	山本文雄
総務課長	滝伝之助

教育 長 山 本 軍 一 君

○市議会议務局（四名）

事務局長	菊地英也
議事係長	小坂靖
主事	佐藤正俊
事務試補	芳野孝君

○議事日程

昭和三十九年六月二十三日（火）午前十時開議

才一 一般質問

才二 議案才一〇三号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算

（才二号）……………質疑、討論、議決

才三 議案才一〇四号 四日市。ロングビーチ都市提携委員会条例

の制定について……………〃、〃、〃

才四 議案才一〇五号 四日市市職員給与条例等の一部改正について……………〃、〃、〃

才五 議案才一〇六号 四日市市職員の旅費に関する条例の一部改

正について……………質疑、討論、議決

才六 議案才一〇七号 四日市市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の制定について……………

才七 議案才一〇八号 町の区域及び名称の変更について……………

才八 議案才一〇九号 住居表示整備事業を実施する当市における市街地の区域及び当該区域における住居表示の方法について……………

才九 議案才一一〇号 土地の取得について……………

才一〇 議案才一一一号 市道路線認定について……………

才一一 議案才一二二号 市道路線廃止について……………

才一二 議案才一二三号 市道路線の一部廃止について……………

才一三 議案才一二五号 昭和三十九年六月十五日に在職する職員に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について……………

議案説明……………

才一四 議案才一二六号 財産の取得及び処分に関する契約の締結について……………

財産の取得及び処分に関する契約の締結について……………

才一五 議案才一六号 沖縄の祖国日本への復帰に関する決議について……………

沖縄の祖国日本への復帰に関する決議について……………

才一六 委員会報告才五号 請願書審査結果報告……………採否決定

○本日の会議に付した事件

才一 一般質問

才二 議案才一〇三号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算(才二号)

才三 議案才一〇四号 四日市。ロングビーチ都市提携委員会条例の制定について

才四 議案才一〇五号 四日市市職員給与条例等の一部改正について

才五 議案才一〇六号 四日市市職員の旅費に関する条例の一部改正について

才六 議案才一〇七号 四日市市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の制定について

才七 議案才一〇八号 町の区域及び名称の変更について

才八 議案才一〇九号 住居表示整備事業を実施する当市における市街地の区域及び当該区域における住居表示の方法について

才九 議案才一一〇号 土地の取得について

才一〇 議案才一一一号 市道路線認定について

才一一 議案才一二二号 市道路線廃止について

才一二 議案才一二三号 市道路線の一部廃止について

才一三 議案才一二五号 昭和三十九年六月十五日に在職する職員に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

才一四 議案才一一六号 財産の取得及び処分に関する契約の締結について  
才一五 発議才 六号 沖縄の祖国日本への復帰に関する決議について  
才一六 委員会報告才五号 請願書審査結果報告

○議長（錦安吉君） ただいまから、本日の会議を開きます。

出席議員は、三十六名であります。

本日の議事につきましては、議事日程才三号により取り進めたいと思いますから、よろしくお願いいたします。  
それでは、日程才一、一般質問を昨日に引き続き行ないます。

酒井議員。

〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 このたびの新潟震災について、市当局がいち早く救援の手をさしのべられましたことを、心から感謝するものでございます。ありがとうございます。

わが公明会は、あくまで立正安國の精神に基づいて大衆のためにたたかい、従って、大衆福祉を実現せんとする政治団体であります。従って、大きいことも申し上げるかわりに、こまかいことも申し上げるかわかりませんが、どうか忠告耳にさからうようなことがありましても、誤解のないように御了承願って、以下、六項目にわたって質問をさせていただきます。

まず才一番に、災害対策についてであります。このことは、昨年度、本会議において、貴重な時間を二度までもさいて、そうして叫んできたにもかかわらず、理事者側においてはどのような手を打たれてきたか。

新潟地震が起こって初めてあわてふためくような態度をされたように思いますが、昨年度どのような対策がなされたか、お尋ねいたします。これが一つ。

二つ目には、いまかりに四日市に地震であれ火事であれ、あるいは水害であれ起こった場合、二十何万の市民の方方に対して、その対策はどのようになされているか、数字をもって具体的に次の五項目を答えていただきたいと思えます。

一番目に、現在何年分の物資が用意されてあるか。

二番目、その物資名。

三番目には、その数量。

四番目には、その保管場所及びその責任者。

五番目には、災害発生時の避難方法、場所、収容人員等。

以上、御説明を願いたいと思います。

次は、小さいことになるかも知れませんが、ことが大きくなつてはめんどろです。申し上げるわけですが、実は、先般、交通安全週間中に屈倉千代子ショウが市民ホールで開かれたときであります。ちょうど昼休みで市の職員の人々がホールの入口でキャッチボールをしておられたので、観覧者が入る間、少しキャッチボールをやめてもらえないかとお願いしたところが、一組のキャッチボールをやっておつたのが、やめるどころか、また三組もふえてきた。それで、総務課長にどうかとめてほしいと申し出たところ、総務課長は、あそこは道路でないからキャッチボールをしても仕方がない、という返事がなされたわけです。その無責任な態度をどのように御返答願えるか。

もし、市民ホールの入口が通路でなければ、通路は北側につけなければいけないし、しかも、交通安全期間中に、

観覧者に対して傷をつけたらどうするかという心配のあまり申し上げたのに、そのような理事者の態度であったことは、私は遺憾と思ったわけでございます。

市民の立場に立つて中止をお願いした私にまでそのような冷たいことをされたのか、はつきりと総務課長の御返事をお伺いいたし、あるいは三十八名の市会議員の軽視だと断定してさしかえないか、その御返答を賜りたい。

二番目には、オ二項目、し尿及びごみの処理についてであります。先般も四日市市百年の大計のために、衛生部長に質問するようなことをよく考えていただきたい。そうしないと、そのときになって、せっぱつまつてから行なつたのでは、市の恥になるから、どうか考えていただきたいということを、おとなしく申し上げたにもかかわらず、衛生部長は、なにも市の恥にならないと、腹を立てたような、そういう返答であつた。ほんとうに市の恥をさらさないでいような設備をなされているかどうか、そのこともひとつ、はつきり御返答をお願いしたいわけでございます。

それほどのような機械ならば、ごみの処理はどうなっているかということ、市内を回つてみたところが、ごみ、し尿の処理に対してけんけんごうごうの捕物をしておつた人がたくさんございます。ごみを取りに来てくれないために、三滝川へほうらなきやならない。そして、三滝川へほれば警察からひっぱられて罰金を取られる。このような政治がなされていいか悪いか、衛生部長にお聞きするまでもないことだと思います。

そして、新道の場合でも、三べん私が辞を低うして、衛生部のほうへ電話をしたにもかかわらず、三度とも少しもごみを取りに来てくれない。ところが、それに業をにやした一市民の人が、市の秘書室に電話を直接かけて、市長に会いたいといつてごみのことをいつたら、すぐに取りに来てくれたと。考えてみれば、明らかにこれも市議会を軽視したとか、あるいは市の代表者を軽く見たとか、そういうような考えに立たざるをえないわけでございます。この点についても、衛生部長はどういう責任をとっておられるか、それをはつきりと御返答をお願いしたいわけでは

先ほどの総務課長のように、市民をばかにして、市会議員をばかにして、市議会を軽視して、そのように断定してさしかえないか、衛生部長にお尋ねしたいわけでございます。

やさしくたびたび申し上げても、少しも反省の色がないために、このようにきつく申し上げるわけでございますので、ひとつ総務課長も衛生部長もこの場ではつきりと御返答をお願いしたいわけでは

三番目には、公害対策について申し上げるならば、重複の分をなるべく省きますので、簡単に申し上げます。

去る五月一日にはばい煙防止条例法が施行されたのであるが、その後の各会社の実施状況はどうか、これをひとつお尋ねいたします。

二つ目には、昨年の九月に、定例会において大島議員がこのことについて申し上げたはずであります。飯田という私たちの友だちが、公害のためにぜんそくになって、そして毎日苦しい息の下から公害のことをいいながら死んでいったという事実がございます。このときにあたって、ばい煙防止条例を一日も早く実現されるよう、再び理事者側において御努力をお願いしたいわけでは

二年間の期間があるといわれますが、いまの現状を見て、二年間を待つわけにいかないという点に、どうか理事者側では、この点をお答え願いたい。

三つ目には、最近、自動車が増えておりますために、非常にこの騒音に伴つて、学校の生徒たちに迷惑をかけておるように聞いております。昨年、この議場で申し上げましたけれども、なんら手を打たれておらない。衛生部長は、なんとか善処するというだけであつて、その後、善処どころか悪処になつておるような結果でございます。この点も衛生部長にひとつお答え願いたいわけでは

四番目、道路その他工事の総合計画についてでございますが、市内を回つてみますと、数カ所においてこのような

ことが行なわれております。どういふことかと申しますと、下水の工事を始めたら、こんどはその下水工事が終わってちやんとしたと思ったら、また電話線の工事というふうなぐあいだ、総合的な工事が少しもなされておらないために税金の浪費をされておる。そのようなことを見受けまます。そのようなことがはたして市民のためになるかならないか。市の理事者側のためになっても、市民のためにならなければ、この政治はよいといわれないのであって、どうか部長の方々は、横の連絡をよくとって、一貫した工事をやっていたいただきたいわけですが、そのことができるかできないか。解決の方法はないのか。解決の方法があれば、早急にどういふようにやるか、ひとつ御返答を賜りたい。

五番目には、税外負担の軽減であります。昨年は、税外負担のことで申し上げたとおり、PTAの軽減費としてPTAの会費が減って一千三百万計上されておりますけれども、この点について市民の方々は非常に喜んでおったけれども、はたしてその生活の中においては少しも軽くなつてこない、おかしいじゃないか、という声を聞いておりますが、この点どうなつておるか、ひとつお答えを願いたい。

二番目には、三月の議会で質問いたしました消防車の購入に関する地元負担金がどのような形で行なわれておるかこれを御返事願いたいと思います。

それから、六番目の体育文化施設についてでございますが、南部丘陵地の体育施設やその他の問題について、市長初め関係の部課長からいまままで何回も説明をされて、大きいスポーツセンターができるものと喜んでおったところが、いっこうにできない。聞くところによりますと、伊勢市においては大きい体育館なり総合グラウンドができておる。あるいは津に体育館が建つたと聞いておりますが、はたしてスポーツセンターらしきものが南部丘陵地にできるのか。できないものなら、なぜできないのか、どのようにしたらできるのか、お答えを願いたいわけですが、

それから、諸会館審議会というものがあるというふうに聞いておりますけれども、どのように進展しうるのか。具

体的な例をひとつ示していただきたい。

二番目には、今日までこの議場で、非行青少年の問題に対して、勤労会館や婦人会館とかいろいろのものを要望してきましたが、そのつど善処する、善処するというようなおことばだけで、いっこうに進展をしていない。ところが他の都市ではそういうものが建ちかけておることになると、四日市はいつそのように青少年の問題を解決してやろうという、そういう精神が理事者にあるのかということをやわらぎをえないのであります。四日市でただ一つの大きい会場の市民ホールも、日まに利用度が高まつてまいっておりますが、一つではどうにもならぬ現状に、いまに追い込まれることと思ひます。どうか、もう一つや二つ建てるような方法を一つ考えていただきたいわけです。諸会館審議会においてそういうものを計画されておるようには聞いておりますが、諸会館審議会での程度審議されているのか。ただ砂上の楼閣のようなことばかりで、会議、会議ばかりで終つておるのか。むかしの政治と同じように「知らしむべからず、寄らしむべし」という政策を、市長は持つておらないということとはわかつていながら、そのような政治をなされておるうちに、私たちは疑わざるをえない状態にあります。

以上、六項目を申し上げましたけれども、いろいろな観点において、各部課長の御返答をはつきり賜りたいことをお願いいたします。

〔厚生部長（平井清三君）登壇〕

○厚生部長（平井清三君） オ一问のうち、災害時に対しましてどんな給与品を準備しているか、ということについてお答えいたします。

主管課は、厚生部の民生課でございます。応急措置のうち、一定規模以上の災害につきましては、災害救助法の適用を受けますが、その災害救助法の適用を受ける前またはその規模以下の小災害に対しましては、つねに給与品を事

前に購入いたしました、いつでも放出できるように準備いたしております。

常時、持っております食糧といたしましては、乾パンを千百食、それから、衣料が約二万点。それから、寝具が一十点、日用品が一万点、こういったものを、浜田の公益質屋とか富洲原の公益質屋の倉庫、会計の倉庫に保管しまして、有事の際はいつでも放出できるように準備いたしております。

なお、見舞金は十万円予算をいただきまして、いつでもこれも支出できるように準備いたしております。

#### 〔総務課長（天野正春君）登壇〕

○総務課長（天野正春君） 避難場所の制定について、まずオ一点からお答えいたします。

災害対策基本法二十四条、四十二条によりまして、本市におきましてもそういう防災計画は立てております。昨年の十二月に、市といたしましては、防災計画による避難場所を各出張所と連絡いたしまして、各出張所における避難場所の制定を現在やっております。

それを申し上げますと、出張所は、御承知のように二十二ございまして、逐一申し上げますと、橋北出張所で申しますと、橋北中学校、それから東橋北小学校、西橋北小学校、こういう橋北地区においては三カ所を予定いたしております。

それから、海蔵出張所につきましては、海蔵小学校の体育館、それから浄覚寺、真楽寺、海蔵神社、山手中学校の体育館という予定でやっております。

それから、富田地区につきましては、富田小学校、飯田病院、富田中学校の三カ所を予定いたしております。

それから、富洲原出張所管内につきましては、富洲原中学校、それから富洲原小学校の講堂、それから松原公園、東洋紡のグラウンド、こういうように予定いたしておりますが、家屋でない場合のときは、浜洲を実は予定いたした

い。

それから、羽津出張所につきましては、羽津の場合は富士電機の際、羽津小学校、それから浄恩寺、綿神社こういうような予定地を持っております。

それから、常盤地区につきましては、常盤小学校、常盤保育園、常盤公民館、正覚寺、蓮光寺、常蓮寺、松本町の公会所、松本町の道場、松本神社こういうように予定をいたしております。

日水地区につきましては、日水小学校、海星高等学校、東亜紡の独身寮、三浜小学校、鐘紡の独身寮、味の素の独身寮、南中学校。

四郷につきましては、四郷出張所管内は、四郷公民館、東日野分館、西覚寺、四郷小学校、法蔵寺、西光寺、市立四日市小学校高花分校、笹川中学体育館、江戸川化学の社宅、四郷公民館。

内部出張所管内につきましては、長女の公会所、合成ゴムの迎賓館、八幡神社、それから公民館、小古曾神社、南自動車学校、天理教会、山手公会所、三菱油化の小古曾寮。

小山田出張所管内につきましては、町会藤所、公会堂、光輪寺、自治会長宅も予定いたしております。それから安性寺とお寺を実は予定しております。

それから、川島出張所につきましては、西福寺、川島小学校を予定いたしております。

神前につきましては、中央工業高等学校、神前小学校、四日市高等商業学校。

桜につきましては、一色公会所、桜南区公会所。

県管内につきましては、県小学校、磐原寺、公民館、明林寺、福泉寺その他お寺を予定いたしております。

私、詳しいことを申し上げなかつたのでございますが、本件につきましては、防災計画の計画書が各議員のほうに

御配布してございますので、参照していただきたいと思います。

それから、才二点の市民ホールの前において、昼、野球をやっておった。そのとき、市民ホールにおいて二時から演芸会が、お客がたくさんお見えになって野球のボールが当たるから非常に危険じゃないか、ということで、酒井議員が私のほうへ申し込まれたことは事実でございます。

市民ホールは、御承知のように市の一つの文化の殿堂でございます。職員といたしましては、昼の休憩時間、これはやはり健康管理の上におきまして、一つの休息といえますか、運動をやるという一つの広場を全然持っておりません。ただ、危険につきましては、野球のボールが市民の方に当たるということは、非常に危険なことでございます。して、われわれ公務員といたしましては、全体の奉仕者であるということは、はっきりわかっております。ただ、酒井議員が、市会議員を軽視した、あるいは市会議員の三十八名の方を軽視した、あるいは市民全般の方に対して軽視しておるんじゃないかということにつきましては、私は全然そういうような考え方は毛頭持っておりませんし、酒井議員に申し上げたことにつきましては、危険であるということは事実でございますので、われわれとしては、さっそく野球を中止して、市民の方に迷惑をかけないように連絡をいたしております。ただ、酒井議員がおっしゃられたとき一組がやっておった。あと二組も三組もふえてきたということは、こちらが通報に行っている間でございます。酒井議員がおっしゃるように、市民を軽視し、あるいは議会を軽視しというような考え方は、われわれは毛頭も持っておりませんので、よろしく御了承を願いたいと思います。

#### 〔土木部長（城井義夫君）登壇〕

○土木部長（城井義夫君） ただいまの御質問の才一の物資の問題でございますが、土木関係の災害時における非常資材といたしましては、土のうあるいはカマスが非常にだいたいな材料でございます。

これにつきましては、市内にもなる水系の鈴鹿川、内郡川、三滝川、朝明川等に関しまして、適時、水防倉庫を配置しております。市内に約九カ所の水防倉庫がございます。その規模は、だいたい六坪から九坪程度のものでございまして、これにだいたいカマスを二千俵、それにバランスのとれました縄、鉄線、くい等を入れております。

なお、そのほかにかげや、つるはし、シャベル等も、一応備蓄基準に従って備蓄しております。

なお、この水防倉庫だけでトータルいたしまして、だいたい一万七千俵から二万俵程度のものでございますが、いったん必要なときには、非常にこの数は少ないのでございまして、その災害の起こりそうな時期、主として八月末から九月にかけて各市の出張所に五百俵程度を、一応、出張所で適宜考えていただいた置場所にお預けしておくという措置を例年とっております。

そして、その使用については、出張所長の判断で使っていただいて、事後報告を願えなければという措置をいたしております。

その他、木流しの材料とかあるいは土等の現地徴収の計画も、一応、場所を計画を立てております。

カマスにつきましては、この一万俵、二万俵という数字は、堤防等が切れかかってきた場合に、そいつを一応押えるという程度の数量でございまして、一カ所の堤防が切れますと、まず一カ所で二万俵、大きいところは五、六万という数字があるのがふつうでございます。そういった場合を考慮いたしまして、四日市におきましては非常にありがたいといえますか、さいわいなことに石原産業さん、あるいは東海ガス化成さんにおきまして、カマスあるいはたえを非常に多量に工場の匿格上持っておりますので、それを、夜間でも守衛に話をして出せるように会社にお断わりをして待機しておるといふ処置を、例年とっております。

次に、才四間の道路等の工事に対する総合計画についてという問題でございますが、この問題につきましては、御

指摘のとおり問題がたびたび起こり、いままでもたびたび御注意を受けておりまして、まことに申しわけないのでございますが、これにつきましては、市の中の窓口におきましても、市の総務の管財関係の道路の占用、確保等の免許の問題。それから、土木の舗装計画あるいは下水の工事、水道局の関係といったふうに多岐にわたっております。その他にまだ電々公社、ガスそれから中電と、いろいろ関係がございます。

それで、市の中の問題につきましては、下水道課の工事は、一応、設計書の施工伺いを立てる段階において土木課を通じてという措置をとらしております。で、昨年度は、管財課を司会者にいたしましたして、市の中の関係あるいは外部の会社関係を集めまして、年間の計画あるいは予定をお互いに交換し合い、一つの図面にまとめて管財課で保管をするということ、六月ごろ行ないました。それで、昨年は年に二回くらいのもりでそういう打ち合せ会をもつたと記憶しておりますが、本年度におきましては、そのほかに県の土木事務所、工業用水等も入れまして、年に四回くらい打ち合せをすれば、まずまず連絡がとれるのじやないかという感覚を持っておりますので、そういうふうに運びたいと考えております。

そういうことによって、先ほどおっしゃられたように、舗装したあとをすぐ掘り返すと、下水をいけたらまた水道をやるというような形がないように、十分心がけて計画を立てたいと、こう考えております。

〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕

○衛生部長（中山英郎君）　ごみ処理について、お答え申し上げます。

さほど改まっていけないのじやないかということでございますが、ごみ及びし尿の集取、処理の体制につきましては昨年の十一月に南部清掃センターが稼動し、また、海洋投棄上の施設を、議会の協賛をえまして、もちろん海洋施設につきましては、進入道路の大井ノ川橋の工事のために、五月の中頃から全面的にフルに使うようになりました。遅

れておりますが、そのことによりまして、終末的な処理能力につきましては、格段の改善がされたと考えております。

ただ、集取面におきましては、車両、人員とも一昨年とひとつもふえていません。一方、ごみの排出量、し尿の排出量は、ごみにつきましてはだいたい四割程度、し尿につきましては二割程度の増加の記録がございます。この増加に対処いたしまして、車両、人員がふえてません。従いまして、終末処理のできた南部清掃センターでいえば、いままでかかっておった人間をうわのりとして、機動力を出してやるという方法と、し尿につきましては、海洋投棄上の待時間の少なくなった夜の利用ということで、やっとかバーしてきておるのが現状でございます。従って、昨日も申し上げましたが、担当部といたしましては、まだ不十分である。

その対策といたしまして、きのうも申し上げましたが、まず車両の確保と、この機能の努力ということが続けておる状況でございます。

次に、不法投棄の問題でございますが、たしかに三滝川におけるあの河川堤防は、県の土木出張所の管轄でございますが、これは、河川法によりまして土木出張所長が管理しとります。ここにおいて、不法投棄されたものが、警察が検挙いたします。これは、法令に基づくところで、当然の警察権の発動でございます。これは当然のことであると思います。

そのほかに、私自身が行動を起こした点につきましては、いま、現在、市では一昨年の六月の中ごろから、泊山の公園の予定地の一部に捨て場を開設いたしました。この捨て場は、燃えるものは焼却場で燃やすというのが原則でございますが、市直営の集取で、かまの痛んだとき、定期修理のときに、家庭ごみも集積する必要があるのと、もう一つの大きな原因は、上砂の不燃物あるいは炉で燃やしてはいけない生産工場における油類あるいは油かす類の捨て場がないということで、清掃第一課のはうの指導で、生産工場のはうではだいたい七業者くらいの方がおられますが、

そこへほり場を指定するような仕組みをして不法投棄を防ぎ、また、危険を避けるような措置をしたのでございます。これに對しまして、市といたしましては、一昨年の経費で見ますと、埋め立て土砂、上土の土砂あるいは不法投棄を押えるための鉄条網の施設、消毒といったことで六十万円ほどかかっておるわけでございますが、その後、受け入れ態勢を、一昨年の多量物あるいは危険物の受け入れ態勢を泊山に開設いたしておるわけでございます。しておりますが、先般も自治会あるいは議員の方からもハエが多い、それから、不法投棄が多いということで御連絡がございまして、課長その他私どもも数回あそこに不意にジープに乗って出勤いたしました。私自身も不法投棄を押えたこともございます。

それから、たしかに場所は指定しておりますが、ほりやすいところにほっていくというのが実態でございまして、この不法投棄を押えるためには、私は清掃第一課長に對して、臨時に巡視をせよというようなことを命令いたしました。場合によりましては、夜の八時ごろまでやれというようなことを命令いたしました。不法投棄の監視ということには、私は強化をしていきたいというように考えております。

それで、次の問題につきましては、ただ、ここで苦情の事態を申し上げますと、清掃第一課はごみ、清掃第二課はし尿でございしますが、清掃第一課につきましては、課長は宋永煥却場にあります。当作業員は二十名程度で、あとは南部清掃センターにおると。それから、清掃第二課につきましては、課長は泊山の事務所、作業員は全部そこにおるといふふうに、ほかの行政事務の課と違いまして、課長、課長補佐、いわゆる管理的な人間も現場におるといふことでございます。

この制度は、一昨々年に変わったのでございますが、ずいぶん広報あたりでは宣伝してございますが、いまだに清掃第一課とか第二課ということが市民一般に徹底せず、一応、ごみ、し尿なら衛生だということで、衛生課にずいぶん電

話もあり、苦情も持ち込まれ、新規申し込みもあるわけでございますが、この点につきましては、一応、そのつど広報にも載せましたが、あまり効果がございませんが、一応、私といたしましては、衛生課の所管事項ではないけれども、そのつど電話連絡をするなり、それから申込書も受け付けております。従って、苦情があれば、だれがいつの何時にこういう苦情があったということを、直ちに衛生課の人間をして両課に通報するようにしております。

また、私自身へかかってまいりますことが、月間数回ございますが、そのつど私は課長に連絡しております。ただその場合、誤解があるといけませんから申し上げますが、衛生部長といたしましては、配車計画、集取計画は一応課長の処理といたしまして、総体計画は見ておりますが、その日にどの地点でごみをとってくれるから、とつてくれという要請がありましたときに、私は、いつの場合でも即答いたしております。こういう苦情があったから、できるのかでせぬのか、どうなってるのか、できればこのところに電話がある、あるいは電話がないときには見に行つてくれというふうな指示を与えております。その結果は、大きなものにつきましては、私のところへ課長あるいは代理から連絡があるということで、苦情一般に對する私の考え方といたしましては、平常時における集取、苦情は、一応連絡はいたしますが、その場で責任もつていつ幾日取ります、というふうなことは、配車計画その他が責任もてませんので、いつもそういう返事をしとるわけでございます。私個人に關する限り明快な、引き受けたというふうなことはいいつもりませんので、そういう態度につきましては、すぐ実行ができないということについて、御不満がある点は重直わかりますが、できぬ、あるいは不安定なことをかえつてよろしい、やりますというふうなことをいつてあとでできない場合のことを考えまして、私自身はそういう態度をとっております。

そういう態度でございしますので、いま御質問にあつたように、議會を軽視しとるかというふうなことは考えておりません。また、それはあるべきではないのでございまして、そういうふうな自分の所掌しておる仕事の性質、内

容からそういう態度をとっておることを、御了承願いたいと思います。

次に、ばい煙規制法実施と条例の関係でございますが、いまおっしゃられました条例ということは、法律のことだろうと思います。条例は、御承知のように市自体でつくっておる最高法規でございますが、現在、ばい煙等の規制に関する法律は、御承知のように五月一日をもって四日市全域と楠町全域とをもって指定地域になりました。

それから、きのう申し上げたと思いますが、対象事業場は百十、事業場、施設数は二百五十というのが現況でございます。これが将来、改廃がありまして増減があると思いますが、この法の執行は、県知事に責任がございます。従いまして、市といたしましては、それに側面援助、いわゆる法的に市長が、市が責任を負うことは、この法令ではないわけでございまして、県の要請によりまして、むしろそれを縁の下の力持ちで現場処理をするなり、あるいは通報連絡ということが建て前になっております。

従いまして、ばい煙の防止に関しましては、現在のところ二次指定でございしますが、市単独条例ということは、現在考えておりません。

それから、飯田さんが死んだという話が出ましたが、この点につきましては、私の記憶にございませんので、また公害対策課長から聞きまして、あとでどういう状況であったかお聞きして、状況によって御判断申し上げたいと思います。

以上。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君）　　第五問の、税外負担の軽減についての第一項のPTAの負担軽減について、お答えいたします。

御指摘になりましたように、本年度の予算で需用費千三百万程度増額していただきました。これは、備品費の当然市が負担すべきもので、PTAが負担しておったぎりぎりのものを増額していただきましたので、各校に配分いたしますと、まあごくわずかという失礼でございますが、わずかでございます。

従いまして、学校におきましては、PTAの経費を値上げすることにつきましては、これは押えることができた。なお、それによってできました余裕につきましては、それはPTA自体の経費に使っていただいております現状でございます。

〔消防長（竹内鉄雄君）登壇〕

○消防長（竹内鉄雄君）　　消防分団の消防自動車の購入について、申し上げます。

消防分団の消防自動車の購入は、あらかじめ市が計画して、各分団に幾ら負担をせよというのじゃございませんで元米、分団の消防自動車は市の施設でございますから、市が全額負担をして購入するのが、これが建て前でございますけれども、財政のついでその順位がなかなか回ってまいらない場合におきまして、地元の連合自治会長さん、消防分団の幹部の方々が、熱烈なる要望がありました場合には、従来の慣例に従いまして、地元が半額、市が半額という格好で購入をいたしております。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君）　　第六項の体育文化施設について、お答えいたします。

御承知のように、本市は公園、緑地もしくは体育文化施設等につきましては、まことに受け継いでいる遺産の少ない町でございます。

そこで、市といたしましては、なんとか平近かなところにこういった施設あるいは公園、緑地を求めたいと、かね

てからお願いしております。さいわい南部丘陵地帯が国有地でございまして、約五十万坪ございます。これに目を付けまして、国と鋭意交渉を重ねまして、先にこの土地について払い下げ申請をしている方々に、市の公共的なこういう施設をやるのであるから、ひとつ引き下っていただきたい、こういうお願いをいたしました。大方の御了承をえこれに對しまして坪当たり四百円のお礼金を出すことについてさえ、議会の御了承をえてこの事業と取り組んでいるわけでございます。

ところで、この事業は、都市計画全般の公園、緑地計画がなされ、さらに事業計画が建設省の承認をえて、初めて大蔵省のほうに申請ができるという手順をふまなければなりません。私どもといたしましては、いろいろと早くやるように苦心はいたしておりますが、県を通じ国にもっていくわけでございまして、それぞれの段階、相手のあることと思うようになります。まことに延引していること、申しわけないわけでございます。市みずから出した金額もすでに一億円にন্নんとするわけでございます。これを私どもは一日も早く有効に利用するために努力するわけでございまして、ぜひともやれることからやっていきたい、こういう覚悟でありますので、この点、御了承いただきたいと思ひます。

それから、諸金館審議会についてのお尋ねでございますが、これは決して「知らしむべからず」という考え方でなくて、逆に一般の有識の方々の衆知をいただきまして、皆さんのお考えが集約されるところを、私どもは採択させていただきたい。

たとえば、今日、体育館一つつくりましても、三億を下らない金がいるわけでございます。各方面でこういう会館を、こういう会館を、それぞれ希望は持っておられます。財政的な実力がこれに伴えば、問題はないのでございます。何をいっても、卑近なことばでいう財布と相談をしていかなきやならぬ。従って、むだなく最も効率的なものを考え

ていきたい。これには衆知を集めるよりしようがない。その集約されたところをわれわれは考えさしていただきたい。こういう趣旨からできているわけでございます。

才一回の会合、そのときにいろいろと議論されました。これは、市からつくられた計画を提示せられて、そうしてそれをしんして市長に答申するものであるかどうか。さらに一方、審議会みずからが調査、研究し、先進地を視察し、案を立てて、独自の案を市長に答申するものであるか、性格はいずれだというような、非常に活発な議論もやっていたいただきました。そのうち会長、副会長さんがそれぞれお集まりいただきましたまして、御検討いただいております。

私ども、機構改革、さらに人事異動等によりまして、これの才二回、才三回の会合が遅れておりますが、今月中にこれについての審議会を開く予定でございまして、それによりまして、さらに先進地の状況等も調査いただくことになつてゐるわけでございまして、これにつきましても使う金を最も効率的にやるのにはどうしたらいいかという悩みがございます。そういう意味で、むしろ衆知を集めて、そして私どもの参考にし、お教えをいただきたい、こういう趣旨でつくられている審議会でございます。その点、御了承いただきたいと思います。

#### 〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 いろいろとありがとうございます。

最初の災害対策についてでございますが、これも一つ、このさい二度のむだ足を踏んだわけでございますが、このさいに、理事者側としては全力を尽してその災害の起こった場合の救助をお願いしたいと思ひます。

そのときに、とくに申し上げたいことは、各課において、各部において責任のなすりあいをするということです。いずれの災害の場合でも、それはおれの管轄じゃないといって、責任のなすり合いが始まる。新潟のときもそうであ

ります。新潟の知事のごときは、一時に震災が起こっても、地震が起こっても、おくびにもなんらの手を打たなかった。知事さえもそういうことでございますので、どうか市の当局においてもそれを他山の石とされて、災害が起こった場合には、早急な手を打っていただくようお願いをいたします。

し尿問題については、最後に申し上げますが、だいたい三番目の公害対策についても、いろいろ重複いたしますので了といたします。

四番目の道路等は、ひとつ税金の浪費ということを考えて、慎重にことをかまえていただきたい。自分の金でやるようなつもりで、市の方はひとつ最大の努力を払っていただきたいと思ひます。

いつもでございますが、やさしくいっておったときは、少しも行なわれない。強く少しいわなければやらない、そういうことのないように大いにがんばっていただきたいと思ひます。

税外負担も、だいたいの承ではありませんが、増額に対する最大の努力をお願いいたします。

体育文化施設については、抽象的なことでございましたが、伊勢市にできて津市にできておるのに、早くから叫んでおった四日市市ができない。いろいろお話を聞けばもっともだという点もありますが、もっともだというような話し方をするほうにも、ひとつ責任をもっていただきたいと、こういうわけでございます。

最後に、先ほど衛生部長からの御回答でございますが、三滝川へはって罰金をとられるのは当然なんだという、そういう返事の仕方は私はどうかと思ひます。それなら、その三滝川へごみほらしたのはだれかという、その責任をとっていただきたい。

あれは県の所管、県の土木出張所の管理だから、おれに責任はないというような態度をいまとられたけれども、その三滝川へほらしたそのもとはだれなのか。三重県の県民であつて、四日市の市民ではないのか。

ちやうど衛生部長のごときばをもちつれば、あれは三重県の県民で、四日市の市民ではないというような、そういうようなことばにも受け取れます。ごみをほらしたら、処理の怠慢というものをせめないで、そうしてその不法投棄を監視するとか、その不法投棄を、その人がなぜ不法投棄をしななければならないかという、その前の問題をひとつ解決するのが政治ではないかと思ひます。衛生部長の態度は了承できないわけでございますが、もしそういう態度を改めなければ、私も覚悟をもちおりますから、その点、返答をお願いいたします。

もう一度申し上げます。衛生部長の答えは、きのうから引き続いて非常に的はずれが多い、その的はずれが多いことを、私はいきどおりますけれども、そのほうにいきどおりに火をそいでくれたのがいまの返事です。土木出張所の道路管理課で、おれの責任でないという態度。それでは、その三滝川にほったのはだれなのか、四日市の市民ではありませんか。その四日市の市民に対して、衛生部長がごみの処理を早くやらないからそういうところにはつたのであつて、衛生部長は、いま自分の責任でないようなことばをいわれたけれども、そして、四日市の市民が警察から罰金をとられるのは当然なんだというようなことを、またはつきりいわれた。そして、係を使って不法投棄を監視してゐる。自分自身が葉っぱを着て、背広の洋服をぬいで市内をかけ回ったことがあるかないかということを、私は聞いたしたいのです。いすにすわつて背広を着て、そのような態度でどうして市民の声が聞けるか。いまの態度を改めていただきたいと思ひます。もし改めていただければ、こちらも一つの手助を取りたいと思ひます。その御返答を願ひたい。

それから、最後に申し上げることは、あれやこれやを綴り合せてみますと、非常に市議会に対する理事者側の態度が、ある一部の人ではありましようけれども、軽く見すぎたということを痛感するのであります。総務課長にしても衛生部長にしても、ことばはいいいでございますけれども、その行政責任を市長はどのように感じておられる

か、これも市長にお尋ねしたいわけです。一つことが間違えば辞職すればいい。それでおれは責任のがれるのだという態度で市政をやってもらったんでは、もう二十世紀や二十一世紀の政治ではない。あくまで責任もってやるのが現在の政治です。十七世紀、十八世紀の政治ならいざ知らず、辞職すれば責任がないような態度でもってやっていただきたくない、そのように私は思います。

一たび災害が起これば責任のなすりあいをして、そうして、対策はありましようけれども、その対策は全く机上の空論であって、少しも役に立たない。役に立っても、あまり市民に対して、県民に対してピンとこないような対策、それが現在の新潟の地震の例ということを私は聞いております。

どうか、四日市を愛するために、私は四日市の市長のために、そのようなことがないようにお願いするわけです。それから、そういうようなことを綴り合せてみたときに、市長から出されたところのメリノールの学園に対する寄付金問題にしても、国際的信義という一つの金科玉条を掲げて、大義明分を掲げて、市議会が承認しなければおれの責任ではない。市議会が承認しないからそんなことは知らないという、そういうような態度、あるいはカトリックの精薄児の問題にしても急ぐから早くきめろ、あるいは県庁の寄付金問題にしても、そのようにしてきのう訓覇議員のいわれたように秘密主義が多分にあるじやないかということをおねがひがね私は感じとったわけでございます。それほどに議会を軽視するような態度が出る。その議金を軽視した態度が、私は衛生部長によっていまそういうようにいわれた、あるいはきのうの川崎収入役によっていわれたんじゃないか。口ではどんなにうまいこといっても、その態度において、日々のすることにおいて、明らかにそのようにとられても仕方がないと思うわけです。

衛生部長に対して再度申し上げます。不法投棄をさせる責任をなぜとらないか。不法投棄をさせるまでにいった衛生部長の責任を、私は問いたしたい。どうか、衛生部長のはっきりした御返答を願ひ上げます。その返答をもつ

て私も覚悟をします。

御返答をお願いします。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午前十一時三分休憩

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続きまして、会議を開きます。

〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕

○衛生部長（中山英郎君） お答えを申し上げます。

だいぶ誤解があるようでございますので、ある程度、事実問題を織りまぜて御説明申し上げたいと思います。まず、私が土木出張所管轄の三滝川堤防にこみをほって処罰されたことはあたりまえで、おれには責任がないんだというふうなことにとられたようでございますが、私の答弁の趣旨といたしましては、三滝川に限らず、一つの事例として三滝川をあげたのでございますが、不法投棄についての三滝川の事例と、それから警察の行った行動と、それから現在、市が昨年の六月からとりつつあります集積場の状態を説明申し上げたんでございまして、もちろん衛生部長といたしましては、与えられた六十有余の車両、それから二百余名の職員の総括責任をもって、し尿処理、ごみの集積の責任がございしますので、責任はあると申し上げておきます。

それから、なお、私が先ほど申し上げましたように、現在では非常に無理をとる。この改善策についても、改善を推進すべき責任があるということも申し上げておきます。

ただ、ここでそういうような前提をもちまして御説明を申し上げたので、誤解のないようにしていただきたい。

それで、いま私、ちよつと判断に苦しんだのですが、県民、市民ということばが出ましたが、私がオ一清掃課長から連絡がありました事項は、先ほど事例にあげましたような、過般に鈴鹿の業者の方があそこへもってきておられたそれで警察へあげられたということを、私はオ一清掃課長から報告を受けています。そういうことで、市民、県民ということ、その事例であれば私は知っております。

それから、酒井藤園の質問の要点は、おそらく私の理解するところでは、そういう不法投棄をやらすのはお前の責任である、というふうなことであらうと思います。それがいちばんポイントであらうと思います。それにつきましては、先ほど申し上げましたように、現段階は、衛生部長といたしましては、与えられた器材、与えられた人員で最高の能力を発揮するように、さらに努力し改善をいたしていきたい。

で、家庭ごみの集取については、集取日の短縮に努力をいたしたい。ただ、いま考えておりますことは、事業場その他から出るごみをどういうふう処理するか。これは日量にしたい五十トンくらいでございますので、どういうふうにするかということは、清掃課長と、オ一課長といろいろ相談中でございますので、家庭ごみ及びそういう事業場のごみについての分類のことを策定中だということをお記して、お答え申し上げておきます。

#### 〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 まことに時間をかけて申しわけありませんが、いまの衛生部長の御返答によって誤解のあるように思われましたけれども、誤解をしているというよりも、不法投棄をさせない監視をすると、そういうことなれば、なぜ不法投棄をさせないようにごみの処理をしてやってくれないか。一々当たってみますと、三滝川にごみをほったので警察から罰金をとられた、というような新聞の記事を見て、三滝川へいままでほっておった人が、実は困っておるわけ

です。その困っておるごみの処理をお願いしても、衛生部としてはいっこうにやってくれない。そういうような現状であるので、もし、衛生部長が責任を回避するなれば、というだけのことであって、ひとつ私のいったことも誤解をしないでほしいわけです。

もう一つ私が申し上げたいことは、市長に対してであります。どうか市長も、そのようなごみ、し尿の処理がそのような状態に追い込まれているというようなことを、どのようにお考えになっているか。当初に「明るい、住みよい町づくり」とおっしゃったけれども、これでは全く逆であって、暗い、住みにくい町づくりになってしまった結果じやなかろうかと思っております。

市民に対して、どのようにそのことを現在考えていられるか、市長の御答弁をお願いします。

#### 〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） たいへん市民の方々に御迷惑をかけて、恐縮に存しておる次第でございますが、仰せのとおりごみの問題につきましては、実に難決をいたしております。と申しますのは、場所がらによりましていろいろ所管も異にいたしておりますし、また、毎日々々これを採集いたしまして、これを焼却いたしておりますのでございますがどうも市の伸びと焼却の速度とが必らずしも一致しませんので、最近南部のほうにりっぱな焼却場をもちましたのでございますけれども、現在の三滝川におきます焼却炉のごときは、もうすでに使い古しておりますので、早くいえば老朽なものでございます。で、これも近い将来に新しいのとおりかえ願わなきやならぬ。さらにまた、北部のほうにおきまして、これと同じような問題が起こっております。

毎日、集荷をさしていただいておりますのでございますが、御承知のとおり自動車の数もふやしまして、能率の上るようにはやっておりますのでございますけれども、それ以上にごみも出てまいりまして、そこでまあなんといいますが、お互

いに都市訓練ということがうまくいっておりませんのですから、ごみは皆持つていって焼くのが当然じゃないかというふうにお考えになつていらつしやる向きもおありのようでございますが、ごみにもいろいろ種類がございますあの集荷しておる自動車を御覧になるとわかりますように、なんでも自分とところでいらぬものができたものは皆ごみだと、こういうふうに御解釈になっておりますが、都市のごみというものは、そういう性格のものではございません、自分とこの経費で処理せなきやならぬものは、これは当然各自でやっていただかなきやいかなないものなんです。が、しかし、いままだまだ日本全体から申しまして、四日市から申しまして、なんといいますか、過渡時代でございますので、いろいろの混乱が起こつておるのでございますが、思うように集荷ができないと、もう仕方がないから、そこらへ捨てると。そこらへ捨てますと、そいつをこんどは自動車に積み上げてもつていかなきやならぬので、三倍も五倍も手数がかかる。ですから、何かの器物に入れておいていただきたいということを、もう実は口を酔くして申し上げ、いろいろの機関を通じてお願いを申し上げておるのでございますけれども、なかなかそのとおりにしていただくことも困難でございますして、ほとほとその間の、なんと申しますか、ギャツプにつきましては、まいっておるような次でございます。これは、もう実情でございます。

そこへもつてきて、だれか一人ごみを捨てる。そこへまたごみを捨てるというと、一つのそれがごみ捨て場のようになつておる場所が四日市の至るところにあると。これも、焼却炉の完成してまいりますときには、一気にひとつ解決していかなきやならぬと思つておるのでございますが、とくにこの三滝川などにおほりになる場合には、これは、まあ市の衛生上からいいたしても非常に悪うございますので、市の理事者といたしましては、ほつていただかぬようにすることが本筋でございます。その次には、そういうことをできるだけ皆さんにも避けて、御協力を願うということ。それから、とくに不法的に、ここに捨ててもらつては困るという立札がしてありまして、立札

はひっこぬいていってしまうのは、いうとるうちにやる。それだから、よいの口は番をしますが、そうは番が続かぬものですから、押ってくる。押してくると、はやちやんとあくる日にはそこにたまつとる。実にいたちごつてでございますが、しからばといつて、市の理事者のほうに、これを法規的に処罰するということが、なかなか困難な問題でございます。御承知のとおりでございます。

で、今日の事態といたしましては、投棄的に考えられますような場所につきましては、警察のほうにもお願いを申し上げて、御協力願つておるのでございます。で、警察のほうでもずいぶんごめんどろをみつゝていただくのです、どうも仕事に徹底しないということで非常に御迷惑をかける。

かように申し上げますと、市長はこの問題をどう解決するのか、と仰せられるだろうと思いますが、やはりこの問題につきましては、官民一致してこの態勢をなくしていくということに、お互いに協力し合ふということをひとつお願い申し上げたいと同時に、設備につきましては、都市の態勢を整えていくために、中央部の一カ所を、できる限り新しく改造していくと。あるいは場所を一つかえてしまう。北部のほうにおきまして、そういう問題が起こつております。で、これは、ちょうど悪水処理と同じように、北部のほうにおきましては、川越、朝日、それから遠くは菰野町も協力して、そして共同の処理場を持つとうじやないかというふうな、いま下相談がもち上つております。これはだれいとなく、それでもしなきや仕方ないからやろうじやないかという考えがわいてきておるようなことでございまして、この塵芥の処理につきましても、そういうような場面にござつていききたいと、こう思っているような次第でございますが、ただいまお叱りを受けましたと思つてでございますが、関係の者がこの問題について責任を、いろいろの方面からたてにして思うように動かない、一生懸命にやらないのじやないかというふうな御意向のようにも承わりますが、御承知のとおり一生懸命にはやらさしていただいておりますつもりでございますが、ややともいたします

と、御気分におきわりするようなことを申し上げたかもしれませんが、しかし、各自とも熱心に働いておつてくれることは事実でございます。決して高上りをしとる市の者はおらぬと、私はこう確信いたして、皆様の御支持をいたしておるということに存じまするが、しかし、なお、われわれはいくら市民に尽しても尽し切れぬ義務を持つておるのであります。ですから、最善の上にも最善を尽し、また、皆様方の御要請になることを、たとえ一つでも多く果すという熱意に燃えまして、日常業務に服さしていただくことは、これは当然でございますので、私も十分注意をいたすつもりでございますが、同時にまたあまりに過酷に申しましてもいかがかというような点も出てきますことは時間外の勤務がなかなか多うございまして、それらの点も、ある意味からいいますと相当な限度にきておるのじやないかと思ひます。

しからば、そういうような方面を補うために、どんな人を採用したらどうだと仰せられるかもしれませんが、御承知のとおり人件費については、相当な市財政に対するウェイトを持つておりますので、できる限りこれは自制をしていきませんという、いかなることだろうと思ひます。

かたがたいたしまして、御不満の皆さんにあられることにつきましては、われわれはそれを解消すべく、経費の点におきましてもできるだけむだを省いて、そうしてたくみな処理をいたしていきたいと思ひますが、現在、各都市でも手に負えぬ、やむをえないときには一カ所へ持つていきまして、そこへほりまして、そしてまあ較なんかが発生することは、薬品でしたりあるいは焼いたり、いろいろのことをやっているのですが、万やむをえざる時にはそういうことも、今日まではやってきたのです。ある場所を借り受けまして、埋め立てをさしていただくというようなこともやってきたのですが、あまりに原始的なことでございますので、そういうことはなるべく避けて、そして、塵芥の処理をする正道に移していこうという才一歩が、南部のこんどの焼却場というふうでございしますので、繰り返すよう

であります、順を追ひましてこの問題を解決さしていただきたい。

それから、河川の両側あたりにございますいろいろの発生するものでもございしますが、この問題につきましては、なかなかむずかしゆうございまして、われわれは決して所管にのがれようとはいたしておりませんけれども、やはり手続き上、どうしても河川は河川との間の御交渉を求める。たとえば、この前の中央道路にいたしましても、やはりある意味におきましては管轄を異にいたしておりますので、野放しでおれの勝手にやるというわけにはいきません。役所というものには、御承知のとおりやはり一つの規制がございます。むかしのことはで縄ばりがございしますので、それぞれ了解をえましてやっていく。了解をうるのには経費がかかる。こつちや出すが向うは出さぬ。こうこられると平も足も出ない。それなれば仕方がないから市で負担しますといつてやらなきやならぬような場合も生じてまいりまして、なかなか複雑多岐でございます。

私もひまがあれば市内をよく回るんでございしますが、いたるところに仰せられるような場面ばかりでございまして、ずいぶん頭を痛めておるような次才でございしますから、このさい、さらにひとつ想を練りまして、なんとか臨時処置法を講ずるかなんかいたしまして、同時に、皆様方にも御協力もしていただけるような方式を編み出していただいて、単に理事者ばかりでなく、議会の各位におかれましても御協力をいただいて、りっぱな運営にもつていきたいと存じております。

それから、この問題からよつとそれですが、御参考までに申し上げておきたいと思ひます。

それは、山田にしてもどこにしてもずいぶんりっぱな運動施設ができるじやないか。四日市はまあなんにもできないし、これじやあんまりさみしい、張り合ひがないと、こういう仰せでございしますが、御承知のとおり南部の丘陵地帯のうち二十五万坪は払い下げてよろしいし、貸し下げを受けてもよろしいからということで、御了解をえており

ます。これは、国有財産の払い下げに関する地方の委員会がございまして、前回のときにも、この次には四日市の公園、緑地のための二十五万坪を提案するから、あらかじめ御了承願って、これに含みを持たしていただきたいということを、大蔵当局から申されまして、異議がないという御内諾をしておりますので、この次にはおそくならぬ格好で御許可になると思います。

これに対します計画というものは、すでにできあがっておりますので、議員さん方の中で、これはちょっと見ておきたいとお思になる方がございましたら、どうぞ、係の者によく説明を平素お聞き取りになっていただいて、はあ、この計画はこういうふうになっているのかというようなことを、御了承願いたい。これは一応も二応も御説明申し上げておるのでございますが、御旅行になっておりましたり、そのときに御欠席になっておられますと、ついお見のがしになりますので、御関心がおありにならぬということもおありであらうかと思っておりますので、どうか、御遠慮なく御覧願って、はあ、こういう計画をもって進もうとしておるのであるな、予算はこれくらい、何年間くらいにこれを完成しようかという考えを持つておるといことを、お調べおき願いたいと思います。

それにつきまして、四日市の側は、県のほうの考えといたしましては、プールを一つもっていききたい。将来の国体にそなえるためには、四日市はひとつプールで辛抱してくれないか。われわれは、少々経費がいてもいいから、国体の基本線のグラウンドは四日市へもってきてほしい。つこうによつたら四日市は相当な負担をしましてもよろしいといっておりますが、これは、県全体の政策からながめて、うんとはいってくれませんか。いま四日市にやらさなきゃならんかと県が考えておりますことは、プールでございまして、これは正式なプールでございまして、最初は三千万円ほどの補助を出そうといっておりますのを、いろいろ学校のときの、こちらが思つたよりか多く金を出させられまして、その身代りとして、さらに一千万円を追加いたしましたして、四千万円だけひとつ四日市に出そう、だから、これが三分の一ぐらいに該当するような設備をこしらえてほしい。これは、県の希望は、県営が御希望でござい

ますが、四日市は、もう前から市営のほうがさっぱりしとてよろしいからということをお願いしておったもんで、これは市営プール。そうして、規格にのつたりっぱなもの、それに対して四千万円の補助を県が与える、こういうことになっておりますので、この一翼はになうことになっておるのでございます。

また、テニスコートその他のことにつきまして、いろいろいま御交渉がございしますが、これは、県全体のつり合いというようなこともございしますので、あまり無茶もいえませんから、よく御相談を申し上げていたしたいと、こう思っております。決して等閑に付しておるわけではございませんし、また、市自体といたしまして、南部開発の二十五万坪に対する開発計画をもっておることも思い起こしていただきたいと思います。財政とらみ合せまして、皆さんの熱烈な御協賛をえて善処いたしたいと思ひます。

なか、最後に申し上げたいことは、理事者の中で態度その他につきまして御不満の点がありかもしれませんが、しかし、どれもこれも一生懸命にやつとてもらいますことは事実でございまして。

また、いろいろの御批判あるいは御注意をいただくこともよろしいが、理事者にはやはり理事者の立場がございまして、われわれといたしましては十分みずから規制をいたしますと同時に、この規制の範囲をこえまして、お互いに論議がすぎますという、片方で萎縮するというような現象ができてまいりますという、伸び伸びした市政がやりにくくなるんじゃないか。この点につきましては、とくに人事の問題につきましては、市長もおることでございますので、市長によく御意図のほどをお聞かせ願って、皆様の御意図のあるところは、市長からもよく話をし、同時にわれわれの考えておりますことも、議長あるいは各委員会の方々を通じてよくお願いを申し上げ、そうして、市の立場はこういうふうでありますということをお願いして、御理解をいただきつつ、やはり私は、政治の要諦は和をもつ

て尊しといたしたのであります。人のおの欠点のないものはございません。従いまして、お互いに規制を加えつつ、円滑なる市政の運行、議会の方の御性能を御發揮願ひまして、市民の方におたえ申していただくことが、最も望ましいことではないかと存じますので、いくら時代はかわりましても、やはりその点におきましては、ゆるぎないことだろうと信じますので、お互いにひとつ十分戒心を加えまして、努力をさせていただきますと、こう考えておるような次才でございますので、議会におかせられましても、この理事者どもの考え方につきまして、十分御理解をいただきます、この上ともいろいろな点におきまして、市理事者を御支持いただくようにお願い申し上げたいと存じます。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午前十一時四十六分休憩

午後一時二十四分再会

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

酒井議員。

〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 時間をいただきましたので、再度、御質問をいたしたいと思ひます。まず、災害対策についてであります。とすると、その結果において責任のなすり合いをする、そういうことはどれほど責任をなすり合いしてもらっても、困るのは結論は市民であつて、市長においては、そういうこともないということを、ひとつ言明願ひたいわけです。

二番目には、し尿、ごみ問題は、衛生部長を責めたような格好になりましたけれども、要は、市長において十二分に予算を計上してやっていたかどうか。そして、十二分に予算をあげて、十二分に働いてもらつて、不法投棄のないような、そういう市政を行なっていたきたい。それに対して、市長はどのようにお考えであるか。三番目に、公害対策についてであります。昨日からの公害対策に対する市長及び理事者側の御返事は、非常に消極的な態度をとられておると、私はそのように見受けられたわけでありす。ところが、現実に市民の人々は困つてゐるわけであつて、一秒の休みもなく公害の問題は、市民の方々に對して容赦なく押しかけてくる状況でございます。であるがために、市長は条例をつくるとかいうような方法で、もつと積極的にこの公害を受けつつある人の中に飛び込んで、公害に対する情熱を燃やして、真心をもってそれを処理していただけるかどうか、市長の御真意を伺いたないのであります。

以上。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 公害問題につきまして、市長は積極的に身を挺してこの問題に当たられ、こういう御意見のようには拝聴いたしましたのですが、もちろんそのつもりでやらさしていただいておりますが、今日までなかなか思うように成果が上っておりません。各地区におきまして、それぞれのきびしい御要請がございますので、これに對しましてはもとより一生懸命にやらさしていただくつもりであります。

ただいま問題になっておる諸点のうち、最も身近かなことからやっつかないやならぬのでございますが、同時に会社にお願ひをいたしまして、化学処理をなされる上において、できうる限り現在トラブルになっておりますものを、これを除去していただく方法についてお願いをしてきたのでございます。さいわい、会社のほうにおかれましても、

会社ともそれぞれのお立場からいろいろ御研究を願ひ、最近にいたりましては、とくにこの亜硫酸ガスの系統のものに対する、一つのなんと申しますか、メドがつかけてきた。この前も申し上げましたように、これを実行の上に移していただくことが必要でございます。これが本省との関係でございますが、問題がいまのところ東京にございます。従いまして、市長もこれの一翼をにないまして、先般、関係官庁へまいりまして、われわれは日々苦しんでおるのだから、もちろんこういうような除去できるような方法に会社が努力をして、そうして、やろうということであればこれは国策の上からいうてもまことに当をえたことである。だから、直ちにこれを取り上げるべきであると、こう申しておるのでございますけれども、われわれは、目の前に迫った公害のところから話を進めておるのであります。各省におかれましてはそれぞれのお立場がありまして、やはりそういうことをやるために、他に非常な大きな影響を与える。それが、ちよつとやそつとの影響じやなくて、ほとんど革命的な、致命的な影響を与えてしまうというようなことでございますので、各企業間の調節をとる必要があるといたしまして、しばらくの間、その調整期間を待つてほしい、こういう御意向でございます。

これは、御本省関係のお立場からいへばごもっともでございますが、われわれ日常そのことに苦しんでおり、また会社におかれても非常に御心配になって、この問題に熱心に取り組んでいただいた結果、ようやくメドがついてきてそしてこれに踏み切ろうという勇猛心を起こしていただいたのでございますから、私といたしましては、担当の御当局に向つて、いましてやにむにかぶりついておるわけでございます。やがて皆様にも御報告を申し上げて、御協力を願う時期がくると思いますが、やはりものには順序がございますので、あまり短兵急にこちらのことはかり申しまして、かえつてそのために他の反動が多くて目的を達せられないということでは、なんにもならぬだろうと考えまして、しばらく時間をいただきたいと、こう思っておるのでございますが、ちよいちよい新聞でもほのかに散見せられ

ておることでございますが、こういうような問題が回帰としてまいりますと、やや明るみを取り戻すことができるのではないかと、こう思っております。

また、ただいま仰せられるような、市長は率先してやるべきだということになりますと、いまのところしましては、これに対する直接の監督官庁としましては、県が相当の場所でございますので、どういたしまして、県との間に少しさびしい折衝をもたなければならぬと思ひますでございますが、地区地区の方々の御要請もございしますので、できる限りそういう方面で、県の方々のいっその、ひとつ進展をしていただけるようにお願いを申し上げるつもりでありますから、どうぞ御了承願ひたいと思ひます。

それから、かねがね各都市におきまして、それぞれ条例をもつておるところがございますが、これは政令都市とか特別都市とかいうようなものでございますと、非常にやりようございますが、われわれのように監督を受けておる都市では、直接の行動ができません。従いまして、才二義的になる場合が多いと存じますが、この問題につきまして、近く御相談を申し上げて、なんらかの条例の運びに進めていきたいということで、御審議をわずらわしいという心組にはなつておる次第でございます。

さいわい、いろいろの法律ができてまいりましたので、そういうものを一つの足がかりといたしまして、四日市独自の立場からやるだけのことはやっていきたいと、こういうふうに考えておるような次第でございますので、どうぞひとつ御協力をお願いしたいと思ひます。

#### 〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君　いつまでたつてもきりがありませんので、どうか市長の積極的の行動をお願いする次第でございます。不法投棄に関しまして、不法投棄をさせないようなひとつ政治をやつていただきたいと思います。

災害にしても、災害の起こる前に、地震というのは別でございますが、火事であっても、火事が起こってから云々するのではなくして、火事の起こらないような政治、ちやうどうんでからうみだけを取って、それをたたないと、そういうことでなくして、うまいような政治、これをひとつお願いしたいわけでございます。

精薄児にしても、なぜ精薄児ができるのかということを、研究をひとつ市長はお願いしたいと思います。私どもはそこを知らずして市長に申し上げておるわけでございますが、市長はそれを聞こうともしない。これでは大政治家とは申せないと思います。どうか、市長は大衆の中に飛び込んで、大衆の叫び声をひとつ肌で感じていただきたいことを要望する次第であります。市長は、私に「和をもつて尊しとなす」ということを先ほどいただきましたけれども、私は市長に「大衆は愚にして賢なり」ということわざを呈して、私の質問を終わります。（「関連」と呼ぶ者あり）

○議長（錦安吉君） 大島議員。

〔大島武雄君登壇〕

○大島武雄君 私は、三つか四つの項目に分け、先ほど酒井議員が代表質問いたしましたそれに関連して、質問したいと思います。

まず、才三番目に掲げました公害の問題についてであります。いろいろとこまかいところまで教えていただいてほぼ納得ができたように思いますが、まだ五点ばかりこれについてお伺いをいたすわけでございます。

まず第一に、現在の四日市といたしましては、この公害問題というものは、非常に敏感になっております。このことについていろいろ調査もし研究もされておるわけでありますから、この点を、市民の方々に広報というものに載せて報告すべきであると、このように考えておるわけでありますが、市のほうはどのようにお考えになるか、この点をまず第一点としてお伺いいたします。

次に、ばい煙の規制の法律ができて、私たちも喜んでおりますけれども、とくに火力においても、あるいは古業場においても、現在、石炭などをたいてやっておるわけでありますが、これが重油に切りかえらなると、この重油のたいたそのことが、亜硫酸ガスとなって、さらに市民に対してひどいことにならぬではないか、このように心配するわけであります。

聞くところによりますと、コツベルという防塵装置があるようでありますが、その装置が、石炭をたいておっても必らずその装置によつてばい塵などがなくなると、そのように聞いております。こういうような点についても、いろいろ検討なされた上で防止の法律ができたと思いますが、できるならば重油によつて亜硫酸ガスを生じ、さらに硫化物が私たちの生活の中に、家庭の中にくさい現象として起きているわけでありますから、できる限り現在の装置からコツベルという防塵装置をして、そうして公害問題の処理に当たっていただきたい、このように考えるわけであります。この点についてはどうお考えか、お伺いいたします。

才三点については、きょうも朝からこのように悪臭あるいは煙によつて、市がこのように曇っております。この大気汚染によつて、いろいろときからの問題についてもお答えをいただいたわけでありますが、この四日市の特殊な気象条件に基づいて、どうしても四日市に気象の観測所を設けるべきである、このように考えるわけであります。聞くところによりますと、亀山に気象台があるようでありますが、それに勤めている方で、現在、亀山においてはあまり用はなしていないというようなことも聞いております。新しく設けることが不可能であれば、亀山のその観測所を四日市にもつてきたらどうか、このようなことを市長から政府に、関係の各省に交渉していただけるものかどうか。

また、どうしても設置が必要であると、このように考えるわけでありますが、その点についてどうお考えか、お伺い

いいいたします。

それから、さいわいにして、わが四日市においてもばい煙の規制の法律ができて、その後、装置の設置までに約二カ年間の間があると、このようにいわれております。きのうからいろいろの方が質問されておりますように、いま現実として公害によって苦しんでいるわけでございます。この長い二年間というのを、待つわけにはいかないわけでありまして。私たちの健康な体であっても、くさいところへ行けばいろいろな現象が起きてきます。

さらに病気の方々においては、なおさらつらいことであろうと、このように思うわけであります。現在、防止の法律ができて、市長も安心したかのような感が見受けられます。このような油断をしては相ならぬと、このように考えるわけでありますが、まだ、工事の内容はちよつとわかっておりませんけれども、市民のこの苦しみを實際肌身で感じておるのであれば、この期間もまだ短縮できる交渉ができるんじゃないかと、このように考えるわけであります。この点について、市長はどうお考えか、お尋ねいたします。

オ五点、先ほども酒井議員が質問したのでありますが、返事がないので再度御質問いたします。

学校の騒音であります。昨年からいろいろと承わっておりますと、騒音がだいたい四十ホンまではやたえられけれども、それ以上のホンになると、なかなかたえられない。必らず故障が起きてくる、体にも変化をきたしてくと、このように承わっております。昨年も衛生部長は、納屋の小学校あるいは浜田の小学校、三浜小学校等においての騒音の調査がなされました。その報告によりますと、どうしても防音の装置をしなければならぬように承わっておりますが、その後もどのようにして具体化し、防音の装置を考えていらっしゃるか、その点についてお答え願いたいと思います。

次に、質問通告のオ四番であります。土木部長から、いろいろ総合的にやって、いまそれが着々と成果が上って

いると、このようにお答え願いました。まことにありがたいと思います。さらにそれを多角的に広げて、そうしてやっていただきたいと、このように考えます。

まず、その総合計画のオ一点ですが、これは、私の見方が変かもしれませんが、土木費の修理費が安いということは、市長の腹では、土木部長はどのようにことしはうまくやるだろうか、というような腹があつてやうたんではないかと、そのように考えられます。どうか先ほども次の議会に予算化したというようなお話がございましたが、ただ、これは抽象的であると、このように私は思い、どうしても道路というものは、市の発展のためには欠くことのできない問題であります。どうか、次の議会において必らず予算化するという確答をえたいと思いますが、市長の答弁を願いたいと思います。

オ二点、西浦の計画についてでございますが、いろいろと市民からの問題が起きております。それは、自分が家を建てたいと思つていろいろな策を講じてやっておりますが、市役所へ来ていろいろと聞いてみると、自分の土地の上には道路がでるのである、家も建てられないというやうな現象もたびたび起きております。いちいち市役所へ来なければそういうのがわからないやうでは困ると思ひまして、どうかこの道路の区画整理あるいは都市計画というものを市民に知らせるために、特別な広報あるいはその他のものによつて、自分の現在住んでおるところ、あるいは所有しておる土地が、どのように市の計画になつておるのかどうか、こういうことを知らせるべきであると、このように考えますが、このことについてどのようにお考えか、お尋ねいたします。

次に、オ三点、いろいろ議会において市道が認定されております。市民にいたしましたしては、その市道に認定されたということは、非常に喜んでおります。この喜びというのは、必ずや舗装をしてくれるであらうと、このような希望を持っております。

しかしながら、先ほども申しましたように、予算が少ないうえに、いろいろこのような市民に対する期待もまげて  
そうして舗装あるいは適切な処理もできない現状であって、現在、市民にある程度の不安が起っております。この  
点について、どうか一日も早く舗装してほしいというように、市民は首を長くして待っているわけですが、こ  
の点についてどのように、また、いつごろからこの市道の認定したところに舗装ができるか、という考えがありま  
した、市長にこれのお答えを願いたい、このように思います。

次に、質問通告の才五点。税外負担の問題であります。PTAに対して千三百万円の軽減ということについて、  
予算化されたわけですが、さきほども酒井議員が質問されましたように、過渡的にはちとこの影響がない  
というようなことでは、市民に対しての真心も通じていかないのではないかと、このように思うわけでありま  
す。あるところに対しては補助金を惜しみなく渡して、どうしても必要であり、しかもわがかわいい子供が勉学するた  
めに費やされる費用というものを、税外負担として堂々とらしておるというようなことではいけないのではない  
かと、人情深い市長は、このようなことを見て、だまっているわけにいかないであろうと、このように考えるわけ  
であります。この、現在、約五千万円に上るPTA費と称されているものが徴収されているように思われますが、こ  
の点については、少なくとも米年度の予算までには全廃にすべきであると、このように思います。この点について  
市長はどのようにお考えか、お尋ねいたします。

次に、才二点。先ほども消防長のほうからお話がありまして、地元の自主的によつてこの負担をするのであると、  
このようなお話がございましたが、その四カ町にわたるところの地元の方々が、どのようにして金を徴収なさってい  
らっしゃるのか、そのことをお調べになっておるのかどうか、この点についてお伺いしたいと思います。

地元の人々においては、あるいは百円あるいは五百円と、このようにもいわれておりますし、あるいは月賦払いと

かそのように、しかも地元の幹部のほうからは、お前ところは月賦でこれくらいのもが出せないのかと、そのよう  
な半強制的なようなことをいわれて、そうして、しぶしぶ出しているところもあるそうです。そういう点につ  
いても、当然市を守るべき消防長でありますので、どうか、これも予算化されて、市の金によつて消防車を買うべき  
であると、このように考え、消防車の購入の地元負担金を全廃すべきである、このように思うわけがあります。この  
点について、市長はどう考えられ、どういう処置を講じられるか、お答え願いたいと思います。

通告の才六点。いろいろと市長からも、あるいは担当の方々から詳しく承わったわけですが、想像もしなか  
った伊勢に、県から補助を受けて総合グラウンドができる。また、津においても体育館ができると、このように聞い  
ております。

先ほども酒井議員が質問されましたように、どう考えても四日市と県との間に何かおかしな溝があるのではな  
いかと、このようにも考えられます。いろいろと理事者のほうも努力されておるということはおかしてありますが、  
この何ものがあるというふうに感ずるわけがあります。当然、二十二万の市長であれば、そのようなこともほほわ  
かっておるのではないかと、このように考えます。その点について、どういう考えをも、今回の総合体育グラウンドと  
かあるいは体育館とか、そういうものが、想像もしなかった伊勢とか津に建てられたのかどうか、この点についてお  
伺いいたします。

次に、才二点においては、文化会館とかそういうものがありますが、青少年の協議会のときにもいろいろと話があ  
りました。いまの青年が、あるいは勤労青年が、最も好むようなところの会場がなく、場所がないというような意  
見も相当出ております。このときにあたって、総合文化会館なるものを当然市ですべきであり、また、市民ホールも  
ほとんど全部使っていると、使用されているという使用段階になっております。こういうときにあたって、さらに、

文化会館なるものをつくるべきであると、このように考えます。

また、つくられるのであれば、いつごろつくられるのか、その点、お考えがあったらお聞かせ願いたい、このように思います。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） なかなかこらえらいことでございますので……、私からお答えしなきゃならぬと思いますものから、ひとつお答えします。

道路の修理を九月議会に必らず予算化せい、こういうことでございましたね。

御承知のとおり、税収とにらみ合せまして、私もきれいな道路を通りたい、市民にもきれいな道路を通したい。これは一日もやまぬ思いでございますので、できるだけ善処はさせていただきますが、どれだけ予算化できますか、ひとつ努力さしていただきましょう。

それから、西浦の問題でございますが、これは、ひとつ担当の者からお答えしたほうがよくわかりだろうと思います。

それから、認定した市道に舗装をせい、これもできるだけ早い期間にひとつやりたいと、こう思います。

それから、税外負担のことでございますが、全廃するかどうかということ。きょうまでいろいろ皆さんにお世話になってきておりますので、一ぺんにびしやつとやめるということも、なかなか、実情は御承知のとおりでございますので、行ないにくいですが、なるべく御負担をしていただかぬように方向づけていきたいと、こういうふうに思います。

それから、消防車のこと、これも消防長のほうからひとつお答えしたほうがはつきりするだろうと思います。

それから、体育施設でございますが、さい前も詳しく申し上げましたし、市のこんどの新しい場所の図面を一ぺん御覧になると、これだけでできればこれはもう大したものだなと御理解願えるようになっておるのでございますが、図面を御覧願ったのかどうか、ひとつやっていたきたいと思えます。

それから、県との間にどうのこうの、これは、まあ県には県の考え方があり、四日市は四日市でこうしてほしい、ああしてほしいといっているのですが、四日市のいうことはつまり聞きわけにもいかな。県との間にいろいろ何か摩擦もあるんじゃないかというような御意見でございましたが、県は県の立場があり、市は市としてのいろいろお願いすることもありまして、そういう場合もございますが、県・市というものは、お互いに協調を保ちながら大乗的には進んでいかなきゃならないものだと思いますので、これは、やがてそういうことは御心配ないようになると思えます。

総合文化会館、これは、もう委員会をつくりまして、いろいろの会館についてお進めさしていただきたいとおるのでございますから、これも市の財政の充実と相まちまして、いろいろやれることができると思えます。

それから、公害の問題でありますが、なんか時間的にそんなものは待っておれないから、もつと一生懸命早くやれと、こうおっしゃっていただいておりますが、たつたいま申し上げましたように、会社のほうでもこういう設備をしたいと、やらしてくれと、こういっておるが、ある省ではちよつと待てと。それをやると片方で家並みに倒れてしまふやつが多く、それじゃ片方はいいけど片方はつぶれちゃうのだから、これは危いと、だから、ちよつと待てとくれと、よく調整をとって、そして、四日市のように公害でその目を困っておるものを、これはひとつ優先的に考えなきゃならぬ、努力するから待てくれ、こういっているのですから、よほど事態は進んでおるものと御解釈願いたい。

それから、万古のかまどのことですが、これもまた、先般も中小企業の方に寄っていただきまして、こういう事態になったから、市としてもできるだけ御支援を申し上げたいから、思い切って踏み切っていただきたい。やはり時勢の波には乗っていただかないと、こういう規制法でもできた場合にはやむをえぬことだから、市も地場の産業については、応分のことをさしていただきたいと思う、といっておるような次第でございます。

ですから、もうどうしたら金がうまく手に入るか、また、どうしたら市がお助けすることができるといふ段階にほとんど進んでおるのでございますから、その点につきましても、各産業の御高誼の方々ともよく御意見を御交換になつておいていただきたいと存じます。

それから、西浦の整備の問題ですが、これは、やはり整備計画の上にのつていきませんからねので、お説のとおりちゃんと図面を書きまして、こういうふうにしてこういうふうにして、あなたの場所はこの辺ですよと、あるいはここだということを与えるのならないんですが、なかなかその段階までいきますまでに時間がかかります。そんなにかからないだろうとおぼし召すかもしれませんが、やはりちゃんと手続きを踏んでやろうと思いますと、存外時間がかかりますので、実に気はもんでおるのでございますが、まだ、ようやくこの幹線道路を向うへ抜くということ、ごく最近に県が承知してくれたというよりな取得でございますので、実際は、市といたしましても皆さんにおかれましても、かき寄せるようにものごとを思いましてもなかなか進まぬので、これは、市長がとろくさいから申しわけないのだとは思いますが、かなり努力しておることはしておりますのですが、その点はひとつ御了承願ひ、なお、巨細の部分的なお考えについては、担当のものとよくお話をいただきまして、これはこういうふうに行くべきであるとか、こうしたいというふうなことについての御意見がございましたら、お教えを願ひまして、理事者を御縦達願ひたい、こういうふうに考えます。

まだ全部よいいからぬかもわかりませんが、気象台の設置のごときも、これも、前々から四日市が気象台をつくるべきであるということを、これ、港関係からいっておるんですけども、なかなか国というものはむずかしいもので、いま非常な必要でない箇所にあつても、それをやめておれのほうへくれということが、なかなかいいえなものでございます。従いまして、四日市につくつてほしいと、これにはわれわれとしても応分のことをさしていただいてもやりたいということは、この公害問題の港の時分から申しておることなんです。こんどはまあ公害問題にも関連してまいりますので、なんとか政府のほうでも、少し踏み切った態度に出てくるだろうと思います。

それから、学校の防音ですが、これは、ひとつ教育関係の者から申さしていただきましょう。あまりたくさん御質問がございましたので、これから申し上げていいか、この辺でひとつ――。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） お答えいたします。

浜田小学校につきましては、あそこの緑地をこんど植樹をしていただきましたので、相当にこれは助かると思ひます。

なお、前にも私はお答えいたしましたように、根本的には車を分散してもらふというより手はないと思います。外から来るものを、いくら窓をしめてみたところで、こっちは守るほうばかりでございますので、車がなるべく通らないように分散していただくということが、基本的な考え方だと思いますので、できましたら、私たちとしては、道路の整備を早くしていただいて、車を分散していただくようお願いしております。

〔土木部長（城井義夫君）登壇〕

○土木部長（城井義夫君） 西浦区画整理の建築の問題でございますが、西浦区画整理三十二万坪につきましては、

先般、二週間の縦覧をお願いした次才であります。この縦覧は、主として道路計画をきめまして、本省の区画整理の認可をいただくというために、縦覧をしていろいろ御意見を伺ったわけであります。

次の段階におきましては、いよいよ設計認可をとりまして、事業を軌道に乗せるわけでありますが、いまちやうどその準備中であります。そこに、準備中が若干長いくらいがございますが、これは、まことに申しわけないと思っておりますが、これは、隣接地帯につきましていろいろ御意見なり問題が若干残っておりますので、この調整なり御了解をうれば、さっそく進めたいと思っております。

御質問の趣旨のように、個人の方が家を建てられる場合に、自分の屋敷が新しくどういう格好になるかという問題は、そういつに軌道に乗ったのちにおきまして、区画整理の審議会の設立後にいろいろ委員会と御相談を申し上げて案を決定するわけでございます。従って、当分の間、はなはだごめんどうでございますが、やはり市の計画課、県の土木事務所の建築課、こういったところの事前の打ち合せをひとつお願いしたいと。これは、打ち合せなしに進めていただいても、やはり書類は建築基準法によって出していだかなくはないわけですが、図面を出していただいてから、いろいろ訂正をさしていただいたり変更をしていただくと、期間を要しますので、事前に打ち合していただきたい。この間は、区画整理の軌道に乗るまでの案でございます。

そういうわけでございますので、ある期間、御猶予を願いたいと思います。

なお、もう一点。土木部長は一年間泣けということでございますが、土木という土方、土木部長が泣きましても、あまりきれいでございませんので、泣かぬように予算をいただきまして、仕事が多すぎて悲鳴を上げるような状況でやりたいというのが願ひでございますが、先ほどから他の議員さんの御質問に対しましても、市長におきましてある程度のお話が出ておりますので、部長といたしましても非常に期待しておるわけでございます。こんご予算がいた

けましたら、十分有効な仕事をやりたいと思っております。

〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕

○衛生部長（中山英郎君） ただいまの御質問のうち、公害関係で市長が答えた以外のことを補足、お答えいたします。

一番の公害調査、情勢をPRすべきである、広報なりにPRすべきであるという御意見につきましては、同感でございます。一月一べんの広報でときおりは載せておりますが、時期ずれがあるということを考えております。従って、特集号を出すということも考えておりますし、現在、県。市の大気汚染協議会で三重県公害ニュースということ、県の公害対策室の編集で出すということを決定いたしておりますので、PRについては、さらに御批判もあり、なるべく市民の方にわかるように解説的のことをいたしたい、こういうふうに考えております。

オ二に、ばい煙防止法のことについて、コットレールの装置をどう考えておるかということでございますが、これは、大企業は全部やっております。コットレールは電気集塵器でございますが、それ以上のバックフィルターあたしの設備をつけとります。

問題は、中小企業の装置だと思えますが、これにつきましては、きのうお答え申し上げましたように、窯業試験場あたしの箇々の工場指導において、燃焼管理とともに、そのかまにある装置を、県の窯業試験場の指導によって向上いたしたいと、こういうふうに考えております。

それから、気象観測所の問題でございますが、市長が先ほどお答えになりましたが、このことは、すでに黒川調査団の報告でも、政府の勧告の形で出ております。

それから、市長及び知事名で、すでに二月に出とりまして、直接、運輸大臣あるいは気象庁長官にも県。市合同で

陳情の形で出ておりますので、中央の働きかけは二月にすでにいたしております。

実現の方途といたしましては、市長も触れましたが、海洋気象台ではだめだと、このさいの気象観測は公害上必要だということで、目標は、昭和四十年年度においてなんらかの形でやるように努力をして、実現方をいたしたいとこういうふうに考えとります。

それから、ばい煙規制法によるところの防塵施設の二カ年の猶予期間の、法定期間の短縮につきましては、一応、企業側といたしましては、通産省の指示によりまして、プランを出せということになっております。すでに出す前にも、すでに着手された企業の状態を、われわれは承知しております。従いまして、全般的には、この二カ年の猶予期間を待たずにすでに着手し、また現に着手する方向にあるということをお答え申し上げておきます。

以上。

〔消防長（竹内鉄雄君）登壇〕

○消防長（竹内鉄雄君） お答えします。

消防車購入について、地区においてどういうふうな方法で金を集めておるか、知っておるかということでございますけれども、私どもは、地区においてお金を集められる方法は、どちらからもってきていただくのか、よく存じません。しかし、お伺いするところによりますと、理解あるあたたかい熱情から、各地区の住民を代表せられます自治会長の幹部の方々と、それから、たえず犠牲的精神を発揮して郷土に奉仕する消防団の方々が、熱心にお回りをいただきまして、大方の絶大なる御賛同をえてそのお金をえておるものと承知いたしておるのでございます。

〔大島武雄君登壇〕

○大島武雄君 あと二、三点でありますが、もう一度、くどいようであります。お答え願いたいと思います。

学校の騒音の件であります。これは車を分散させる以外にない、というようなお答えであります。それを、どのように分散させていく計画をもっておるのか。

あるいはそのほかに、まだ防壁をつくるとか、いろいろなこともあるように思われますが、それと、もう一つは、昨年、公害の大気汚染あるいは騒音のことについての報告がありました。そのような報告に基づいての計画をなされていらっしゃるかどうか、この点をもう一年お答え願いたいと思います。

それから、この前もある議員がいわれたわけでありますが、その人を責めるわけではありませんけれども、消防車の地元負担の件であります。そのところからこういうような問題が起きてきているわけでありまして、まだ、私のところはどのように月賦払いです、自分がいなくて、留守に取りにこられて、そして、そのときにお前のところは月賦でも払えないのかというふうな、地元の幹部の人からいや味をいわれておるというふうなことが、しばしば耳に入ってくるわけでありまして、こういう点についても、非常に私は問題であらうと、このように思います。

市長は、あたたかく、行きとどいた市政と、このように大きくみえを張っているわけですが、こういうごまかい問題、内部のことについて、山積みしている問題を、もっと親味になって考えて行政をやってもらいたいと思うわけでありまして。

そういう観点から、どうか、この消防車の件についても、全廃してもらいたいというのが私の願いであります。地元もそのように当然思っております。

この地元負担金についても、いろいろ話を伺いますと、ほんとうに喜んでやっておるとするのは、約一割しかおりません。あとは苦情をいいながら、自分たちは税金をとられておるのに、まだこのようにして強制的にとられるというふうな声が多岐であります。こういう市民の声をどのように市長は聞いておられるのか。この点がうたがわしい

わけであります。こういう点についても、市長は先ほどいろいろ仰せになりましたけれども、あまりにも市民に対しても不熱意であると、このように考えるわけであります。

ある参議院議員がいわれたわけでありすけれども、四日市にはどのくらいの地元負担金があるのだ、税金以外の負担があるかと、このように聞かれたわけでありす。まあ相当数に金額が上ったわけでありすすが、笑われまして四日市は税金を納めているのと同じだと、このように笑われたことがございます。

このようにして、四日市には相当な税外負担があるわけでありすすが、これを一日も早く解決するために、たとえ二年かかって、あるいは三年かかってこういう負担金はなくするのだという計画を持っていらっしやるかどうか、もう一度これをお答え願いたい、このように思います。

以上、いろいろと、その他の問題についてはお答え願ひまして、それを必ずや実現されるように要望を申し上げます。

先ほど御質問いたしましたその点について、お答え願ひたいと思います。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） お答えいたします。

先にも申し上げたように、浜田小学校につきましては、ちようど隣に出口がございまして、いままではあそこを遊び場として使用させていただく許可をえておりまして、あそこへ、教育委員会といたしましては垣をして、遊び場になっておったのですが、こんどさいわいあそこへ大きな木をたくさん植えていただいたということで、国道一号線との境ができましたので、それで、相当、木造校舎のほうは助かったと思っております。

なお、先に車の分散の話をしていただきましたけれども、車を前の——前のというのは、塩浜へ行く道路であります。

——にどんないま無制限に走っておりますけれども、ああいう車を制限していただくということを、私たちはお願いしておるのでございまして、教育委員会といたしましては、公害対策の一環としての騒音の問題は、割合に取り上げられていまして、そういうことをそこへお願いしておるといふ現状でございす。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 地元の方々にいろいろ御負担をおさせ申しておるといふことは、市民としては本意でないからこれを早くなくしろ、こういう御趣旨のように承わりますすが、もうしごく御同感で、税以外のことで御負担をおかけ申したくない、それはどの市政の充実をはかりまして、一日も市民の方に安んじていただけるようにいたしたいという努力をいたしておる最中でございす。まだ、四日市はそこまでいっておらぬのじやないかというようなことから、地元の方々が見るに見かねて、あるいは他のところと比べてみて、おれとこはこういうことが足らぬと。これはまあひとつ市でもやらなきや仕方がないから、おいらでもやろうじやないかといって御協力になっておることですが、その御協力に甘えて市長がおるといふわけではございせん。一日も早くそういう境地を脱出したいというところで、市長がいかに四日市市の充実のことについて、あちらやこちらからいろいろの御批判をこうむりながら四日市の充実をはかりとして努力しておるか、もがいておるかという姿は、おわかりだろうと私は思っております。従いまして、できる限りよけていきたいと存じするが、見るに見かねる場所がございまして、市民の方々が自発的に前進めくださることにつきましては、いま直ちにこちらからそれをやめてくださいというわけにもいきません。といいますのは、そのものごとを一べんにびしやと区切りをつけるわけになかなかいきませんから、まあ市の充実に伴いまして、仰せの御趣旨は一日も早く、末の末まで通っていけるように市長は努力をさしていただきたい、こう考えております。

○議長（錦安吉吉） 暫時、休憩いたします。

午後二時二十分休憩

午後二時四十四分再開

○議長（錦安吉吉） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

大島議員。

〔大島武雄君登壇〕

○大島武雄君 学校の騒音の問題ですが、教育長は浜田のことばかり申されておりましたが、浜田の西側の公園、あれは県の所有のものだそうでございます。なんら市がそのような防音の装置をあるいは考えておらないというように考えますし、また、納屋小学校にいたしましても、なんらそのような手も打っておりませんし、三浜の小学校にいたしましても、相当な高いホンを、毎日そのような状況のところで勉強しているわけであります。一日も早くこの防音の装置なり、あるいはそのほかの点に、できましたならばやっていただきたいと、このことを要望いたします。

なお、その他の問題についても、各関係の方々からいろいろお答えにされましたが、それを一日も早く実現されるよう、また、このお答えになったことも、市民にいろいろと申し上げておきますので、その点についても、ほんとうに市民が喜んで、なるほど平田市政というものはこのように実現しているのだという姿を示していただきたい、このようなことをとくに強くお願いいたしまして、私の質問を終わります。

○議長（錦安吉吉） 北村議員。

〔北村与市君登壇〕

○北村与市君 質問に入る前に、理事者に要望申し上げます。

午前中の答弁は、どうも私としてはうなづけない答弁が多かったわけで、午後からは簡略に、要点を示して答弁をされたようでございますので、時間的にもだいたい時間を使っているわけだから、聞いていて焦点が狂っているような答弁はなさらないように、これから私が質問することにつきましても、どこにその焦点があるかということを、賢明な理事者だからつかめるはずだから、それによってずばり御答弁くだされば、こんなに長い時間からかからないと思います。あたかも、伊賀流の忍術使いのように焦点をぼかして、ぐるりぐると遠まきにして御答弁になるので、とんでもない質問をしなければならぬということになりますので、十分、御注意を願いたいと思います。

なお、代表質問でございますので、その点、十分、理事者としてもお考えくださって御答弁願います。

まず、新潟地震に関連しまして、四日市の地盤沈下の対策ということについて、お尋ねいたしたいと思います。不慮の災害とはいえ、大地震で新潟の市民の方々はさぞお困りのことと思います。心からお見舞いを申し上げます。と思います。

さて、新潟の地震が対岸の火のごとく考えられていては、四日市としては恐しい問題があると思うのです。そこで次の四点について、御質問申し上げます。

その一つとしては、石油工業の多い当市といたしましては、あのような災害がもし起きた場合に、危険地帯であるところの午起、塩浜この方面の市民の方々がどのように待避し、どのようにするかというようなことについての、あらかじめ市長としても御計画があるはずで、それには、つねに市民とよく折衝して、その場合には待避場所をどこにするか、そういうような点についての対策というものを、あらかじめ考えていく必要がある。起きてはならないこ

とありますが、万一、起きた場合、新潟の市民は、国体もありまして、非常に訓練が行き届いておったので、あの昭石の大火がなければ、おそらく民間から火が出なかったというような、地震につきものの火がほとんど出なかったわけです。こういうような点についての市民の訓練が、四日市ではたしてなされてるだろうか。新潟の何十倍の装置と量を持つ四日市が、あのような形になったときには、阿修羅のごとく市民はまたに迷わなければならぬ。まして、海岸も近いことであり、これから御質問申し上げる地盤沈下の問題が、あの大地震において、どのような形になって現われるかということを考えるときに、背筋の寒い思いがするわけでございます。

その点について、化学工場の多いこの四日市市としての一つの想定をお考えになって、どのように、そのようにあわてず処置ができるか、という点についての構想をお示し願うと同時に、これがオ一点ですよ。同時に、老朽校舎等の、そういう地震に対して、かわいい子供が下敷になって死んだという例も出ておる。そのときの親の心を考えますときには、いても立ってもおれないと思う。だれをうらむ。うらんでも仕方ないことですが、市の事前の対策がなされていたら、まさかこんなことはなかったであろうとくやんでも、すてにおそいのであります。そういう点について、間違いない対策を立てておられるのか、早速にこの問題は、市として責任をもって改築、増築等をやっていただいたいと思います。

これは、あわせて御答弁を願いたいと思う。

次に、新潟の地盤が非常にやわらかかったということで、四階、五階建のビルがかたむいたという。たしかに地盤が弱かったということは、これは一般が認めていたが、あのような形になって現われてくるとは、実に夢にも思っていなかったと思うのです。

で、この点から、四日市の地盤沈下ということについて、調査をされ、その資料ができておるのか。いや、できて

おるはずだと思います。

議事録を見ると、先年、たしか三十七年の九月の市会において、錦議員から質問があったはずであります。そのときに、そのデータは三十八年の四月には完成する、という答弁があった。それがいまだに発表をされておらない。その発表がなかったその理由。どういうわけで発表ができなかったか、そういう点について、その真相をはっきりお示しを願いたい。

できておれば、このさいここで御発表を願いたい。

さらに、一時、井戸掘りというものを中止され、延期されたと私は承わっておりますが、それに関連して、工業都市四日市の水をまかなうこの工業用水、よく聞いてくださいよ、工業用水、これの現在量と将来の見通し。既設工場に送水可能な量、そのパーセンテージ、これを数字をもってひとつお示しを願いたい。

以上が、オ一の質問でございます。

オ二点は、故津田博士に対する処遇の問題ですが、先年の議会において、たしか吉田勝太郎市長の時代だと思いますが、中島議員から、故津田博士に対する何かの形で、博士の市へ対するところの功績を感謝する、そういうしるしをひとつお示し願いたい。

たとえば、現在、りっぱな市立病院ができたそのもとは、津田博士が御寄付をなされた旧市立病院というものがあつたばこそと考えますが、これに対する、金の問題でなく、津田博士の肖像を玄関へかざるとか、あるいはできるならば表に銅像を建てるとか、そういうことで津田博士の謙虚なお気持を永久に市民に伝え、感謝の意を表する気はないのかどうか。これは、市民に対する心理的な影響というものは、金では買えないと思うのであります。

そういうように考えますので、市長に、その点について、稲葉さんの銅像も建てております。隠れたそういうよう

な方の功績を伝えるために、何かの処置を考えておられるか、御答弁願いたいと思うのであります。

次に、事務の敏速化についてでございますが、むかしからお役所仕事、ハンコ仕事とよくいわれておりまして、もうつねに事務が遅れがちでございます。世はあげてスピード時代でございますまして、夢の超特急も、大阪・東京間を三時間で走ろうというような、あるいは月の世界にロケットで行こうというような、いや、火星にまで行こうというような時代に、漫々的な仕事になされておるといふことを聞いております。

一部では、そういうことによつて、いや、ハンコを押すとか押さぬとか、ああこうだとかああだとか、法律がどうだ、規則がどうだ、たしかに法律とか規則は守らなければならない。しかし、臨機応変の措置ということもあり、事務の効率化というのを考えて、スピーディにものごとを処置するということをお考えくださらないと、市民のサービスはできないばかりか、市民からの非難も受けなければならないと思いますし、また、議会軽視というような問題もチラホラ耳にするのでございまして、こういう点も、市長としては、将来のことにも非常に御苦勞なさっておりますが、どうも、庁内というものに対する指導、監督という点について、少し欠けていやしないかというようにも思われますので、いや、これはいいすきかもわかりません。市長は、そんなことはない、庁内に対する、自分の部下に対する教育、指導は十分にやっているとお答えでしょうが、議会人として、そういうことをチラホラと耳にするということは、非常に私には情ないと思います。

どうか、そういう点について、もう少し市長としては、その点に目を向けていただきたい。

さらに、これを庁外、外に目を向けてみますと、緑化運動というものが盛んに行なわれておりますが、これは、少しぐらいの樹木を植えて満足しておるようなことではだめであつて、現在、既存の樹木の管理が非常に怠りがちになつておるんではなからうかと思ひます。

聞くとところによりますと、笹川付近の桜がそれでありまして、テングス病とやらにかかつて、枯死寸前になっておるにもかかわらず、三年前から地元の要望があるにもかかわらず、宮を左右にして放置されているということでございますが、そのやらない、対策をしない理由を、ひとつお聞かせを願ひたいと思ひるのでございます。

十年も二十年もかかるような大切な樹木が放置されておる。枯死寸前になっておるといふような点について、これをなんとか食いとめていくこそ、緑化運動の大きな一つのつながりではなからうかと私は考えるが、そういうものは考へてない、苗さえ植えれば緑化運動だとお考へなのかどうか。

その他、道路あるいは建築物等の補修等につきましても、早くこれを修理すね、やるということによつて僅少の予算ですむことが、予算がないからなにかいうことで、これを遅らしておつて、ばく大な費用をかけてもなかなかできないというような点が、多々あると考へますが、そういう点についての敏速に処置をするように。

もちろん、市長としては、予算というものをながめて、やりたいことはたくさんあるけれども、そうあなたのおつしやるようにできないのが現状ですと、お答へになると思ひますけれども、旧来の理事者は、非常に熱心にやろうとしておるけれども、予算ではねられてできないということをや、よく聞きます。少なくとも、政治であります。政治は生きて、毎日動いておるのでありまして、それに対して市民も要望しておる。大四日市の経済規模から申し上げますならば、少々の借金をしても、早くこれを処置するというのが、将来、どれだけの利益になるかということをお考へくださるならば、予算外義務負担に何億という金をお出しになるわけでございますので、少々その金の融通はできるんではなからうかと思ひます。そういう点については、ひとつ敏速に行なつていただきたいと思ひます。

その点について、市長から、いやこういうわけでそういうことができないのだ、というようなことがございましたら、お知らせ願ひたい。

たとえば、土木の予算においても相当削っておられる。これに対して、三十九年度の土木事業は相当見送らざるをえないというような状態もございます。まあ、こういう点について、ひとつはつきりとお答えを願いたいと思います。次に、建設業者に対しましての問題でございますが、いままで、この等級というものがなかったために、指名で行なわれておる業者の落札のいろいろの工事に対して、大きい、小さいという会社がございます。そういう点において、非常ににがい経験をしておるということをお耳しておるわけでありますが、こういうような点について、ひとつ具体的に内容をば調査していただいて、それに見合う工事の指名をされるということ。いわゆる市民の納得のいく方法をひとつ講じてもらったらどうか。こういう点について、御研究になっておるのか、あるいは、業者間と話し合いをされていろいろやっておられるのかどうか。

どうか、旧来のろく習をひとつ破って、新しい考え方で、大四日市建設のために、業者あるいは理事者も一体となつて、四日市の将来と発展のために、ひとつ考えていくのだ、科学的な計画をひとつ立ててやるのだというお考えがあるのかどうか。やはりどうしてもぐあいが悪いのか。県とか国は、こういう点についてはつきりと等級をきめてやってみえるそうですが、そういう点についての御見解を發表していただきたい。

以上でございます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 前單明瞭にお答え申し上げます。

新潟の災害に鑑みまして、危険地帯の市民の避難に対する訓練を、その他災害に関する備え方がありますが、これは、四日市には災害に対する対応策ができております。もうすでにちゃんと印刷物になって、こういう場合はこうするあすということになっておるのでありますが、しかし、これは、もちろんこの中に、市の区域内に大規模な地

震、火災、爆発、水難等が発生したときにはどうするか、ちゃんと組織計画ができておるのでございます。

ただ、これを日々訓練に移しておるかということでございますが、これは、大がかりなことはやったことはいりません。ただ、消防のほうでいろいろやったことがございますが、その例は、またあとで消防のほうで答えすると思います。

しかし、こんどの新潟の例に鑑みますと、仰せのとおり、新潟の市民の方々が非常に用意周到であつて、民家から一件も火災が出なかったということは、まことに感服すべきことであります。われわれも、この模範に対しましてよく調査をいたしまして、万全を期したいと、こう考えております。

地盤沈下のこの調査があるかないか。これは、御承知のとおり、りっぱな調査機関を政府と県と市でもっておりまして、やっておるんですが、まだなんにも発表の域に達しておりません。おそらく中間発表もまだ県からはいまだしておけませんし、また、調査の御連中からもございますが、これは、もう現に調査中でございますが、なお、係からも御報告申し上げますが、お平元に差し上げるまでにいたっておりません。

それから、工業用水の現在でございますが、才三期工業用水が十二万五千トン、これはもういま使っております。いまもう一本パイプをいけて、十二万五千トンをやっておる。これは、まあ近くパイプが通りますして、水が通る。これもまあ二十五万トンから三十万トンに近い工業用水がくると。

それから、その前にあります四万五千トンの町屋川からきとるやつ、これはもう使い果しておると。

そのほかに、県といたしましては、町屋川からだいたい十八万五千トンくらいの工業用水を取りたいと。従つて、水利権の買収その他のことについていろいろ御奔走願つておりますが、これは、将来の四日市、川越、桑名あるいは鈴鹿、津方面の工業用水としての、相当な企畫の御準備だと思ひます。

そのほかに、これはまだ売約済になっておりません。しかし、このほかに三重工業用水、三重用水というのがございまして、これにも工業用水を加えようとしておりますし、市は、農業用水ばかりでなしに、工業用水も上水もこれから分けてくれろ、こういつて、いま調査を、ようやく国のほうでもつけようかどうかという段取になって、まあつけてくれることになっておるのでございますが、四日市周辺の発展に伴いまして、こういう手が県において打たれております。工業用水に関しましては、あけて県の御支援を受けておることでございます。従いまして、いま申し上げるような数量が四日市に供給されると。

このほかに、いつも新聞をにぎわしておりますところの木曾、揖斐、三川の水利の問題でございますが、これも、いろいろの過程がございましたが、要するに、こんどの案は、木曾川の中間のところから、農業用水として相当のトン数を割愛せしめるように、県のほうで御助力を願いまして、その挙行を認めたということでございますが、いずれこれは、こんどの河川のほうの改良に伴いまして、大きくクローズアップしてくると思います。

で、こういうようなことを考えますならば、将来、いかように北勢地域に産業がば一興いたしましたとしても、工業用水に関しては事を欠かぬと思うのでございます。

津田博士の御恩に報いるために、われわれは、前々からりっぱな胸像でもおつくり申し上げてお建て申し上げたいということを提案いたしております。それと、また一方におきましては、何か四日市市の病院に対して特定な施設ができたときに、それを、いわゆる津田センターとしてつくり上げて、できれば未亡人の方にも名誉会長をしていたいて、そのお徳をたたえ、御恩に報いたいと、こう考えておる次第でございます。

事務の簡素化、これは、市民といたしましても御忠告のとおり努力をさしていただきまして、御期待に沿うようにいたしたいと思っております。

その他のことにつきましては、関係の者からお答えさしていただきたいと存じます。

どうぞ、よろしく。

#### 〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） 老朽校舎に対する対策について、申し上げます。

現在、私たちの実施します十カ年計画で、四千点代の改築を実施しております。文部省の老朽危険校舎と称するのは、五千点以下でございます。補助は、そのうち四千五百点以下に補助を出しております。その点からいきますと、四千点台でございますので、もうすれすれの点まで私たちの改築が進んでおることでございます。

従いまして、台風については、実験済みでございますけれども、地震については、まだはつきりした私たちの経験がございません。しかし、この間の新潟の地震から考えまして、小・中学校は、倒壊は一つもありません。幼稚園で危険校舎が一つ倒壊していますが、その結果から考えまして、いまのところいいんじゃないかというふうに考えております。しかし、なおこの上、四千点台のものを早く解消するように努力していきたいと思っております。

それから、学校における避難訓練は実施しておりますが、このたびの新潟の災害に鑑みまして、避難訓練の徹底をしていきたいと思います。

#### 〔消防長（竹内鉄雄君）登壇〕

○消防長（竹内鉄雄君） 災害時の避難訓練でございますが、これは、従来から学校、病院、幼稚園それから、その他の特殊建造物の一部において実施をいたしておりますが、ただ、反復実施しなければ、あるいは普遍的にやらなければ効果がないと、新潟地震の実証的教訓をえましたので、こんごそのように力をいたしたい。

それから、一般市民の災害時の規律ある行動の訓練でございますが、これは、戦時中に行ないましたような、あ

いった訓練はできませんので、市民の啓もう運動という形でやってまいりたいというふうに計画をいたしております

〔水道局技術部長（山本文雄君）登壇〕

○水道局技術部長（山本文雄君） 御質問の才三点と才四点につきまして、市長からお話ございましたが、それに補足説明をさせていただきます。

才三点の地盤沈下対策の調査につきましては、三十九年度でこの調査が終るわけでございます。実は、この対策調査につきましては事務局ではございませんで、私は、地元のほうの県・市から一名ずつ出ております専門委員でございますし、また、石油コンビナート関係、あるいは繊維関係からそれぞれ専門委員が一名ずつ出ておりますし、また東京のほうの、いわゆる学識経験者、大学の先生あるいはその他の博士の方がおられるわけでございますが、この調査は、御承知のように三千二百万円で、目下ボーリングを進めまして、それらの地盤の隆起あるいは沈下、そういったものの調査をやっております。

また、三十七年、三十八年と各二月に、もとの固定しました地盤から高低測量をいたしまして、その結果が、地理調査所のほうで調査した結果が出ておるわけでございます。これによりますと、三十七年よりも三十八年あるいは三十九年のことしの二月の調査結果がきておりますが、非常に沈下量が少なくなっております。これは、原因が、地下水の規制を強化したことよつての原因かどうかということ、こんご専門委員の手で調査をいたしましてきめるわけでございますが、いずれにしましても、地下水をうんと汲み上げておるところが、かえつて昨年よりも隆起しておる。そして、あまり汲んでいないところで、つまり、桑名あるいは木曾崎、その方面が非常に下つておると、こういう事例も出ております。

なお、ボーリングを深さ三百メートルほど終りましたこの分につきましても、いろいろ資料が出ておりますが、ま

だ、これは非常にデリケートな問題でございますし、各先生の御意向もございしますので、目下、先ほど市長が申されましたように、いろいろそれらのデータを集めつつあると、こういう状況でございます。

それから、才四点の工業用水の件でございますが、才一期が御承知のように五万トン、才二期が四万五千トン、才三期が二十五万トン、これももう水がきております。従いまして、計三十四万五千トンでございますが、昨年の五月から十一月まで、市内の規制を受けました区域内におきます各工場の深井戸の日量の汲み上げ量を調査いたしておりますが、もちろん、ほとんど冷却用水でございますので、八月にいちばんよく使っておりますが、一日に十七万五千トン使っております。従いまして、これらの水量を合しますと、一日に四日市は、現在、五十二万トンの工業用水を使つておることでございます。

で、先ほど市長からお話ございました、いわゆる代替工業用水としましては、町屋川からもつてきます分が、ただいまの深井戸の十七万五千トンに匹敵します約十八万トンの代替工業用水道でございます。で、これが三カ年継続事業ということで、本年、十二億ばかりの仕事を、千代田ダムその他の建設をやることになつておるわけでありまして、将来の工業用水の需要量につきましては、昭和五十年までにさらに百万トンの工業用水がいるということでございす。従いまして、三取用水から、先ほどお話のありました分が、この三重用水事業が正規に機能を発揮しましたならば、ここから十五万トンの工業用水を取りますので、掛斐、長良、木曾三川からもつてきます分は、八十五万トン程度になるんじゃないでしょうか。

それで、パーセンテージを示せと、こういうことでございしますので、だいたい見ますと、工業用水としましては、三分の一程度の水量確保ができた、こういうことでございます。

〔土木部長（城井義夫君）登壇〕

○土木部長（城井義夫君） 笹川堤の桜のテングス病でございますが、この点につきまして、私、本月初めてお伺いいたしました、まことに不注意で申しわけございません。

この堤は、土木事務所管轄でございますして、土木事務所ともよく連絡をとり、土木部の都市計画課において早急に措置をさしたい、こういうふうに思います。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 質問第四点の、建築業者の格付等について、お答え申し上げます。

まず、地方自治法におきまして、事業等を行なう場合に、請負に出す場合、経営規模、従業員数、資本の額等を勘案して、資格を定めることができると、こういうことになっております。

建設省及び県におかれましては、建設業法に基づきまして、A、B、C、Dというように格付を、各業者別に行なっていることも承知いたしております。

そこで、本市といたしましては、以上申し上げました趣旨と、建設省及び県が行なっております審査の基準に従いまして、各業者別の点数をはじき出しております。そして、その点数は、各業者とも承知いたしております。

ただ、それについて、市は一般的に公費はいたしておりません。従って、多額に上る、現在、区分はどうしているかといいますと、百万円を目途といたしまして、百万円を上るような事業につきましては、これに相当する点数の業者を指名いたしまして、その中で指名競争入札を行なっているのが実情でございます。

また、最近、庁内におきまして、助役のもとに土木、建設、産業各部長及び土木、港湾、都市計画、下水道、建築耕地課長等、建設関係部課長をもってする請負工事指名審査会というものを設けまして、まず、指名申請があった場合の指名資格の査定、さらに具体的に工事請負に出す場合に、先ほど申し上げた点数による適当な業者を選定する業

務を行なうことといたしております。

はつきりと、A、B、C、Dというような格付を行なってはどうか、ということ、私どもただいま検討中でございます。市の建設業者に対する育成、指導というような面、さらに、その他の要素等も含めまして、はつきりとした格付を行なうべきかどうかということを検討中でございますが、内容的には、すでに各業者別の点数によりまして実行いたしておるということを御承知いただきたいと思います。

〔北村与市君登壇〕

○北村与市君 それぞれ簡明にお答え願ったのですが、市長のほうから、ちょっと落されておることは、簡単すぎたのでしうけれどね、あれは。万全を期してやります、というおことばでございますが、これはもう一般的に使われることばで、ただ、私が申し上げましたのは、予算の問題で、どここの知事でもなんでも三十万出しや二十万に削ってくる。百万出しやもう七十万に削ってくるというようなことなんで、削るということについては非常に考えておられるのですが、そのためにいろんな事業が遅滞して、そのために将来に大きな禍根を残すというようなこともございますので、とくに、土木事業なんかにつきましては、非常に市民が、道路等については要望しているわけです。そういう点について、市長としては、こんごそういうことについてはよく考えてやろう、というようにおっしゃったのか、そういう点、私が、ちょっと聞き落したのか、説明がなかったのか、これは、まあ当事者としてみれば、なかなか予算というのは、あらゆるところから要求が出ますので、そう私たちが考えているようなわけにはいかないと思いますが、その点を市長にお答え願いたかったわけでありませう。

それから、訓練の問題につきましては、消防長のほうからも話がございましたが、私の申し上げておるのは、災害は忘れたときにやってくるということで、あまりそういうことを考えてないときにくるものでございませう。

で、ときどき学校とかそういう団体とかいうところでおやりになったということは聞いたりしますが、少なくとも、各町内会に對しまして、市としてはこういう計画があるから、あなたのほうの地区ではこういうことと、こういうことを心がけ、万一の場合はどこそこに避難をしてくださいというようなことが、いわれておるかどうかということですね。そういうことをつねに、あつてはならないことですけれども、やつておるといふようなことが、いざというときにどれだけ助けになるかということ、新潟の教訓から、私はお尋ねしたわけでありまして、そういうことについては、すでにいろいろと計画をなされておると、それはペーパー・プランでございまして、実際に町内会あるいは個々に對して周知徹底され、こういうときにはこうだといふような心がまえといふものが、少なくとも危険地帯に對しては、ひとつおやりになっていただきたいと思ひます。

これに對して、もし御答弁くださらばこれはけっこうですが、私としてはそういうようなこまかいところまで氣を使つていただきたいということでございますので、御要望申し上げます。

工業用水の問題については、技術部長から、現在のところに對しては、既設工場に對して三分の一の何はできておるといふことでございますが、やはり井戸を掘るな掘るなといふことであるならば、その工業用水の確保ということをしないうで、工場誘致も、あるいは既設工場に對する市としての役目といひますか、そういうものも果されませんか、これは、ひとつ工場の現在の使用量といふものをにらみ合せて、技術的にもあるいは政治的にも、ひとつ早急に工業用水の確保といふこと、いま木曾川、揖斐も出ましたし、町屋川も出ましたが、とにかくそういうことになっておるだけでなく、そういうことによつて何年にはどのようになつていくのだといふようなことについて、もしお示し願へばと考へておつたわけでございます。

老朽校舍の問題につきましては、私も十年計画を立てた一人でございまして、いろいろいまの教育長とも折衝いた

したわけでございますが、まあだいぶよくなつたようでございますが、震度五といふような地震に對しましては、相當の被害があらうと思ひますので、現在も改築をしなきゃならぬが、来年度にそれがなつてゐるという場合におきましては、ひとつ補強をやつていただければと考へます。

建築業者に對しましての指名の問題につきましては、いま何か御答弁がありましたか、そういう国・県のようなひとつ考へ方をしてやつていかれるかどうかといふことをお尋ねしたので、現在、こういうようにやつておるといふことだけでは、私、何かわかりませんので、そういうようにやるのか、現在のままで、だいたいそれに見合つた方途がとられるといふのか、その点をひとつお話を願ひたいと思ひますのでございます。

それから、地盤沈下の問題につきましては、お話をございましたが、これは、私の聞き間違ひかしりませんが三十八年度の三月ですか、四月には発表できるといふ御答弁があつたと思ひますが、それが、三十九年度中になれば、これが発表できるんだといふような補足説明があつたように聞いておる。そこにずれがありますが、なぜそういうふうになつたのかといふこと。

それから、最後に申し上げたいのは、議會がございまして、そして、いまそこで一生懸命記録を書いておられるわけです。こういうのが議事録に残つておるのですから、その議事録といふものについて、理事者の人はよく目を通して、ある議會ではこういう答弁をしたから、これはこういうように実行していかなければならないといふことを、再度よく御検討を願ひたいと思ひます。

要するに、うるさい議員がたくさんいて、いろんなことをいうから、これを答弁して、やれすんだ、ほつとしたといふようなことでは困るのでございまして、どうか、議事録を十分参照されまして、自分のいふたことに對する実行を必らずやつて、次の議會で質問した場合に、何かちぐはぐの答弁をしなければならぬといふようなことのないよ

うに、そのために高い金を使って謄事録を作成しておりますので、そういう点を十分御注意を願いたいと思います。  
以上、申し上げました点につきまして、御要望を申し上げ、さらに二点の質問があったと思いますが、御答弁くださらばけっこうだと思いますし、御答弁の必要がないというのならば、また再質問が出るとは思いますから、その点、ひとつよろしく願います。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 建設業者に対する格付はどうかという御質問に對しまして、私は、内容的には点数制をとっておるわけである、すでに、実質的に同じことをやっているものであるという御説明を申し上げたのであります。

そういうことならば、はっきりとランクづけをしてはどうかということを、私自身が審査会に聞いておりました、それについては市の特殊性もあるから、十分検討してみましよう、いましつあるところであると御回答申し上げますのでありますから、御承知願いたいと思います。

〔水道局技術部長（山本文雄君）登壇〕

○水道局技術部長（山本文雄君） 再度の御質問、恐れ入ります。

工業用水の将来計画、その実現性がどうか、こういうことをもう少し詳しく説明せよ、こういうことでございます。

先ほどちよつと申し上げましたように、地盤沈下対策としましての代替工業用水道としまして、町屋川からもってきます分は、三十八年度から三十九年度計画事業で十八万トン、四十二億四ですでに着工しておるわけでございまして、先ほどもちよつと申し上げましたように、三十九年度は、十二億五千万円程度でございします。昨年度は、おおむね用地買収その他に事業費がかかったわけでございしますが、本年度がいわゆる最盛期ということで、千代田のダムその他

の建設を行なう予定でございしますが、いまのところ、見通しとしまして三十九年ということになっておりますが、あるいは一年延びまして四十年ということになるかもしれませんが、いまの段階では四十年度末、つまり四十一年の三月までにはこの代替工業用水道が完成すると、こういう予定でございします。

なお、その次に、三重用水でございしますが、三重用水の実現性というものも、まだ疑問な点もございしますけれども一応、実施をやる段階でございしますので、そういった國のほうで予算がつけましたので、これが実現されるとすれば十五万トンの水は、だいたい四十四年から五年のときに半分くらい出まして、四十七年ごろに全量出るのじやなからうかと、こういうふうなことで、通産省側も昨年からことしにかけていろいろな調査をおやりになっております。

それから、次に将来の木曾三川からもってきます大きな工業用水道の計画でございしますが、例の河口ダムにつきましては、まだ技術的にも大きな問題がございします。また、そのほか水利権問題が非常に難航しておりますので、それよりも、すでに発表になっております濃尾水二用水と申しまして、木曾川から大山の下流のところからもってくる農業用水、これに、先般、三県知事の話し合いがございまして、三重県側に一秒間に十トン、つまり日量にいたしまして八万六千四百トンの水を取る取水権を三重権が獲得いたしました。

これから、考え方といたしましては、そのうち、十トンのうち一トンが上水道であって、あとの九トンが工業用水つまり、九トンと申しますと約八十万トンでございしますが、それが来るわけでございしますが、これは、案外早く実現性があるということでございます。

次に、地盤沈下につきましては、先ほど申し上げたとおりでございしますが、これは、三十七年度の終りごろからこの問題が具体化しましたので、三十八年度から三十九年度いっぱいであるんだと、こういうことでございします。

従いまして、その結果が出るのが、四十年の四月ごろになる予定でございしますが、これとともに、新潟の地盤沈下

は、全国的に有名なものでございますけれども、学者グループにおきましていろいろ説がございまして、その説も八つほどございまして、最終的な結論というものがいまだにえられていないと、こういうことでございます。

まあ、いずれにいたしましても、毎年二月、地理調査院で高低測量をやりました結果を、遂次にらみ合せつつ、ボーリングをやりましたそれらのものと資料を合し、さらに、たとえば、とくに関係のあります内部川流域の深部地下水あるいは比較的地表に近い、浅いところの伏流水あるいは地下水、こういったものの調査も、いろんな観点からやっております。また、表層水の調査もやっております。

それで、この結果が出るのは、一応、四十年の四月以降だと、こういう現時点でございます。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後三時四十五分休憩

午後四時四分再開

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続きまして、会議を開きます。

北村議員。

〔北村与市君登壇〕

○北村与市君 二日間にわたる一般質問で、相当時間を経過いたしておりますし、大意を承わったわけでございますが、あまり長くなると、議員諸公もお疲れでございますので、重箱のすみをほせるような追及はもう避けたいと思いますが、ただ、最後に御要望を申し上げたいと思います。

で、市長のほうからは、だいたい大まかなところで、事務の敏速化というようなことについては努力をして、疎漏

のないようにしたい、というようなお答えがございましたが、個々の内容について、これはこうする、ああするというような御答弁がなかったわけでございますけれども、私といたしましては、賢明な市長でございますので、私の申し上げていることは、つねづね御承知だと思いますので、これ以上申し上げませんが、どうか、庁内、庁外のことに限らず、いわゆる事務の敏速化と、ハンコハンコで攻められて、そのために事務が非常に遅滞するというようなことのないように、少なくとも、市民を中心として運営をしていただきたいと思っています。

さらに、地盤沈下のデータにつきましても、二年間のデータができておるにもかかわらず発表ができない、あるいはすることを控えているということについて、休憩中には、私に、学者としても、さらに沈没せずに、かえって隆起しているといったような状態が出ているので自信がないと。自信がないから発表できないのだ、というように承わっておりますので、そういうこともあるのかというように考えますが、えてして、市民に公開することが何か具合が悪いというようなことが、もしあるとするならば、これは非常になかましいことでございますので、こんごいかなることがらについても、ガラス張りで市民に知らしめ、納得のいく政治、そして、市民が信頼できる一つの行政機関であるということをお示し願いたいと思う次第であります。

さらに、笹川堤の桜の問題についても、地元からの再三の要求があつたにもかかわらず、そんなことを知らなかった、早急に善処いたします、というような御答弁があつたんですが、どこにそんな行き違いがあつたのか、私としては非常に疑問視するわけですが、今日、ただいまの時点について、いろいろ地元の方は不満であつたと思いますが、至急、この問題についての善処をひとつしていただきたいと思います。

いずれにいたしましても、この大四日市が発展するために、各議員諸公がそれぞれ議會を通じて御要望申し上げ、御要請申し上げておる事項というものは、市民というものが、市長のいわれた三大原則に基づいて、安心して暮せる

よき四日市ということを切望するあまりの声と思います。

どうか、そういう点を理事者諸公は十分汲み取って、こんごの市政のために全力をあげてやっていただくことを要望いたします。質問を打ち切りしたいと思います。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 一言、地盤沈下の点につきまして、私、弁明いたしたいと思います。

これは決して秘密にしているというような性格を持っておるわけじゃございません。すでに国土地理院に對しまして委嘱をし、昭和三十七年以来、北勢鈴鹿まで、七十点の定点をとりまして、一点を水準点といたしまして調査をしていただいております。

これについて、今日、平均値というものは発表されておりますが、たとえば、昭和三十六年から七年までのあたりは、三・三センチメートル、次の三十八年の一年では、二・七センチメートル、それが、ことしの二月におきましては、さらに減りまして、一・四センチメートル。これを、新潟は六十センチメートルというようなひどい数字が示しておるわけでございます。それと比べれば、これは比較することもできないような小さい数値でございます。

しかし、平均値をここで発表いたしましたしても、全く意味はないのでございまして、確定点についてあらゆる点を総合し、疑問を全部なくしてでないと、学者はとうてい発表しきりません。私は、たまたましろうとでありますから、こういうことが由せるわけでございします。

たとえば、河原田地区においては、逆に下らずに上っておる数字が出ております。このこと、先ほど山本部長から話があったように、地盤沈下と地下水汲み上げという関係は、學問的にまだ統一見解がない、非常に疑問なものがある。そういうことではありますが、厳密に、尼崎の例によりますと、年々ばく大な地下水を汲み上げていたものが、

終戦と同時に約二年間、汲み上げがとまっております。その間の地盤沈下の率が非常に少なくなっておる。やはり関係があるんじゃないかというようなことから、国においても危険と思われるところに、地下水汲み上げの規制地域を設けまして、四日市もその指定を受けたこと、御承知のとおりであります。四日市におきましては、先ほど地下水汲み上げ、普通は十二万トンB量、夏の最もひどいときで十七万トンあまり、これを町屋川のだいたい工業用水でまかなって、そういうことのないようにしより、すでに実行に着手していることも御承知のとおりでございまして、数字を、學問的にはまだ発表する自信がないということでございます。しろうとの私は、このように一応出たものだけは皆さんに申し上げるわけでございますが、これは、別に學問的に私が責任を負えるわけの数字じゃございません。平均値、以上のとおりでございますから、その点、もし誤解がございましてはと思ひまして、念のために御説明申し上げます。

○議長（錦安吉君） 以上で、一般質問は全部終了いたしました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才二、議案才百三号昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才二号）ないし日程才六、議案才百七号四日市市非常勤消防団員にかかる退職報償金の支給に関する条例の制定について、の五件を一括議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。

御質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

別段、御質疑ありませんので、質疑を打ち切り、委員会の付託、並びに討論を省略して、議案の採決を行ないたいと思ひますが、御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。

議案才百三号ないし議案才百七号の五議案を、一括採決いたします。

本件は、原案のとおり可決いたしましたして、御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案才百三号昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才二号）ないし議案才百七号四日市市非常勤消防団員にかかる退職報償金の支給に関する条例の制定についての五議案は、原案どおり可決されました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才七、議案才百八号町の区域及び名称の変更について、並びに日程才八、議案才百九号住居表示整備事業を実施する当市における市街地の区域及び当該区域における住居表示の方法について、の二議案を一括議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。

質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑なしと認めます。

本件については、委員会付託並びに討論を省略して議案の採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。

議案才百八号並びに議案才百九号の二議案を、一括採決いたします。

本件は、原案のとおり可決いたしましたして、御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案才百八号町の区域及び名称の変更について、並びに議案才百九号住居表示整備事業を実施する当市における市街地の区域及び当該区域における住居表示の方法についての二議案は、原案のとおり可決されました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才九、議案才百十号土地の取得についてを議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。

質疑ありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑なしと認めます。

おはかりいたします。本件については、委員会の付託並びに討論を省略して、議案の採決を行ないたいと思います  
が、これに御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。

議案才百十号の採決を行ないます。

本件は、原案のとおり可決いたしましたして、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案百十号土地の取得については、原案のとおり可決されました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才十、議案百十一号市道路線認定について、ないし日程才十二、議案百十三号市道路線の一部廃止についての三議案を、一括議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。

質疑ありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑なしと認めます。

おはかりいたします。これをもって質疑を終結いたします。

本件につきましては、委員会の付託並びに討論を省略し、議案の採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。

議案百十一号ないし議案百十三号の三議案を、一括採決いたします。

本件は、原案のとおり可決いたしましたして、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案百十一号市道路線認定について、ないし議案百十三

号市道路線一部廃止についての三議案は、原案のとおり可決されました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才十三、議案百十五号昭和三十九年六月十五日に在職する職員に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について、並びに日程才十四、議案百十六号財産の取得及び処分に関する契約の締結について、の二議案を一括議題といたします。

提案理田の説明を求めます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま御上程の議案について、御説明申し上げます。

議案百十五号は、昭和三十九年六月十五日に在職する職員に支給する期末手当の特別措置についての条例案であります。期末手当については、現在の条例の定めるところによって基本給月額の一・三カ月分を支給することにしてありますが、そのほかに基本給料の〇・一カ月分一律四千円を加えた額、ただし、その額が七千五百円に満たないものについては、七千五百円を期末手当の増額分として、在職期間に応じ、期末手当の率に準じて支給しようとするものであります。

次に、議案百十六号は、去る十八日の市議会全員協議会に御報告申し上げ、御了承をいただきましたように、本市の庁舎として使用するため旧四日市税務署庁舎敷地及び東海財務局津財務部四日市出張所庁舎等を国から買い入れ市が西浦地区内に建設した建物、土地を新四日市税務署庁舎及び敷地として国に売り払うため契約を締結しようとするものであります。

なお、取得及び処分金の決裁方法は、買い入れ代金と売り払い代金と相殺し、買い入れ代金から売り払い代金を差

し引いた額の二割を即納金として国に支払い、買い受ける物件を担保にして残額を十年の年賦払いにしようとするものであります。

なにとぞよろしく御審議のうえ、御決議くださるようお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 御質疑がありましたら、御発言願います。

藤谷議員。

〔藤谷祐一君登壇〕

○藤谷祐一君 議案百十六号について、お尋ねをいたします。

議案百十六号は、過般の全員協議会におきまして、市長から説明があり、税務署の土地の取得と買いかえであります。この間の事情につきましては、説明を了承し、異議ございませんが、税務署とのこのご使用法につきまして聞くとによりますと、一部国民金融公庫の四日市支店に貸しつけるということも聞いておりますが、あれは、四日市の庁舎が狭くて、相当高価な金額を支払って取得したのであります。

もちろん、国民金融公庫ということにつきましては、中小企業者の熱望でもあり、また、四日市は利用者も非常に多い。津までいちいち行かにやならぬというような不便もございましたので、そういう熱望から、市があげて誘致に走り、ようやく獲得したことでございますので、反対はいたしません、適当な場所がなかったのか。

しかも、せっかく取得したものを、長期に貸しつけたのでは、市の活動に非常に困るじやないかということも考えますので、どういう条件でこれを貸しつけたか。また、期間はどれくらいであるか、ということにつきまして、もしも、それが事実であるとすれば、御説明を願いたいと思います。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） お答えいたします。

国民金融公庫を四日市へ誘致するということにつきましては、中小企業行政あるいは一般庶民行政の最も大切な事項として、議会とともに御奔走いただきまして、東京へも御陳情もいただきまして、全国に例のないほど順位を繰り上げていただきまして、本年度、本市に開設されるということに立ちいたったこと、まことに感謝もし、皆さんともにお喜びしているわけでございます。

ところで、国民金融公庫は、適当な事務所、さらに職員の宿舍まで、ぜひともごあつせん願いたいというのが、初めからの話でございます。私もといたしましては、市中一生懸命になりまして、適当な個所を探したわけであります。これなら、御承知のように単に四日市だけの営業所でなく、桑名、鈴鹿、亀山いわゆる北勢を全部責任を負うて処理する支店になるわけでございます。できるだけ駅からそう不便でないところ、こういう前提のもとに探し回ったのでございますが、先方の希望が、四日市に開設の場合は、現在の津よりもずっと繁忙をきわめるということは、予想されることであり、職員の数もたちまち四十名になり、さらにこれを越えるであろう。こういうことから、少なくとも百坪くらいの事務所ということでございます。残念ながらそういう適当な事務所が見つかりません。やむなく旧税務署庁舎の一部を提供せざるをえない立場になったわけであります。

本年度開設の、これはよそのことをいって恐縮でございますが、一ノ関、舞鶴、守口等も同様の条件がつけられているようでございます。一ノ関では、市の公会堂がちょうど適当な面積だそうでございます。提供されております舞鶴も守口も市の施設が提供されているということでございますので、私もといたしましても、これは必要に迫られて、利用計画をもっている旧税務署跡であるので、長い間は困る。契約としては一年ということにしたらわななきや困る。一年以内といえども、適当なものを業者においてこんごとも探すということはもちろんのこと、適当なもの

があれば、直ちにそのほうに移転をする、こういう申し入れをいたしております。

先方としては、何もかもこれはほとんど国が予算をきめるようでございますして、大蔵省の査定が、いままでの例によりますと、本館を建設するのに支店開設の四年ないし五年で建設せられておる。津が最近できたのでございますがやはり五年目だそうでございます。そういう実例からいたしまして、一年でさあ契約期間がとけた、出ていけという追い出されるのは困る。当面、一年というところでおらしていただく。やむをえないときにはまた御考慮をお願いするという申し出はございます。市の実情も考えていただいて、一年以内でも適当なものがあればこれに移っていくとできるだけひとつ、これまた大蔵省のほうの予算を繰り上げて建築ができるように努力もしていただき、私どももさらに大蔵省にも陳情する、こういう話し合いになっておりますから、御承知願いたいと思います。

#### 〔藤谷祐一君登壇〕

○藤谷祐一君 議案に出てないことでありますので、あまりに深くはいえませんが、まあこの問題は、いまいわれましたように、市をあげて、また中小企業者あげて勝敗をした問題でございますので、こういう刺激を与えることばはつづしまねばなりません、しかし、いまいわれましたように、暫定的に一年であると、なければまた協議するということでございます、だんだん延びていきます。

要は、将来の政治力であると思います。それは、国の財務局または大蔵省の仕事、所管でございますして、国のほうに陳情もし、また運動もして、あげて早く適当な場所に建築をしてもらおうと。そして、そこへ移ってもらうというのとを、早く運動してきめてもらいたいと思います。

このままいきますと、あるいはなかなか建ちもせず、また建物もできないので、四年、五年とひっぱられますと、せっかく市が庁舎が狭くて、しかも獲得した建物なり敷地が、そのままそこに占有せられるという形になりますので

できるだけ早くこの問題を片づけていただく。そういうことについては、さらに大きな政治力を発揮して、国のほうにも当たって解決してもらいたいと思います。

私は、これを強く要望して、今日の問題につきましては、議案に出ておりませんから、参考にお聞きした程度といえます。

○議長（錦安吉君） 他に、御質疑はありませんか。

これをもって、質疑を終結いたします。

おはかりいたします。本件につきましては、委員会付託並びに討論を省略し、議案の採決を行ないたいと思いが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。

議案才百十五号並びに議案才百十六号の二議案を一括採決いたします。

本件は、原案のとおり可決いたしましたして、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案才百十五号昭和三十九年六月十五日に在職する職員に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について、並びに議案才百十六号財産の取得及び処分に関する契約の締結についての二議案は、原案のとおり可決されました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才十五、発議才六号沖縄の祖国日本への復帰に関する決議についてを議題といたし

ます。

提出者の御説明を願います。

藤谷議員。

〔藤谷祐一君登壇〕

○藤谷祐一君 発議才六号について、提案説明をいたします。

私たちの同胞、沖縄九十万人の人々は、祖国日本への復帰を悲願として、いくたの懊悩と困難にほう着しながらも、ひたすらにその彼岸への到達に向かって努力を重ねているのでございます。

御承知のごとく沖縄は、才二次大戦の敗戦による軍事占領七年、対日平和条約によって祖国日本から離れ、アメリカの支配下におかれることすでに十二年、みずからの意思に反して異民族支配下におかれ、日本国民でありながら自国の憲法にもまもられず、渡航の自由はおろか、自国の貨幣の使用すら許されていない現状であります。

私たちは、同一民族として、沖縄九十万住民の苦衷と悲願を思い、一日も早く祖国日本への復帰が実現されるよう提案いたしました次第でございます。

どうかよろしく御賛同のほど、お願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 御質疑、御意見がありましたら、御発言願います。（「賛成」、「異議なし」と呼ぶ者あり）

御質疑もありませんので、異議なしと認めます。

直ちに採決いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。

発議才六号を採決いたします。

本件は、原案のとおり可決いたしましたして、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、発議才六号沖縄の祖国日本への復帰に関する決議については原案のとおり可決されました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才十六、委員会報告才五号を議題といたします。

御質疑、御意見がありましたら、御発言願います。（「なし」と呼ぶ者あり）

別段、御質疑、御意見ありませんので、本件を委員長の報告どおり決定いたしましたして、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、委員会報告才五号は、委員長の報告どおり決定いたしました。

報告番号	請願番号	件	名	委員会	採否
五	請願才一五号	勤労者の生活を守るための請願について		総務	採択

○議長（錦安吉君） なお、総務、教育民生、産業経済、建設の各委員長から、目下委員会において審査中の案件について、お手元に配布いたしました申入書のとおりに、閉会中の継続審査の申し入れがあります。

おはかりいたします。各常任委員長からの申し入れのとおり、閉会中の継続審査に付することにいたしましたして、御

異議ありませんか。

「「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、各委員長からの申し入れどおり、閉会中の継続審査に付することに決定いたしました。

#### 閉会中継続審査申出書

本委員会は、審査中の事件について左記により閉会中もお継続審査を要するものと決定したから、会議規則第六十八条の規定により申し出ます。

#### 記

#### 一、事件

- 請願第一〇号 鈴鹿高等学校教育助成金について
- 陳情第一五号 退隠料及び遺族扶助料の改訂について
- 陳情第一九号 浜田地区内国道一号線に通学陸橋架設について
- 陳情第二四号 西町地内国道一号線に歩道橋設置について

#### 二、理由

調査研究のため

昭和三十九年六月二十三日

総務委員長 北村 与市

四日市市議会議長 錦 安 吉 殿

#### 閉会中継続審査申出書

本委員会は、審査中の事件について左記により閉会中もお継続審査を要するものと決定したから、会議規則第六十八条の規定により申し出ます。

#### 記

#### 一、事件

- 請願第一一号 四日市市内から一万円以下の労働者をなくすることについて
- 陳情第一二号 青少年の野外活動施設設置にともなう助成について
- 陳情第一五号 福祉センターの建設並びに市条例による障害者福祉年金の支給並びに身体障害者団体連合会に対し市助成金の増額について
- 陳情第一六号 富田一色海岸の災害住宅早期処理並びにこれが児童遊園地としての転用について
- 陳情第一八号 塩浜地区における騒音等の防止対策について
- 陳情第二〇号 精神薄弱者福祉センター建設について
- 陳情第二一号 高花平小学校第二期工事促進について
- 陳情第二七号 精神薄弱児収容施設建設のための敷地確保について

#### 二、理由

調査研究のため

昭和三十九年六月二十三日

四日市市議會議長 錦 安 吉 殿

教育民生委員長 坂 上 長 十 郎

閉会中継続審査申出書

本委員会は、審査中の事件について左記により閉会中もお継続審査を要するものと決定したから、会議規則才六十八条の規定により申し出ます。

記

一、事 件

陳情才三三号 農業共済事業の市への移譲について

陳情才 一 号 有線放送の公共施設に対する電話架設費について

陳情才二三号 四日市港職業安定業務に対する補助金交付について

二、理 由

調査研究のため

昭和三十九年六月二十三日

産業経済委員長 伊 藤 泰 一

四日市市議會議長 錦 安 吉 殿

閉会中継続審査申出書

本委員会は、審査中の事件について左記により閉会中もお継続審査を要するものと決定したから、会議規則才六十八条の規定により申し出ます。

記

一、事 件

陳情才一三号 県道「別名」四日市線「山分、平津町区間交通緩和のための北迂回路線の建設について

陳情才一四号 日水中ノ町地区の上水道布設について

陳情才一六号 国道一号线諏訪交叉点付近における地下道建設について

陳情才一七号 芝田町内南北線道路の拡巾について

陳情才二三号 旧東海道富田西町地内の道路側溝新設について

陳情才二五号 戦災復旧事業区域内近鉄駅裏地区の事業推進について

陳情才二六号 地下横断道建設反対について

二、理 由

調査研究のため

昭和三十九年六月二十三日

建設委員長 藤 谷 祐 一

四日市市議會議長 錦 安 吉 殿

○議長（錦安吉君） 次に、監査委員より監査並びに例月出納検査の結果報告について、報告才六号ないし才二十六号の二十一件がまいっております。

お手元に配布いたしておりますので、それによって御了承願います。

以上をもちまして、本定例会の議事については、全部終了いたしましたので、会議を閉じ、昭和三十九年六月四日市市議会定例会を閉会いたします。

連日にわたりまして、日程を短縮いたしましたにもかかわらず、慎重御審議を賜わり、かつ御協力によりまして本日閉会をすることができましたことは、ひとえに各位の御協力のたまものでございます。まことに御苦勞さまでございました。ありがとうございました。

午後四時三十八分閉会

右、地方自治法才百二十三条才二項の規定に基づき署名する。

四日市市議会議長	錦	安	吉
署名議員	伊	藤	泰
署名議員	大	島	武
			雄

昭和三十九年六月 四日市市議会定例会会議録正誤表

頁数	行	正	誤
三二	一二	プラント	フランク
三三	二	昭和石油工場	昭和石油港工場
三五	一五	前回議会	前会議会
三六	七	導入	動入
六六	一三	割合	割合
七五	七	グリーンベルト	グリーンベルト
一〇七	二	方向まで	方向まで
一一九	七	処置するでは	処置するでは
一二〇	一六	年末の	年末の
一二一	五	建前	樹て前
一二五	一二	間違じやなかつた	間違じやなかつた
一四五	三	本部におきまして	本部におまして
一八〇	一〇	大義名分	大義明分
一八四	九	すつばく	酔く
一八七	一五	この問題からちよつと	この問題からよつと
一九四	五	それを	それを
二〇七	五	もう一つ	もう一年
二一五	七	修理ですね	修理すね
二一七	九	県からいゝだして	県からはゝだして
二一九	五	四千点台	四千点代
二二三	一七	ございましたが、	ございましたしですが
二二七	一二	三重県	三重権